

平成27年度

北  
広  
島

# ふるさと夢プロジェクト

## 事業報告書



平成28年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

# 目 次

1.	はじめに	1
2.	北平成 27 年度 北広島「ふるさと夢プロジェクト事業」実施計画	2
3.	3年の「北広島 お宝発見・体験ツアー」について	
	(1) 実施計画	6
	(2) 活動の様子	8
	(3) 児童アンケート結果	16
	(4) 児童作文	17
4.	4年の「若鯉(カール)を応援して、真っ赤に燃えよう」について	
	(1) 実施計画	34
	(2) 活動の様子	36
	(3) 児童アンケート結果	38
	(4) 児童作文	39
5.	6年の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	
	(1) 実施計画	60
	(2) 活動の様子	63
	(3) 講演会	67
	(4) 児童アンケート結果	70
	(5) 児童作文	79
6.	北広島「ふるさと夢プロジェクト事業」を振り返って	115
7.	終わりに	118

## はじめに

日本全体が人口減少局面に入っており、このまま何もしなければ今世紀末の2100年には日本の総人口は5,000万人を切り、現在の約40%に急減すると推計されています。我が国では「人口減少」というこれまで経験したことのないことがすでに始まっています。この状況に立ち向かうため、国は平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。東京圏への人口集中と地方の人口減少という現状のなか、地方創生がキーワードとなり、それぞれの地域が住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することが喫緊の課題となっています。北広島町は昨年10月に「北広島町人口ビジョン」と「北広島町総合戦略」を策定しました。「北広島町総合戦略」の施策の方向として4つの基本目標 ①心響くしごとづくりと産業の魅力発信 ②キタを体感する交流・定住と次代を担うひとづくりの推進 ③結婚・出産・子育てを幅広く応援する環境の整備 ④地域資源を生かした活力あふれる暮らしの創出 を設定し、北広島町としての地方創生を本格的に始めているところです。特に若者定住を主要施策に掲げ、全庁あげて定住対策に取り組むこととしております。私が町長に就任後の町政懇談会会場で町民の方からこのような話がありました。「私たちは子どもに対し、生まれたところで生活して欲しいとこれまで言って来なかった。人口減少については私たちにも責任がある。」将来の子どもたちの夢や目標を掴むようなことになってはいけませんが、私たちの思いを子どもたちに感じてもらうことは必要と考えています。「北広島ふるさと夢プロジェクト」はふるさとを愛する心と夢を育む教育を推進するということで、他の事業より先行し平成27年度から進めてきました。教育委員会では「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的に事業展開しました。本町で生活している子どもたちの中には、北広島町全体の良さや誇り得るものについて知らない面もあります。また同学年の交流もこれまでは不十分であり、多くの仲間がいることをこの事業をとおして感じてもらいたいと考えます。直ぐに結果がでるものではありませんが、北広島町のすばらしい～ひと・もの・こと～を子どもたちに伝え地道な活動をとおして、将来北広島町に住みたい、北広島町を支えたいと思う子どもたちが増えればと考えています。この報告書のアンケート結果から、私たちは間違っていないと感じています。今後も地域のみなさんのご協力をいただきながら、「北広島ふるさと夢プロジェクト」を進化発展させていきますのでよろしくお願いいたします。

平成28年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊  
隊長 箕野 博 司  
( 北 広 島 町 長 )

# 平成27年度 北広島「ふるさと夢プロジェクト」実施計画

## 1 「ふるさと夢プロジェクト」事業実施及び応援隊設置にあたって

### 目 的

**事業目的:**「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町では今年度から箕野町長がすすめる若者定住を主要施策として、全庁あげて定住対策に取り組むことにした。教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし、定住対策の関連事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町で「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い、子供たちに町の魅力を再認識させ、将来いにも対応し、先駆けとなるものとする。このプロジェクトを実施するにあたり、町全体で応援隊を組織し、企画立案や運営を行う。

**事業主体** 北広島町

**主 管** 北広島町教育委員会

### 組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・企画課・商工観光課の職員、教育委員会の職員

(本年度については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。

また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

### 【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	空田 賢治 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	総務課長	企画課長
	商工観光課長	藤田 典生 (中学校代表)
	佐々木 昭典 (小学校代表)	山本 準一 (豊平中学校)
	教育委員会職員	
事務局	石坪 隆雄 (事務局長)	佐々木 直彦 (事務局次長)
	沖中 満春 (事務局員)	

### 予算案

H26年繰越予算 3,500,000円 (教育費・小中一貫推進事業)

## 2 今年度の取組の基本方針・具体的な取組について (年度当初案)

町内の同学年が一堂に会して北広島町の「人・もの・こと」のすばらしさを学んだり、感動ある同一体験をすることで、ふるさとに誇りを持たせたり、町内には多くの友達がいることを認識させ仲間意識の醸成をさせたりする「夢・感動体験事業」と、各学校・地域ごとに、地域と一体となったふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育 (ふるさとへの愛着)」と、その基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育 (夢や目標、勤労・職業観)」を融合させた「ふるさとキャリア教育事業」を展開する。

ふるさとキャリア教育については、今年度各学校で計画を立てて、来年度より全面実施していく。



## 「夢・感動体験事業」の概要について

町内の3年以上の学年について、次の事業を実施する。

学校名	児童・生徒数													
	通常学級(男女別)													
	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
芸北小	7	4	6	10	2	9	7	7	9	8	9	12	40	50
大朝小	9	5	6	7	4	7	6	8	7	7	11	6	43	40
新庄小	5	3	3	5	8	6	6	4	4	8	14	7	40	33
川迫小	4	2	2	3	1	4	0	2	2	4	3	3	12	18
八重小	12	10	12	10	12	13	18	16	12	12	17	11	83	72
八重東小	9	15	11	9	11	11	7	9	7	12	8	8	53	64
壬生小	15	11	19	16	13	13	17	17	12	16	17	5	93	78
本地小	8	5	9	2	6	2	7	14	9	5	10	7	49	35
豊平小	18	13	6	10	7	13	6	15	5	9	8	18	50	78
合計	87	68	74	72	64	78	74	92	67	81	97	77	463	468
	155		146		142		166		148		174		931	

### ① 3学年－142名

ア 事業名 「北広島 お宝発見・体験ツアー」

イ 期日 7月27日(月)

ウ 事業概要

各学校の3年生が、町内のお宝を見学・体験する学習を立て、近隣の学校でいっしょにバスを利用して現地に行って、学習を行う。昼に、一箇所に集合して交流会をする。

エ 事業効果

- ・北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ぶことで、ふるさとに誇りを持たせることができる。
- ・昼食時に交流をすることで、町内の児童間の親睦を図ることができる。

オ 事業の実施に向けて・経費について

※近隣の学校で見学・体験学習の計画を立て、交流についての詳細は、担当者が計画を立てて各学校へ周知する。バスの手配については、町教委が担当する。

【主な経費】・バス代－児童輸送(大型3台・中型2台)

⇒学校への送迎は、保護者へお願いすることとする。

カ 応援隊への協力をお願い

- ※ 見学地・体験学習地でのガイド・指導  
昼食場所等の提供 等

### ② 4学年－166名

ア 事業名 「若鯉(カープ)を応援して、真っ赤に燃えよう」

イ 期日 8月9日(日) <試合開始 12:30～>

ウ 事業概要

豊平どんぐりクラブ屋台村で開催される「2軍 カープ×オリックス戦(12:30-試合開始[未定])」を、観戦してカープを応援する。事前に応援方法について計画を立てて、当日は創意工夫した一体感のある応援ができるようにする。また、主催のどんぐりクラブ屋台村を通してカープ球団にお願いして、始球式や試合後にカープ選手と交流・記念写真等を撮ってもらうようお願いする。

エ 事業効果

- ・プロ野球の試合、2軍カープ選手のひたむきなプロのプレイを目にすることで、児童に感動・夢を与えることができる。
- ・一体となった応援をすることで、児童間の親睦を図ることができる。

オ 事業の実施に向けて・経費について

※ どんぐりクラブ屋台村に交渉して、チケット(300円)を購入する。バスの手配については、町教委が担当する。

【主な経費】・バス代－児童輸送(大型2台・中型3台)

・チケット代金(300円)

⇒学校への送迎は、保護者へお願いすることとする。

カ 応援隊への協力をお願い

※ どんぐり村屋台村・カープ球団にお願いしているカープ選手との交流等ができるように支援をお願いする。

③ **5 学年－148 名**

ア 事業名 「雪祭り～北広島の冬を満喫しよう～」

イ 期日 2月初旬（2月4日〔木〕）

ウ 事業概要

芸北のスキー場等を会場に、雪像作りや雪遊び等を体験学習することで、北広島町の冬のすばらしさを体感させる。作った雪像は、広く公開してたくさんの方に見てもらおうようにする。

エ 事業効果

- ・雪像作りや雪遊びの楽しさを体験することで、ふるさとへの愛着を深める。
- ・体験活動を通して、町内の児童間の親睦を図ることができる。
- ・雪像を広く公開することで、スキー場への集客が期待できる。

オ 事業に実施に向けて・経費について

※ 詳細は今後検討

【主な経費】・各学校が利用するバス代（大型3台・中型2台）  
・会場利用代等

カ 応援隊への協力をお願い

※ 雪像ができて広く公開できる場所の提供  
雪集めのための地域ボランティアのお願い 等

④ **6 学年－174 名**

ア 事業名 「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

イ 期日 10月23日（金）

ウ 事業概要

千代田運動公園・アリーナを会場に、植松電気の植松勉氏を招いて、夢と感動ある講演会・ロケット作りを行う。

【日程案】 ■ 10：00～11：00 講演会  
■ 11：00～12：30 ロケット作り  
■ 13：30～15：00 ロケット発射

エ 事業効果

- ・講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶことができる。
- ・ロケットを作り発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めることができる。
- ・体験を通して、町内の児童間の親睦を図ることができる。

オ 事業の詳細（内容・予算）・実施に向けて

※ 10月23日（金）の開催について、植松電気の了解を得ている。

※ 千代田運動公園に、仮予約をお願いしている。

※ バスの手配については、町教委が担当する。

【主な経費】・ロケット代（一基 2800円）  
・講師1名の北海道からの旅費・宿泊費 等  
・各学校が利用するバス代（大型3台・中型3台）  
・会場利用代

カ 応援隊への協力をお願い

※ ロケット作りに係る製作ボランティア 製作のための長机の準備  
安全確保のためのボランティア 会場準備

# 3 年 北広島 お宝発見・体験ツアー



# 北広島ふるさと夢プロジェクト事業（3年）実施要項

## ～「北広島 お宝発見・体験ツアー」～

- 1 日 時 平成27年 7月27日（月） （雨天決行）
- 2 目 的
  - 町内各学校の3年生に、町内のお宝（ひと・もの・こと）を見学・体験させる学習計画を立て、北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとが好きになり誇りを持つことができるようにさせる。
  - 近隣の学校の児童といっしょに学習をさせたり、交流会に参加させたりすることで、児童間の親睦を図る。
  - 公共施設の利用など校外における集団行動を通して、一人一人に社会（集団）の一員としての自覚を持たせるとともに、社会における基本的な生活態度（マナーやルール）を身に付けさせる。
- 3 見学場所及び日程・参加予定児童と引率職員  
※別紙参照
- 4 事前・事後の取組
  - (1) 事前指導と連携
    - ①プロジェクトの趣旨を踏まえて、見学・体験学習の内容を決定する。また、見学先と目的について事前学習を行い、目的意識を持って参加させる。
    - ②車中・見学先でのマナーについて指導をしておく。
      - ・さわらない さわがない 走らない ・単独行動をとらない。
      - ・説明者の話をよく聞く。 ・必要な場合はメモをとる。
      - ・見学先でのあいさつ（はじめとおわり）と丁寧な言葉づかいをする。
      - ・車中では、「立たない」「騒がない」の指導をしておく。
    - ※学校間で連携して、座る場所等について協議しておく。
    - ③特別な支援を必要とする児童については、学校間で連携して事前の指導・対応を考えておく。
    - ④安全で効率のよい見学・体験学習にするために、事前に下見をしたり学習の内容について連携をとったりしておくようにする。
  - (2) 事後指導と事後の取組
    - ①実施後にアンケートを実施する。見学・体験したこと、学んだこと等を作文に書き、原稿用紙（3枚程度）にまとめる。
    - ②集団行動や見学のマナー、安全について振り返らせ、今後の生活に生かしていく。
    - ③次の内容の報告書を作成する。
      - 【内容】プロジェクトのねらい
      - 各グループの計画・実施の様子
      - ＜各グループ写真入りでA4で2枚程度にまとめる＞
      - 作文＜各学校2～3人＞
      - 実施後のアンケート結果
- 5 役割分担
  - 見学・体験先との渉外（各グループごと） ○バス会社と連携（豊平小＜佐々木＞）
  - 「見学のしおり」又は「見学ノート」（各グループで必要に応じて作成）
  - 教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（各学校）
  - 会計（バス、見学・体験費用等）（豊平小＜佐々木＞・町教育委員会）
  - 見学・体験先での進行・児童指導、健康管理・救急対応（各グループごとに担当者を決めておく）

## ○昼食・交流会での指導

### ・全体指導（◎豊平小・大朝小・新庄小）

⇒ 昼食は、豊平ウイングの2階で食べる。

昼食後の交流会は、豊平ウイングのアリーナで行う。

①学校ごとの「学校紹介〔3分〕」（各学校で事前指導しておく）

②交流ゲーム〔20分〕

③記念写真

※担当の3校で事前に打ち合わせと準備をしておく。

### ・報告書作成

⇒ プロジェクトのねらい（豊平小）

各グループの計画・実施の様子

各グループ写真入りでA4で2枚程度にまとめる。

※写真担当を決めておく＜全体の記念写真担当（◎豊平小・大朝小・新庄小）＞

※様式は、夏休みに入るまでに各学校へ送付

作文＜各学校2～3人＞

※学校ごとに指導して作成－9月中に作文を選んで豊平小へ送付

実施後のアンケート結果

アンケートの作成（豊平小）－事前に各学校へ送付

学校ごとに集計して、9月中に豊平小へ送付

## ○全体総括（豊平小－佐々木）

⇒各グループの管理職と緊急連絡が取れる体制を作り、円滑で安全なプロジェクトが実施できるようにする。

## 6 安全指導

○教職員は、児童の安全を確保できるように細心の注意を払う。特に、マムシや蜂等の被害を受けないように児童へ指導をするとともに、見学地の状況を事前に把握し必要な措置をしておく。

○随時、人数確認を行い、健康状況を把握する。

○見学先で、単独行動をさせず、グループで行動させる。

○不審者に声をかけられたり、連れ去られたりしそうになったら、大きな声を出すなど、具体的な行動の仕方を実態に応じて指導しておく。

○緊急事態発生の場合は、直ちに児童の安全を確保し、グループの管理職に連絡し指示を受ける。

管理職は、必要な対応をするとともに、町教委・該当児童の学校（校長）へ迅速に報告する。

学校ごとに救急バックを携帯し、軽傷についてはその場で処置をする。

○見学地等を考慮し、グループごとに判断して必要に応じて、緊急対応車を手配する。

## 7 その他

○雨天実施であるが、台風などの接近により荒天が予想される場合は、町教委と連携して中止とする。中止が決定され次第、保護者に迅速に連絡を入れる。

○夏休み中のため開校日扱いにはしないが、趣旨を保護者に理解してもらうようにし、できるだけたくさんの児童が参加できるようにする。事前に参加者を把握することとする。

○原則、児童は学校に集合し学校で解散することとするが、各学校の実態に応じて帰りに分散して降車することも可とする。その際は、保護者連携を丁寧にし、安全指導を徹底するようにする。



グループ	芸北小・豊平小	大朝小・新庄小	八重小・川迫小	壬生小	八重東小・本地小
見学場所等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テングシデ群落 北広島町田原灰谷</li> <li>○オオアサ電子株式会社 北広島町大朝 3817-10</li> <li>○古保利薬師 北広島町古保利 224</li> <li>○芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町有田 1234</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○芸北高原自然館 北広島町東八幡原 119-1</li> <li>○どんぐり庵 北広島町都志見 2609</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町有田 1234</li> <li>○古保利薬師 北広島町古保利 224</li> <li>○夢天文台アストロドリーム 北広島町今吉田 2591</li> <li>○テングシデ群落 北広島町田原灰谷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町有田 1234</li> <li>○古保利薬師 北広島町古保利 224</li> <li>○夢天文台アストロドリーム 北広島町今吉田 2591</li> <li>○テングシデ群落 北広島町田原灰谷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○J B北広島乗馬クラブ 北広島町川東 1309-3</li> <li>○テングシデ群落 北広島町田原灰谷</li> </ul>
日程	8:10 芸北小発 (集合 8:05) 8:50 豊平小 (集合 8:30) 9:30 テングシデ群落見学 [10:00 まで] 10:10 オオアサ電子株式会社 見学 [10:50 まで] 11:10 古保利薬師見学 [11:45 まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30 まで] 14:20 伝承館見学 [15:30 まで] 16:00 豊平小着 16:30 芸北小着	8:15 大朝福祉センター集合 8:30 出発 9:40 芸北高原の自然館等見学 虫・植物観察 [11:10 まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30 まで] 14:00 どんぐり庵 (そばうち体験) [15:45 まで] 16:30 最終降車場所 (町民体育館)	8:15 川迫小発 (集合 8:00) 8:30 八重小 (集合 8:15) 8:45 伝承館見学 [9:50 まで] 10:00 古保利薬師見学 [11:20 まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30 まで] 13:45 夢天文台アストロドリーム (太陽の黒点を見よう) [14:40 まで] 15:30 テングシデ群落見学 [16:00 まで] 16:30 八重小着 16:40 川迫小着	8:30 壬生小発 (集合 8:15) 8:45 伝承館見学 [9:50 まで] 10:00 古保利薬師見学 [11:20 まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30 まで] 13:45 夢天文台アストロドリーム (太陽の黒点を見よう) [14:40 まで] 15:30 テングシデ群落見学 [16:00 まで] 16:35 壬生小着	8:20 本地小発 8:30 八重東小 (国道沿い山田石油前) 8:50 J B北広島乗馬クラブ 乗馬体験 [11:00 まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30 まで] 14:00 テングシデ群落見学 [15:40 まで] 16:10 八重東小着 16:30 本地小着
経費	なし	そば打ち体験代 (児童25名) 22,500円<-人-900円>	夢天文台アストロドリーム講師料 (5,000円)		乗馬体験保険代 (児童30名) 15,000円
児童数 (在籍)	芸北小-11名 豊平小-20名 計-31名	大朝小-11名 新庄小-14名 計-25名	八重小-25名 川迫小-5名 計-30名	壬生小-26名 計-26名	本地小-8名 八重東小-22名 計-30名
児童数 (参加者)	芸北小-11名 豊平小-18名 計-29名	大朝小-11名 新庄小-13名 計-24名	八重小-25名 川迫小-4名 計-29名	壬生小-24名 計-24名	本地小-7名 八重東小-21名 計-28名
引率者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木昭典 (豊平小)</li> <li>・朽木伸幸 (豊平小)</li> <li>・金子真優 (豊平小)</li> <li>・河野靖昌 (芸北小) [計-4名]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮本早苗 (新庄小)</li> <li>・新木奈々子 (新庄小)</li> <li>・大久保明信 (大朝小)</li> <li>・寺川清美 (大朝小)</li> <li>・松尾典知 (大朝小) [計-5名]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖田 依子 (川迫小)</li> <li>・砂原 正樹 (川迫小)</li> <li>・佐渡 朋恵 (八重小)</li> <li>・佐柄加代美 (八重小) [計-4名]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・國本 美幸 (壬生小)</li> <li>・柳川 富美子 (壬生小)</li> <li>・渡邊 美穂 (壬生小) [計-3名]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗栖千賀子 (八重東小)</li> <li>・高槻 雄志 (八重東小)</li> <li>・玉井 貴枝 (本地小)</li> <li>・平田由利恵 (本地小) [計-28名]</li> </ul>
バス利用	33名 大型バスを利用 (豊平交通)	29名 中型バスを利用 (総企バス) ※降車希望 岩戸の記念碑前・からしろ館 北広島町図書館・ふるさと病院 わさーる産直館・町民体育館	33名 大型バスを利用 (大朝交通)	27名 中型バスを利用 (豊平交通) ※降車希望 道の駅・壬生小・小木次 旧南方小学校	21名 大型バスを利用 (八重交通) ※降車希望 万惣前・山田石油 石井谷入り口・下本地 千坊・本地市・本地・森藤 [計-4名]

## 「北広島 お宝発見・体験ツアー」の活動の様子

### 【豊平小・芸北小グループ】

豊平小・芸北小グループは、大朝テングシデ群落・オオアサ電子㈱・古保利薬師・芸北民族芸能伝承館の体験学習をしました。このツアーでは、北広島町の町木であり国の天然記念物でもあるテングシデを知ること、世界的に有名な円形状スピーカーを製造販売されている会社を知り、音を実感すること、北広島町に古くから残っている歴史や伝統芸能を知ることがねらいでした。

大朝のテングシデ群落では、目の前に広がるテングシデの木を実際に見ることで、自然の偉大さ・すばらしさを実感することができました。また、テングシデの由来を聞くことで想像を膨らませることができました。オオアサ電子㈱では、長田社長さんより円柱状スピーカーや車の部品に使われている特殊なガラスなどの説明を受けました。児童は、実際に映像と一緒に流された臨場感のある音に大感動。北広島町に世界に誇れる会社があることを知ることができました。古保利薬師では、平安時代に弘法大師により開基されたと伝えられる国指定重要文化財についての説明を受けました。その迫力ある仏像の姿に子どもたちは、興味を示していました。芸北民族芸能伝承館では、松井学芸員さんより北広島町の代表的な伝統芸能である神楽や田楽、昔の生活について説明をいただきました。神楽の道具や昔の道具を手にする事で昔の生活や伝統文化について考えることができました。

また、豊平小と芸北小でペアを組んでバスに座り、お互いの名前や学校での様子についての交流する姿が見られ、学校間の交流を深めることができました。

### 【テングシデ群落の見学（大朝）】



テングシデは、北広島町にしかないことが分かった。これからも大切にしていかなくちやいけない。  
テングシデの名前の由来や伝説が聞けてよかった。

### 【オオアサ電子㈱の見学（大朝）】

イタリア語で白鷺を意味する言葉「エグレッタ」という名前がつけられたスピーカー！迫力のある音が聞こえてきたよ。

車の部品などが作られていることを知ることができてよかった。





## 【古保利薬師の見学（千代田）】



重要文化財指定を受けている仏像を実際に目にする事ができて嬉しいな。

一本の木から掘り出した仏像に込められた想いや地域の人々が大切に受け継がれて守られてきたことが知れて嬉しいな。

## 【芸北民俗芸能伝承館の見学（千代田）】

北広島町に伝わる伝統や文化「壬生の花田植」「本地の花笠踊り」についてたくさん知れて嬉しいな。

神楽で使う大太鼓や小太鼓、蓑や笠を身につけたり、昔の道具を手にとったりすることができて勉強になったな。



最初は、お互いに緊張していましたが、全体交流を終えた頃からバスの中でも会話が増え始めました。最後には、お互いの名前を呼びあったり、趣味や学校で頑張っていることを交流したりしていました。

## 【大朝小・新庄小グループ】

大朝小・新庄小グループは、芸北高原周辺の散策や茅ぶき屋根の復元民家を見学、どんぐり庵でそばうち体験をしました。このツアーでは、町内のお宝（人・もの・こと）を見学・体験することを通して、北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ぶこと、ふるさとを好きになり誇りを持たせること、また、近隣の学校の児童と一緒に学習したり、交流会を持ったりすることで、児童間の親睦を図ることがねらいでした。

芸北高原自然館では芸北の虫・植物の観察をする予定でしたが、雨だったため、自然館の隣にある茅ぶき屋根の復元民家（山麓庵）を見学しました。白川学芸員さんから、茅という身近な材料で家の屋根を作った昔の人々の知恵のすばらしさや、電気のなかった時代の暮らしの様子などのお話を伺いました。児童は、茅ぶきの屋根の家に入ると外の音が全くしないことに驚いていました。その後、雨が上がり、“おーいの丘”に足をのぼしました。そこでは、思いっきり大声を出してやまびこの体験をしたり芸北の草花や鳥を見たりすることができました。芸北高原自然館の見学を通して、北広島町の自然の心地よさを実感することができました。

そばうち体験学習では、道の駅どんぐり村・そば道場でそば打ち有段者の方に丁寧に教えてもらいながら、豊平産のそば粉を使ったそば打ち体験をしました。児童は、「むずかしい。」と言いながらも班の仲間と力を合わせてそば打ちを楽しんでいました。完成後は自分たちで打った、打ちたてのそばを食べて、「すごく美味しい。」と喜んでいました。達成感を感じながら豊平流のそば打ちについて学ぶことができました。

バスの中では、自己紹介やクイズ等を通して和気あいあいの様子で、学校間の交流を深めることができました。

### 【芸北高原の自然館見学（芸北）】

山麓庵



茅ぶき屋根の復元民家の見学

茅ぶき屋根って雨漏りしないのかなあ。中はどうなっているんだろう。

雨漏りもしないんだって。  
夏は涼しくて、冬は暖かいなんて、茅ぶき屋根の家ってすごいね！



寝転んで天井を見ながら、家の中の静けさを体感している様子





やまびこ体験

「おーいの丘」でやまびこを体験したよ。  
よく響いて楽しい！  
芸北には自然がいっぱいだね。  
ヤッホー！ ヤッホー！ ヤッホー！

### 【そば打ち体験（豊平）】

そば粉は、そばの実からできるそうです。皮をきれいにむき、石うすでじっくりていねいに、実の中心の白いところだけをひくのだそうです。だから、豊平のそばは白いのですね。

「そば打ち」って思っていたより大変だなあ。  
みんなで協力して、  
美味しいそばを作るぞ～！



めん棒で、生地を薄く延ばしている様子

そばを延ばすときには、めん棒を転がしながら、左右に手を広げたり、せばめたりするんだよ。ねこの手を忘れないようにと教わったよ。  
「そば打ち」の先生から、「上手だね。」と、ほめられちゃった。



「そば打ち」の先生と一緒に生地をめん状に切っている様子

そばを切るのはすごくむずかしかったです。  
太くなったり、細くなったりしたけど、ゆでてもらって食べたそばは、最高においしかったです。

大変だったけど、貴重な体験をすることができて、楽しかったです。



閉会式で、お世話になったそばうちの先生方にお礼の挨拶をしました。



## 【壬生小・八重小・川迫小グループ】

壬生小・八重小・川迫小グループは、「芸北民俗芸能保存伝承館」「古保利薬師」「夢天文台アストロドリーム」「テングシデ群落」の見学を通して学習をしました。このツアーでは、北広島町に古くから残っている伝統芸能や歴史を学ぶこと、天体について興味や関心を深めること、自然の偉大さを実感することが、ねらいでした。

芸北民俗芸能保存伝承館では、北広島町に残る稲作の暮らしと民俗芸能について、松井学芸員さんより「壬生の花田植」「本地の花笠踊り」などの説明を受けました。神楽で使われる大太鼓や小太鼓をたたいたり、蓑や笠を身につけたり等、体験させていただき、先人の思いを感じることもできました。

古保利薬師では、収蔵庫に安置されている仏像や裏山にある古墳群について説明を受けました。

古保利薬師には、地域の人々の思いや願いが込められて、平安時代から大切に受け継がれ守られてきたことを学ぶことができました。

夢天文台アストロドリームでは、天文台を造られた中尾さんより星や望遠鏡の説明を受けました。

児童は、実際に見せていただいた直径30cmの光学望遠鏡の大きさや天文台の球形のドームが360度回転することに驚いていました。

大朝のテングシデ群落には、世界でここにしかない幹や枝がねじれたイヌシデが100本以上もありました。テングシデを目の前にして幻想的な世界の中で説明を聞き、北広島町で大切にされている自然のすばらしさを実感することができました。

## 【芸北民俗芸能伝承館の見学（千代田）】

これまで、壬生の花田植では、きれいに飾られた牛ばかりを見ていたけど、牛を追う人が、後ろから綱を引っ張って、牛の動きを調節していたなんて初めて知ったよ。すごい技だね。



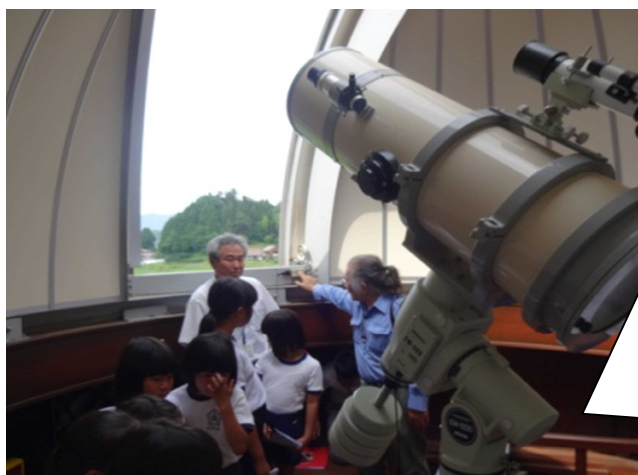
いろいろな地方に田楽が伝わっていたんだね。衣装も、その土地その土地によっていろいろ違ってたと教えてもらったよ。明るい踊りもあれば、暗い踊りもあるなんて不思議な感じがするね。

### 【古保利薬師の見学（千代田）】



平安時代に作られた仏像が現代まで大切に残されてきたこと、1本の木から仏像が彫られていることに大変驚くとともに、仏像の表情をしっかりとらえ、お気に入りの仏像を見つけました。裏山には古墳群があることを初めて知り、実際に見学し説明を受けることで、理解を深めようとしていました。

### 【夢天文台アストロドリームの見学（豊平）】



曇天のため、太陽の黒点の観察ができず、今回は望遠鏡についてお話をさせていただきました。実際に、球形ドームの内部に入ることができました。ドームの開閉や回転の様子を直接見ることができ大歓声があがりました。また、日本で最大規模の屈折天体望遠鏡を設置する工事中であり、北広島のお宝となるその望遠鏡本体を見ることができました。この望遠鏡を通して、天体観察ができる日が待ち遠しく思います。

### 【テングシデ群落の見学（大朝）】



テングシデの木は、太いのにぐねぐねしていて、すごいなと思いました。ぐねぐねしているのは、テングの仕業だと言われているそうです。

テングシデは、天然記念物だということが分かりました。テングがテングシデの木の上で寝ていると、昔から言い伝えられていることも分かりました。

テングシデの木は、一つ一ついろいろな形があり、おもしろかったです。



## 【八重東小・本地小グループ】

八重東小・本地小グループは、J B北広島乗馬クラブでの馬とのふれあい体験、大朝テングシデ群落の見学をしました。

このツアーでは、町内の同級生とともに北広島町の素晴らしい自然にふれ、豊かな体験をすることを通して、ふるさとのよさを実感し同郷の友だちとのつながり作るとともに、車中や見学先でのマナーやルールを身につけさせることがねらいでした。

J B北広島町乗馬クラブでは、スタッフの佐藤さんより馬と触れ合うときの注意事項を聞いた後、馬に乗せてもらいました。はじめは不安そうにしていた子どもたちでしたが、ていねいな指導のもと全員が乗馬にチャレンジし、屋内馬場を一周し終わるころには笑顔で楽しむことができました。

その後は、厩舎で20頭あまりの馬を見学したりスケッチをしたりして過ごしました。佐藤さんの馬の話や馬との触れ合い方を通して、佐藤さんが馬のことを良く知り、大切にされていることがよく分かりました。

町内全部の小学校が集まる全体会では、たくさんの同級生がいることに驚き、少し緊張気味の交流会でしたが、知らない友達とのドキドキするレクリエーションは心に残るものとなりました。

午後は、大朝のテングシデ群落の見学に行きました。教育委員会生涯学習課の田辺さんにテングシデの名前の由来やそのすばらしさ、地域の人たちが大切に守っておられることなどについてお話を聞きました。その後、思い思いの場所でテングシデのスケッチをしました。短い時間でしたが、みんな一心にクレヨンを動かし、思いの詰まった作品を仕上げていました。雨上がりで蒸し暑く疲れも出る時間帯でしたが、大自然のパワーのせいなのか不思議と心の静まる穏やかなひと時でした。

帰りのバスの中では、新しい友達との会話も弾み、再会を楽しみに帰途に着きました。

## 【J B北広島乗馬クラブ（千代田）】



馬に乗るとき背筋を伸ばして乗るように教えていただきました。友達が背筋を伸ばして乗っているのを見ると本当にかっこよく見えました。

馬の目はとても大きくてきれいでした。ぼく達を乗せてくれたお礼に鼻のところになでました。手に馬の温かさが伝わりました。





最後にみんなで記念撮影をしました。外の馬場には、馬が跳んだりするところがありました。今度は馬が跳んでいるところを見てみたいと思いました。

### 【テングシデ群落の見学（大朝）】



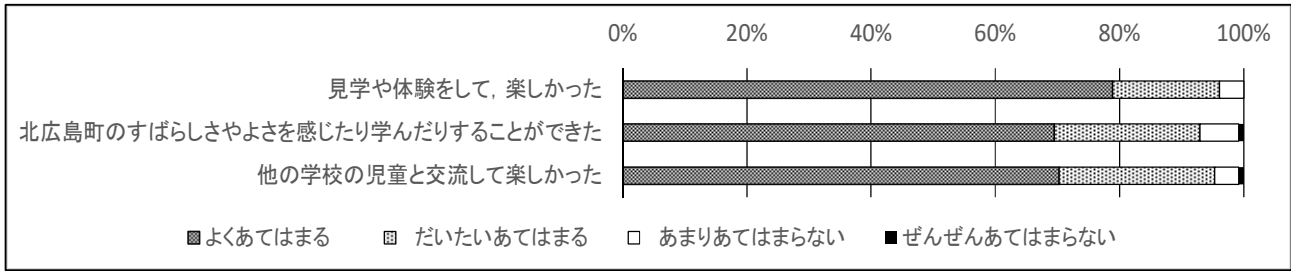
写真で見たものより、本物のテングシデはとて大きな木でびっくりしました。ここにしかない木なので、大切に守っていかないといけないと思いました。今度は家の人といっしょに来てみたいです。



お気に入りのテングシデを選んでスケッチしました。絵に描こうと思ってテングシデをよく見てみると、どの枝もグニャグニャ曲がっている様子がよく分かりました。本当に天狗が出てきそうだなと思いました。最初は友達と話しながら描いていたけど、だんだん静かになってみんな一生懸命に描いていました。



## プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果



### 今日一日で、特に心に残っていることは、どんなことですか。

<b>芸北小学校</b> ① 友達ができたこと（話ができた、遊んだ）(6) ② テングシデのこと（ぐねぐねしていた、てんぐみたい）(2) ③ オオアサ電子のこと（スピーカーで音が聞けた）(1) ③ 伝承館のこと(1) ③ 学校紹介の前に何度も心で練習したこと(1)	<b>大朝小学校</b> ① そば打ち体験をしたこと(9) ② ほかの学校のひとと話をしたこと(2) ③ 自然館に行ったこと(1)
<b>新庄小学校</b> ① そばうち体験をしたこと(8) ② 交流会で他の学校の児童と「もうじゅうがりにいこうよ」をしたこと(2) ③ ①と②両方(1) ③ かやぶき屋根の家に入ったこと(1) ③ テレビの取材でインタビューされたこと(1)	<b>川迫小学校</b> ① 他の学校の児童と交流できてよかったこと(3) ② テングシデのえだが、ぐにやぐにやしていてよかったこと(1)
<b>八重小学校</b> ① テングシデを見て、すごく曲がっていてびっくりしたこと(7) ② 他の学校のひとともうじゅうがりをして楽しかったこと(6) ③ 町内のいろいろなことが学べて、楽しかったこと(5) ④ 夢天文台で、望遠鏡を見せてもらえたり、星のことが分かってよかったこと(4) ⑤ 伝承館で色々な道具のことが分かったこと(3) ⑤ 伝承館で、大だいこや手うち鉦をさわらせてもらえてうれしかったこと(3) ⑥ 古保利薬師で、大きい仏像があったり、古墳があったりしたこと(3) ⑥ かざり牛のいしょうがすごかったこと(1) ⑥ もうじゅうがりで、他の学校の友達がさそってくれてうれしかったこと(1) ⑥ 学校紹介で、他の学校のことが分かったこと(1)	<b>壬生小学校</b> ① 夢天文台に行って、写真を撮る望遠鏡がすごかったこと。望遠鏡は、いろいろなことができてすごかったこと(11) ② テングシデ群落が国の天然記念物に登録されていたこと。テングシデという木を初めて見て、木の枝がぐにやぐにや曲がっていたこと(5) ③ 伝承館で楽器などいろいろなものを見たり、花田植や神楽のことを教えてもらったりしたこと(4) ③ 弁当を食べた後、違う学校のひとと交流をして仲よくなったこと。また、ほかの学校の発表を見て、友だちの顔を少し覚えることができたこと(4) ④ 北広島にはいいところがいっぱいあること(1)
<b>八重東小学校</b> ① ゲームやバスの中で他の学校のひとと友達になれたこと(9) ② 乗馬クラブで初めて馬に乗ったこと(6) ③ 授業で写真を見ていたが本物のテングシデを見て感動したこと(4) ④ みんなといっしょにお弁当を食べたこと(3)	<b>本地小学校</b> ① テングシデを初めてみて、ぐねぐねした枝がすごかったこと(5) ② 乗馬クラブで馬に乗れてうれしかったこと(3) ③ 他の学校の児童と交流できてよかったこと(2)
<b>豊平小学校</b> ① 伝承館で色々な体験が出来たこと(6) ② 他の学校の児童と交流できたこと、友達がたくさんできたこと(5) ③ オオアサ電子(株)で自動車の部品が触れたり、映画の音楽が聴けたりしたこと(3)	④ テングシデ群を地域の人が守っていることを知れたこと(2) ④ 色々な場所を見学できて、勉強できたこと。(2)



## プロジェクトを終えての「児童作文」

### おたから発見・体験ツアー

芸北小学校 東條 和乃

27日におたから発見体験ツアーに行きました。まず、豊平小学校に行きました。豊平小学校の3年生をのせて、テングシデに行きました。わたしは、テングシデは当たり前にある木だと思っていました。何年か前までは、自由にさわっていたけど、今は木のことを思っ  
て、さわったりしないで見るだけでした。わたしは、「4年ぐらい前にここに来たかもな。」  
と思いました。帰ってかあちゃんに

「わたし、テングシデに行ったことある？ない？」

と聞きました。すると

「あるよ。」

と教えてくれました。

テングシデの次に、オオアサ電子かぶ式会社に行きました。ここでは、スピーカーやほ  
ごガラスを作っているそうです。スマートフォンは、画面がガラスです。だからわれま  
すが、ほごガラスが守ってくれます。スピーカーは音を聞くきかいです。わたしは、スピー  
カーを使う場所は家や学校ぐらいだと思っていたけど、船などでも使われているそうです。  
この会社で作られているスピーカーは、全方向から音が聞けます。そして、出にくい音も  
出すことができます。最後に、えい画の音を聞かせてもらいました。はっきりとした音で  
した。

古ほり菓では、ぶつぞうがたくさんありました。中には、うでが片方ないものもあり  
ました。また、大きいのも小さいのもありました。

次に、豊平ウイングに行きました。おべんとうを食べました。大好きな物が入っていた  
ので、すごくうれしかったです。学校しょうかいの前に、むねをさわったら「ドクン、  
ドクン。」となっていました。ゲームでは、とってもなかよしになれた人もいました。

芸北民ぞく芸能保ぞん伝しょう館で学んだことは、花田植えで牛が土をたがやすという  
ことです。牛がいうことをきくように、どう動けばいいかをたずなを使って教えていたそ  
うです。牛が背中にのせているのは、コットイぐらとオナミぐらです。昔は、毎日牛を使  
っていたそうです。最後に、昔の道具を見たり体験させてもらいました。道具は、びっく  
りするほどありました。時間がたつと物が変わっていくことがおもしろいと思いました。

### お宝発見・体験ツアーをやって

芸北小学校 吉村 朱稀良

7月27日に北広島町の3年生の人と、お宝発見・体験ツアーがありました。まず最初  
に、大朝のテングシデを見に行きました。わたしは初めてなので、ドキドキわくわくしま  
した。ちゅう車場に着くと、また200m歩きました。するととちゅうで、大きなぐちゃ  
ぐちゃにからまった木がありました。ガイドのまき原さんに聞くと、

「これがテングシデの木だよ。」

と教えてくださいました。木はたくさんありました。まき原さんの小さいころとくらべる

と大きくなったそうです。

次に、オオアサ電子かぶ式会社に行きました。そこでは、スピーカーなどをつくっています。車にあるメーターのえきしょうパネルをつくっているそうです。それを実際に見せてもらいました。かたくてガラスみたいでした。最後にスピーカーのエグレッタのことについて教えてもらいました。エグレッタは全部の方向から音が聞こえてきて、他のスピーカーとはちがうものでした。音がとてもすごかったです。

次に、古保利薬師に行きました。そこには、木でつくられた仏像がいっぱいありました。これは、平安時代の1200年前からずっと残ってきた広島の宝なんだそうです。わたしも、ものを大切にしたいなと思いました。

昼に北広島の3年生が集まって交流会をしました。みんなで「もうじゅうがり」をやりました。その時友だちになったのが、横谷さん、せ戸君、も川君です。3人友だちができてよかったです。

最後に芸北民ぞく芸能保ぞん伝しょう館へ行きました。そこでは、花田植えのことやかぐらのことについて教えてもらいました。まず、花田植えのことについて教えてもらいました。牛が田の土をまぜたりしていたそうです。牛の背中につけるものは、オスはコトイぐら、メスはオナミぐらだそうです。その中には、かくしはこみみたいなものがあり、ひもが切れた時のために、ひもが入れてあったそうです。かぐらの体験では、小太こ、大太こ、手打がねをしました。他にも、昔の道具で、しょく台、うどん作り機、竹馬、百タンスなどがありました。とても楽しかったです。また、機会があったら行きたいです。

## 北広島町、やっぱり大好き！

芸北小学校 尾崎 さくら

今日、お宝発見・体験ツアーに行きました。

まず最初に、「大朝テングシデ」を見に行きました。心に残った事は四つあります。一つ目は、テングシデが国の天然記念物だということです。これには、とってもおどろきました。二つ目は、木を守るためにかこいがしてあって、中に入れなくしてあることです。わたしは、「国の天然記念物だからだろうな。」と思いました。三つ目は、みきの太さが3メートルもある木があるということです。これにもおどろきました。四つ目は、4メートルもある木があったということです。それは台風でたおれてしまったそうです。そんな大きな木を見たかったなと思いました。また今度、行ってみたいなと思いました。

次に、「オオアサ電子株式会社」に行きました。主に、スピーカーなどをつくっているそうです。スピーカーは、ふつうではない音が出ていました。2011年にたん生したそうです。他にも「えきしょう」をつくっているそうです。えきしょうは、ガラスのようなものでできていて、ハンマーでたたいても、あまりわれないそうです。主に、車のえきしょうをつくっていました。すごいなと思いました。

次に、「古保利薬師」に行きました。12の仏像が国の重要文化ざいになっているそうです。仏像は、1200年前の平安時代につくられました。これまで残っているのは、みんなが守っていたからだそうです。手がとれているものもありました。手のはめこめ式で、持ち出したり、川に持って行ったりしていたからだそうです。わたしは、「仏像を川に持ち

出して遊ぶのはいけないな。」と思いました。

次に「豊平どんぐり運動公園」に行きました。まず、昼食を食べました。次に、学校しょうかいをしました。いろいろなしょうかいがあり、みんなよく覚えて発表しているなどと思いました。そして、「もうじゅうがり」というゲームをしました。わたしは、3回グループがつかれませんでした。特に最後の「北広島町大好き3年生」の16文字がむずかしかったです。

最後に、芸北民ぞく芸能保存伝しょう館に行きました。分かったことは五つありました。一つ目は、花田植えの牛は、のんびり屋さんで音がこわいということです。二つ目は、ひもで、左右、前、止まれが分かるということです。三つ目は、牛をかう人でそれぞれひもの使いかたがちがうということです。四つ目は、牛の背中にのせるかざりが、コットイぐらとオナミぐらがあるということです。五つ目は、そのくらくらにかくし部屋があることです。そのかくし部屋には、予備のひもなどが入っていたそうです。わたしは、一度本物の花田植えの牛が見たいと思いました。

この見学の中で、わたしはお友だちができました。前さん、さこだ君、よこたにさんの3人です。3人とも豊平の人です。また、会えたらいいなと思いました。

## 楽しかったお宝発見・体けんツアー

大朝小学校 日高 瑠香

7月27日に、北広島町の3年生が集まるお宝発見・体けんツアーがありました。わたしたちは、新庄小学校の3年生といっしょにバスに乗って行きました。

さい初に、芸北のむかしの家をさいげんしたところに行きました。中は真っ暗だったけど、時間がたったら見えるようになりました。たくさん部屋がつながっていて、とても広かったです。馬小屋も家とつながっていたのでびっくりしました。ふつうだったら外にあるのに、家の中にあるので、雪がたくさんふるからかなと思いました。

次に近くの山にのぼりました。そこは、「おーいのおか」とよばれていて、大きい声でさけぶと、ひびくと言われていました。男子たちが、

「おーい。」

とさけぶと、山びこのようにひびいていました。

お昼に、どんぐり村の体育館でお弁当を食べました。それから学校しょうかいをしました。たくさんの人たちがいる前で発表するのは、ちょっとはずかしかったです。ゲームのときに友達ができたらいいなと思って、話そうとしたけどできなくてざんねんでした。今度みんなで集まる時には、話しかけて友だちをつくりたいと思います。

さい後に「どんぐりあん」で、そば打ち体けんをしました。そばこに水をまぜてまるいかたまりにしてから、のぼしました。たたんで切る時、はばが広くなったり細くなったりして、むずかしかったです。なれてきたら、かんたんでした。切ったものをゆでてもらって食べたら、ちょっとかたかったけどおいしかったです。

北広島町には、いろいろ体けんできる場所があって、楽しかったです。



## 友だちができたお宝発見ツアー

大朝小学校 芥子田悠香

今日、お宝発見ツアーに行きました。

さい初に出発式がありました。新庄小学校の校長先生がめあてを言われたので、やってみようと思いました。

次に、自然科学館に行って、むかしのくらしを体けんしました。むかしのくらしは電気がないので、ろうそくをつけて明るくしたり、わざとくらくしてパーティーをしたりしていたことを知ることができました。

次にどんぐり村に行って、お弁当を食べました。ゲームで「もうじゅうがりに行こうよ」をしました。友だちが3人いじょうふえるかしんぱいでした。でも、自分からすすんで話しかけました。すると友だちがふえました。

さい後にそば打ち体けんをしました。わたしは、初めてするので本当にうまくできるかしんぱいになったけど、上手にできたし、のばすところを「上手だよ。」と言ってもらえてよかったです。

今回はじめての体けんをしたり、むかしのくらしを学んだりすることができたので、わたしはまだまだ、いろいろなことを知りたいと思いました。また、行ってみたいです。

## 楽しかったお宝発見・体けんツアー

大朝小学校 白砂 歩乃佳

7月27日に、お宝発見・体けんツアーがありました。

まず、「かわすみ」の横にある、ふくしセンターでバスに乗りました。

次に、むかしのくらしや、自然を調べにげい北へ行きました。教えてくださったのは、白川さんです。家の中を真っ暗にしたので、はじめは何も見えなかったけれど、目がなれてだんだん見えてくることが分かりました。山に登って大声を出したら、谷までとどくということも分かりました。

またバスに乗ってどんぐり村まで行き、お昼ごはんを食べました。おいしくてたまりませんでした。その後、自分たちの学校のしょうかいをしました。わたしたちは、今調べている吉川元春のことをしょうかいしました。ゲームは「もうじゅうがり」でした。友だちができましたが、名前がおぼえられなかったのでざんねんでした。こんど、このような行事があったらかならず名前をおぼえたいなと思いました。

次に、体育館からおりて行って、そばうち体けんをしました。そばこをねるところ、切るところを力をぬかずにやって、さい後に食べる時、

「おいしい。」

と、言えるようにと思いながら作りました。

食べたときに、

「おいしい。」

と言えたので、がんばってよかったなあと思いました。力をぬかずにねったり、切ったりしたからおいしいかったのだと思います。

初めてのお宝発見・体けんツアーだったけど、やってよかったなあと思いました。

## ふるさとゆめプロジェクトにさんかして

新庄小学校 山田 純

7月27日に3年生のふるさとゆめプロジェクトに行きました。まず、げい北高原に行きました。げい北高原では、白川先生の話聞いて、むかしの人びとのくらしの知えを知りました。ぼくは、白川先生から話を聞くまでは、今の家の方がむかしの家よりいいなと思っていました。白川先生は、ぼくたちにかやぶき屋根の家は、雨の音がしないことを教えてくださいました。また、夏はずずしくて、冬はあたたかいということも教えてくださいました。話を聞いて、むかしの家の方が住みやすいなと思いました。

かやは、ただの草なのに、何じゅうにもかさねて使っているの、むかしの人はすごいなと思いました。

次に、どんぐり村でそばうち体けんをしました。教えてくれた名人は、作るのが早ければ早いほどおいしくなると教えてくださいました。ぼくたちは一回作るのに一時間い上も時間がかかったけれど、教えてくださった名人は、20分で作れると聞いたのでびっくりしました。おいしいそばが、たくさん手間をかけて作られているので、すごいなと思いました。

北広島町の宝は、人がやさしくて、しぜんがたくさんあることです。しぜんや、れきしなどを今からまもって行って、もっとしぜんをふやしていきたいなと思っています。

ぼくには、北広島町に住んでいないおじいちゃんとおばあちゃんがいます。もっと、北広島町のことを知って、おじいちゃんとおばあちゃんに教えてあげたいです。

## 3年生ゆめプロジェクト

新庄小学校 大島 夕奈

7月27日に、3年生ふるさとゆめプロジェクトがありました。さいしょに、大朝小学校の3年生といっしょに、げい北高原にあるかやぶき屋根の家に行きました。中に入ってみると、すごくすかでした。かややすすきを使って屋根を作っていて、くぎを一本も使っていないと聞いてすごいなと思いました。屋根うらがあったので、入ってみたかったです。かやぶき屋根の見学が終わり、外に出て、「おーいのおか」へ行きました。「おーいのおか」に着くと、今まで見たことのないちょうちよが見られました。「おーいのおか」では、みんなで山びこ体けんをしました。自然館の白川先生から、「ここで、『おーい』とさけぶと自分の声が返ってくるんだよ。」と聞いたので、「おーい。」とさけんでみました。すると、本当に声が返ってきたので、びっくりしました。

次に、豊平ウィングに行きました。そこでは、北広島町の3年生が集まって、学校しょうかいやゲームをしました。学校しょうかいで、少しまちがえてしまったけど、何とかさいごまでできたので、よかったと思いました。ほかの小学校のしょうかいで、じ書でたくさん言葉を調べている学校があったので、すごいなと思いました。その後、みんなでもうじゅうがりをしました。ほかの学校の人たちといっしょにやって、少しなかよくなることができました。

さいごに、豊平そばうち道場でそばうち体けんをしました。そばことこむぎこをまぜるところからはじめました。まぜる作ぎょうはかんたんでしたが、次の作ぎょうからだんだ

んとむずかしくなりました。こねる作ぎょうは、こね方にコツがあるのでむずかしかったです。生地を切る作ぎょうは、細く切ることがむずかしくて、太いめんになってしまいました。むずかしかったけど、みんなで協力してかんせいすることができました。できたそばをゆがいてもらって、食べてみるとすごくおいしかったです。テレビの人にインタビューされたので、きんちょうしました。

ふるさとゆめプロジェクトの中で一番楽しみにしていたのは、そばうち体けんだったので、体けんできてうれしかったです。また行きたいです。

## 楽しかったふるさとゆめプロジェクト

新庄小学校 橋本 紗季

7月27日に、3年生ふるさとゆめプロジェクトがありました。はじめに、大朝小学校の3年生といっしょにバスにのって、げい北高原に行きました。げい北高原には虫や植物のことにくわしい白川先生がいました。みんなでかやぶき屋根の家に入り、白川先生のお話を聞きました。白川先生のお話でおどろく事が三つありました。

一つ目は、かやぶき屋根の家の屋根うらで、「かいこ」というがをかっているということです。おどろいた理由は、がをかうなど今まで聞いたことがなかったからです。さらに、がのさなぎの糸でぬのができるということをはじめて知りました。

二つ目は、かやぶき屋根の家の中は、雨の音が聞こえないということです。みんながだまって静かにしていても、外の音が聞こえなかったので、かやぶき屋根の家ってすごいなと思いました。

三つ目は、かやぶき屋根の家に住んでいたむかしの人は、電気のないらしをしていたということです。夜はろうそくをつけて過ごしていたことや、たい風の時は何もせずに家の中でじっとして、たい風がやむのをまっていたと聞いて、おどろきました。

げい北高原で知らなかったことをたくさん知れて、とても勉強になったし、楽しかったです。

次に、とよ平ウィングに行きました。そこでは、北広しま町の小学3年生が集まって学校しょうかいや、もうじゅうがりをして遊びました。もうじゅうがりをしている時に8人も友だちができて、とてもうれしかったです。みんなやさしくて、話しかけやすかったです。

さいごに、大朝小学校の3年生と、とよ平そばうち道場でそばうち体けんをしました。このふるさとゆめプロジェクトで一番楽しみにしていたのがそばうち体けんだったので、「まだかなあ」とわくわくしながらまっていました。そばうちは、わたしが思っていたよりもむずかしかったです。そばうちの先生に教えてもらったり、大朝小学校の人たちや先生と協力したりして作ることができました。お店のそばもおいしいけど、自分たちで作ったそばは、とくべつにおいしかったので、そばうち体けんをしてよかったです。今回のそばうち体けん、とよ平そば道場の「入門のあかし」をもらいました。次は、じゅんしょだんです。四だんで名人なので、四だんになるまでやってみたいと思いました。

ふるさとゆめプロジェクトで新しい友だちもできたし、北広しま町のことをたくさん知れてよかったです。北広しま町のことが今までよりももっと好きになりました。

## ゆめプロでお宝発見ツアー

川迫小学校 新宅 萌華

ゆめプロでお宝発見ツアーに行きました。

わたしが一番楽しかったのは、でんしょう館でした。でんしょう館には、昔のものがあっていろいろなことを知ることができたからです。昔のものは、手作りでもいいなと思いました。私は、昔のものがつかってみたいです。でも、自分の力で動かしたりしないといけなので、昔の人はたいへんだっただろうなと思いました。

古保利やくしにも行きました。古保利やくしに行って仏ぞうを見ました。こわい顔をした仏ぞうもあれば、面白い仏ぞうややさしそうな仏ぞうもありました。ほかにも小さいのや大きいのもありました。私は、ずっと昔に作られた仏ぞうがよく残っていたなと思いました。

午後からは、アストロドリームやテングシデに行きました。アストロドリームでは、ぼうえんきょうを見せてもらいました。ドームもゆっくり動くことがわかりました。大きなぼうえんきょうもできると聞きました。できたら月や星を見たいです。とても楽しみです。

テングシデは、ぐにゃぐにゃとえだがまがっていました。てんぐがいたという言いつたえがあるというお話を聞きました。わたしは、少しこわくなりました。でも、北広島町の木になるくらい大切なものだとわかりました。

たくさんの北広島町のお宝をじっさいに見ることができて、楽しい1日になりました。今度、お父さんやお母さんといっしょに行ってみたいなと思いました。

## お宝発見・体けんツアー

川迫小学校 水川 乃音

7月27日、お宝発見・体けんツアーに行きました。

さいしょは、でんしょう館の見学に行きました。入って見ると花田植に出る牛や花田うえをする人のてんじがありました。本物みたいだと思いました。昔の道具もたくさんありました。その道具は、電気ではなくて人の力で動かしていました。

次は、古保利やくしへ行きました。たてものの中に入って見ると、昔つくられたぶつぞうがたくさんならんでいて、なんだか、昔の世界に行ったように感じました。

その次は、夢天文台アストロドリームの見学に行きました。お家に入ってみると4かいだてでした。ぼうえんきょうのお話を聞いた後、4かいに行くと、大きなぼうえんきょうがありました。ドームを開けてもらいました。ドームがゆっくり回りびっくりしました。ぼうえんきょうのしゅるいは、たくさんあるそうです。たとえば、「でんばぼうえきょう」や「こうがくぼうえんきょう」などです。

「もうすぐ、大きなぼうえんきょうで星を見ることが出来るよ。」と、教えてくださいました。わたしは、早く星を見たいなと思いました。

さい後は、テングシデの見学に行きました。森の中に入って見ると、たくさんのテングシデが、ありました。ふしぎな気持ちになりました。昔から、テングシデを大切に守ってきていることを知りました。これからも、守っていかないといけないお宝だと思います。また、行きたいです。



友達も二人できて、とても心にのこる一日になりました。

## ひみつがいっぱい北広島町

八重小学校 増本 武士

三年生全員で、おたから発見・体けんツアーに行きました。行ったところは、げい北みんぞくげいのう伝しょう館、古おりやくし、とよひらどんぐり運動公園、ゆめ天文台アストロドリーム、大朝テングシデです。この中で、楽しかったところを三つしょうかいします。

一つ目は、げい北みんぞくげいのう伝しょう館です。ここで学んだことは、花がさおどりのかぶり物を一から手作りしていたことです。かぶり物のざいりょうの竹の部分は、作る人が一人しかいないそうです。かざりの花の部分はわ紙でできていることを知りました。また、かぐらの大だいこ、小だいこ、手うち金をじっさいに音を出すことができるコーナーがありました。このように、げい北みんぞくげいのう伝しょう館は、いろいろな体けんができて、いろいろなことを知ることができるすばらしいところでした。

二つ目は、とよひらどんぐり運動公園です。運動公園で、はじめにお弁当を食べました。一番おいしかったのは、「おにぎり」でした。麦茶を飲みながら食べる味はさい高でした。お弁当を食べおわったら、みんなで集まって学校しょうかいをしました。ほかの小学校も発表のれんしゅうをすごくしていることが伝わってきました。とくに、すごいなと思ったのは、新じょう小学校の友だちです。新じょう小学校のしょうかいは、せつめいではなく、げきでしょうかいをしていて心にのこりました。ぼくたちの学校しょうかいのとき、少しきんちょうしたけど、大きな声で言えました。みんながぶじにしょうかいできてよかったです。

三つ目は、ゆめ天文台アストロドリームです。ぼうえんきょうや星の話を聞きました。ぼうえんきょうのしゅるいに、きいて見るぼうえんきょうがあることを教えていただき、ぼくはびっくりしました。今見ている星は、138おく年前の星が見えていることを知り、138おく年前の星がのこっていることにもびっくりしました。

このように、ぼくのすんでいる町にも知らないことがたくさんあり、北広島町をもっと知ることができてうれしかったです。この北広島町のことをもっと知って、全国の人に北広島町のいいところをもっと知ってもらいたいと思いました。

## 楽しかったおたから発見・体けんツアー

八重小学校 宮本 陽奈子

七月二十七日に、「おたから発見・体けんツアー」に北広島町の三年生とバスで行きました。げい北みんぞくげいのう伝しょう館、古おりやくし、ゆめ天文台アストロドリーム、大朝のテングシデに行きました。

さいしょにげい北みんぞくげいのう伝しょう館に行きました。ここでは、みぶの花田うえのことをたくさん知りました。かざり牛のはなにつながっていて、それを動かすと牛がいうことをきくこと、つなを男の人がこまかく動かして牛が田んぼをたがやしていると

いう話を聞きました。たがやす道具は、木のぼうに金ぞくのはがついていて、それを牛につけて土をたがやします。

次に、古おりやくしに行きました。古おりやくしは、千五百年前ぐらい前のへいあん時代につくられたそうです。たくさんのぶつぞうがありました。その中ですきなぶつぞうは、一番は「千手かんのん立ぞう」で、二番は「きっしょう天立ぞう」です。

次は、とよひらうん動公園でお昼ごはんを食べました。お弁当をみんなで食べるとおいしかったです。その後に、北広しま町の三年生のみんなと学校しょうかいともうじゅうがりをしました。学校しょうかいは、これまで家でもしっかりれんしゅうしてきました。だから、本番の時にあまりまちがえずに発表できました。ほかの小学校のしょうかいで一番心にのこった小学校は、八え東小学校です。理由は、国語じてんを持って来ていて、「気になる言葉には、ふせんをはっています。」と発表していて、わたしもまねをしてみたくなったからです。

みんなでゲームもしました。もうじゅうがりは、さいしょはグループを作ることができてうれしかったです。でも、さい後はグループを作ることができませんでした。十六人ひつようだったのに、わたしたちは、十人とかんちがいしてしまったからです。

その次に、ゆめ天文台アストロドリームに行きました。わたしたちは、「天の川ぎんが」という星の集まりにすんでいることをはじめて知りました。

さい後に、大朝のテングシデに行きました。テングシデは、木がぐにやぐにやになっています。それは、てんぐが、木のぐにやぐにやしているところにねるからそうだったという話があるそうです。だから、木を切ったらその人がびょう気になってしぬ、木に登ったらおとされるという伝せつがあるそうです。

このおたから発見・体けんツアーでほかの学校のことをくわしく聞くことができたし、テングシデという木があることも知りました。こんどは、自分でおたからを発見して、北広しま町にすんでいない人に教えてあげたいと思います。また、ほかの小学校のみんなと遊べたらいいなと思いました。

## お友だちになったよ

八重小学校 流光 結衣

おたから発見・体けんツアーに行きました。行った場所は四かしよで、みぶ小学校の友だちと、川さこ小学校の友だちといっしょに体けんや見学をしました。

午前は、げい北みんぞくげいのう伝しょう館と古おりやくしに行きました。げい北みんぞくげいのう伝しょう館では、花田うえのこととかぐらのことを教えていただきました。花田うえにつかう樂きが体けんできたので、音を出してみました。ほかにも、スタンプをおすことができたり、むかしの道具もてんじがしてあったりしておもしろかったです。げい北みんぞくげいのう伝しょう館で、いろいろ学べてよかったです。

げい北みんぞくげいのう伝しょう館の次は、古おりやくしに行きました。古おりやくしは、山のおくふかくにあります。古おりやくしには、たくさんのぶつぞうがありました。おじぞうは、ただかざってあるだけかと思っていただけ、いろいろなしゅるいがあるし、一つ一つに名前がついていました。ぶつぞうの顔もちがっていて、四天王立ぞうは、一番

こわいと思いました。こわくないぶつぞうもありました。

とよひらどんぐりうん動公園に行き、お昼ごはんを食べたあと、交流会をしました。交流会では、学校しょうかいと遊びをしました。学校しょうかいは、きんちょうしたけど、ほかの学校のことを知ることができました。もうじゅうがりで、ちがう学校の人となかよしになれてとてもうれしいです。

午後から、ゆめ天文台アストロドリームに行きました。ぼうえんきょうは、一しゅるいだと思っていましたが、たくさんしゅるいがあると教えていただきました。たて物の四かいに星を見るぼうえんきょうがありました。じっさいに見せてもらいながら、ぼうえんきょうの使い方や見えたときの様子を教えてくださいました。さいしょは、星にきょうみがなかったけど、いろいろくわしく教えてもらったので、もっと知りたいなと思うようになりました。

さい後に、テングシデに行きました。テングシデがある場所は大朝です。わたしは、まがっている木は、はじめて見ました。木を見ながら心の中で「どうしてまがるんだろう」とふしぎに思いました。まがっている木がいろいろあっておもしろかったです。

ゆうめいなものがたくさん見学できたし、いろいろなことが学べたおたから発見・体けんツアーでした。

## 北広島のお宝 たくさん発見！！

壬生小学校 佐々木 鼓

今日は、3年生で、お宝発見・体けんツアーに行きました。

はじめに、「げい北みんぞくげいのうほぞんでんしょう館」に行きました。

そこでは、いろいろなむかしの道具を見せてもらったり、さわらせてもらったりしました。1年生のとき、国語の時間にべん強した「たぬきの糸車」に出てきた糸車や白黒のテレビなどがありました。太鼓やスタンプもありました。かざってある物は、ほとんど木でできていました。すごいなあと思いました。むかしは、着物を着てねていたそうです。火ばちや百たんすのこともはじめて知りました。

花田うえのことについても教えてもらいました。なぜ、牛が田に入って進んでいくかという、なえをうえやすくするからだということが分かりました。

かぐらのコーナーでは、むかしと今使っているお面やいしょうを見せてもらいました。

次に、「古おりやくし」に行きました。古おりやくしには、ぶつぞうが20こくらいありました。金のぶつぞうや、茶色のぶつぞう、ねずみ色のぶつぞうなどがありました。ここでは、古おりやくしができた話などを聞きました。外に出て、急な山を登って古ふんを見に行きました。古ふんは、むかしの人のおはかだそうです。古ふんについての話を山の上で聞きました。

お昼になったので、どんぐり村に行ってべん当を食べました。この後、交流会があつて、それぞれの学校の発表を聞きました。そして、「もうじゅうがりへ行こうよ」というゲームをしました。

昼からは、「ゆめ天文台アストロドリーム」に行きました。地きゅうの近くのわく星は、「天の川銀が」と教えてくださいました。ぼう遠きょうは、目で見えるぼう遠きょう、耳で

聞くぼう遠きょう，反しやぼう遠きょう，レンズを使ったぼう遠きょうがあるそうです。そして，見せてもらったぼう遠きょうは，写真をとるぼう遠きょうでした。終わりに，星の写真を見せてもらいました。星がいっぱいですごかったです。

さい後にむかったのが，「テングシデぐん落」です。テングシデの木は，太いのにぐねぐねしていて，すごいなあと思いました。ぐねぐねしているのは，テングのしわざだと言われていて，テングシデを切ろうとすると，テングにつき落とされるそうです。ぐねぐねして，たおれているように見えるけどたおれていない木や，動物の形をしている木などがありました。おもしろかったです。テングシデは，自ぜんのままにそだっていて，水など何もやっていないそうです。

今日，さいしょから見たもの全部がすごかったから，また，家の人とも行ってみたいと思いました。

## はじめて知った　たくさんのお宝

壬生小学校　花ノ木　優里

今日，お宝発見・体けんツアーがありました。

私たちは，「げい北みんぞくげいのうほぞんでんしょう館」「古おりやくし」「ゆめ天文台アストロドリーム」「テングシデ群落」の四つの場所に行きました。その中で，私は，とくに二つの場所が心にのこりました。

一つ目は，はじめに行った，げい北みんぞくげいのうほぞんでんしょう館です。でんしょう館では，スタンプをおしたり，シールをもらったりしました。

さいしょに，壬生の花田うえのことについて話を聞きました。むかし花田うえで使っていた物は，今使っているものちがうな，と思いました。牛は，小屋から外に出ることがきらいだということ，車の音とかが聞こえると，こわいのだということも教えてもらいました。牛をひっぱるつなのしん動で，牛を左右に曲がらせることができるのだということも教えてもらいました。

その後，花がさおどりやかぐらのせつ明を聞きました。花がさおどりの中に入っているのは，全員男の人だということが分かりました。また，かぐらをするときのてんがいは，かみ様の場所だということもはじめて知りました。

二つ目は，さい後に行った，テングシデぐん落です。ちゅう車場からテングシデがたくさんあるところまで歩いて行くと，大きな石に「テングシデ」と書いてあって，天ねん記ねん物だということが分かりました。テングが，テングシデの上でねているのだとむかしから言いつたえられているのだということも分かりました。テングシデの木は，一つ一ついろいろな形があり，おもしろかったです。

今日の「お宝発見・体けんツアー」は，はじめて行ったところがたくさんありました。とても楽しかったし，心にのこる一日になりました。



## 楽しかったお宝発見・体けんツアー

壬生小学校 東 樹

まず、バスにのって「げい北みんぞくげいのうほぞんでんしょう館」を見学しに行きました。むかしの物が、いろいろかざってありました。ぼくは、むかしの物を使ってみたいな、と思いました。むかしの人はみんな、物を作って大切に使っていたから、「すごい。」と思いました。でんしょう館の先生に、牛が田んぼに入って、足で平らにしていること、まぐわでやわらかくしていることを教えてもらいました。黒いひもを使って、牛をいろいろなところに行かせることも教えてもらいました。牛のせなかにのせるかざりの「コットイぐら」と「オナミぐら」には、しかけがあることも教えてもらいました。

それから、「古おりやくし」に行きました。ぶつぞうがいっぱいあって、形や大きさがちがうから、びっくりしました。ぶつぞうが、いっぱいならんでいました。

そして、みんなが楽しみにしていたお弁当を食べました。みんなおいしそうに食べていました。町内の3年生が集まって、小学校のしょうかいとゲームをしました。楽しかったです。

次に、ゆめ天文台アストロドリームに行きました。先生に、「天の川銀が」という、ぼくたちのすむ所の言い方を教えてもらいました。ぼう遠きょうは、目で見るとぼう遠きょう、耳で聞くぼう遠きょう、反しゃぼう遠きょう、レンズのぼう遠きょうがあると教えてもらいました。反しゃぼう遠きょうは、カメラのぼう遠きょうだということが分かりました。

さい後に、テングシデぐん落に行きました。テングシデがいっぱいありました。くねくねしていて、天ねん記ねん物だということを教えてもらいました。また、テングの話をおもしろく教えてもらいました。テングシデの木に登ったり切ったりしたらいけないということも教えてもらいました。テングシデの木を大切にしなければいけないなと思いました。

## 本地小と八重東小のお宝発見・体けんツアー

八重東小学校 織田 彩見

7月27日は本地小と八重東小の三年生で北広島のお宝発見に出かけました。

さいしょは、バスでJB北広島じょう馬クラブに行きました。ここでは大きな馬にのりました。

まず、本地小の人からのりました。わたしはきゅうしゃにいる馬や、友達が馬にのっている様子を見たりしていました。

いよいよ、わたしが馬にのる番になりました。少しこわくなってきました。のってみると落ちそうな気がして、ぐらぐらする体にぐっと力を入れました。明日はきんにくつうになるんじゃないかと思うほどでした。でも、馬はゆっくり走ってくれて、まわりのながめもよく見ることができました。

次は馬のスケッチをしました。いろいろな馬をかきましたが、馬に乗るときの道具もいっしょにかきました。馬は後ろ足のももが太いけど、下のほうは細いのが分かりました。

じょう馬クラブをあとにして、どんぐり村に向かいました。ここではおべんとうを食べたり、学校のしょうかいをしたりします。

学校のしょうかいは、れん習のときよりも大きな声を出したのでうまくできたと思いま

した。ほかの学校の発表もくふうしていておもしろいなと思いました。ほかの学校のことが分かってよかったです。

そのあと、みんなで「もうじゅうがり」というゲームをしました。同じ学校の人といっしょになってはいけないルールだったので、はじめは大へんでしたが、なれてくるととても楽しかったです。

また、バスにのって次のお宝を見に行きました。それは大朝のテングシデでした。

テングシデはすごく大きくて、みきは太くて、えだはぐにゃぐにゃでした。ここでもスケッチをして色もぬりました。スケッチをしているうちに、みんなしずかになってテングが出てきそうなかんじでした。

北広島のお宝を二つ見学できて楽しいツアーでした。

## 楽しかったお宝発見・体けんツアー

八重東小学校 大石 命

今日は、北広島町全体の三年生の交流会がありました。わたし達八重東小学校のみんなは、本地小学校の友達といっしょのバスに乗りました。

わたしが一番楽しみにしていたのは、本地小学校の友達とテングシデを見に行くことです。なぜかという、社会科の学習でテングシデの写真を見ていたからです。えだやみきが曲がっていて、わたしたちがすんでいるところの木とはぜんぜんちがいます。そんな木が何本もあると聞いてびっくりしました。だから、一どはテングシデを見に行ってみたいと思いました。

どんぐり村でこうりゅう会をしたあと、大朝のテングシデに行きました。

さか道をのぼっていくとテングシデが見えてきました。ついに、はじめて間近でテングシデを見ることができました。みんなで、役場の方からテングシデのせつめいを聞いて、見てまわりました。

その後、テングシデが見えるお気に入りの場所を決めました。そして、テングシデのスケッチをしました。えだやみきが曲がっている様子を表そうと、よく見てかきました。うまくかけたと思います。

さいごに、八重東小学校と本地小学校のみんなでテングシデを後ろにして写真を撮りました。後ろがテングシデなので、写真の中にてんぐが写っていたらすごいなと思いました。

## 友だちができたお宝発見・体けんツアー

八重東小学校 石田 百輝

今日は、いつもより少しドキドキしていました。それは、ちがう学校の三年生といっしょになるからです。いっしょにどんなことができるか考えるとワクワクしてたまりませんでした。

さいしょに、じょう馬クラブに行きました。はじめは馬がこわくて、せすじがゾクゾクしていました。でも、だんだんなれてきて楽しくなってきました。馬に近づいてみたり、乗ったりすることができました。馬に乗ってみると、いつもより高いところにいてまわりがよく見えました。ゆれる感じも楽しかったです。

おべんとうを食べた後、北広島町の小学校のしょうかいを聞きました。そのあと、「もうじゅうがり」というゲームをしました。とても楽しかったです。このゲームのときに、いろんな学校の人となかまになりました。知らない人ばかりでしたが、なかよくできたと思います。友達になれた人もいます。名前はだいきくんです。とても気が合って、だいきくんから先に名前を教えてくださいました。ぼくも名前を教えました。

このあと、大朝のテングシデを見に行きました。テングシデは、どれもえだやみきが曲がっていてふしぎな感じがしました。むかしの人はテングのしわざだと言っていたそうです。どうして、テングのせいにするのかなと思いました。もう一つふしぎに思ったことがあります。それは、どうしてテングシデは、ここにだけしかないのかということです。でも、ここにだけしかないから、北広島の宝なんだなと思いました。

今日一日で、北広島のことを知ることができ、新しい友だちもできました。いいツアーでした。

## 楽しかったお宝ツアー

本地小学校 頼政 大夢

7月27日に八重小学校の3年生といっしょに「ふるさと、お宝発見ツアー」に行きました。新しい友だちもできたし北広島町のいろいろなところに行けてとても楽しかったです。

ぼくが心にのこったことは三つあります。

一つ目は、テングシデです。その理由はぐねぐねした木が150本ぐらいあるのはすごいと思ったからです。1本が大きくてえだが分かれて二つになるのは、ほんとにてんぐがおるんだなと思いました。シデの木がぐねぐねに曲がるなんてすごいと思いました。2メートルぐらいありました。どんどんふえていって森じゅうテングシデになるかも知れません！いっぱいいっぱいふえて、森じゅうにテングシデがあるといいなと、ぼくは思いました。

二つめは乗馬です。はじめは馬が大きくて「こわい」と思ったけど、ふれ合ったらやさしかったからです。みんな乗って、みんな

「高い！」

と言っていました。

全部で馬が20頭だそうです。ここで、八重小学校の友達ができました。いっしょに馬の絵をかいたりしてよい思い出になりました。

三つめは、どんぐり村です。それは、北広島町の全部の小学3年生が集まったからです。全員の前で学校しょうかいをしました。心ぞうがドキドキしたけれどかまわずにみんな言えてぼくはほっとしました。

その後に、ゲームをしました。題名は「もうじゅうがりに行こうよ」でした。三人の名前をおぼえないといけないのに二人しかおぼえられませんでした。それがくやしかったです。次は、がんばりたいと思います。

楽しいことがたくさんあって、すごくいい一日でした。いい思い出になりました。

北広島町のいいところは、自ぜんにめぐまれていて空気もいいところです。たとえば、テングシデ、よみがえりの水、ご神水、かんむり川やいろいろあります。もっといろいろなところへ行って、いろいろなお宝を発見したいです。

## 楽しかったお宝発見ツアー

本地小学校 西原 大斗

7月27日に「北広島 お宝発見・体けんツアー」に行きました。八重東小学校の3年生と行きました。

はじめに、JB北広島じょう馬クラブに行きました。じょう馬クラブでは、いろいろな馬のうち一匹きの馬にのせてもらってとてもうれしかったです。ぼくは、馬にのって1しゅうする間に、馬の立てがみをさわっていました。立てがみはとてもフサフサでした。そして絵もかきました。馬が小屋からなかなかのぞいてくれないのでかきにくかったです。

絵をかいた後、馬を見ていたら赤ちゃんのポニーがいました。かわいかったです。

次に、とよひらどんぐり村に行きました。どんぐり村では、昼ごはんを食べました。ごはんを食べた後は学校発表をしました。ぼくたちはさい後から二番目でした。だから、まっている間とてもきんちょうしました。でも、自分のせりふがうまく言えたからとてもうれしかったです。みんなでゲームもしました。とよひらどんぐり村はとても楽しかったです。

さいごに、大朝にテングシデを見に行きました。テングシデはとても大きくくねくねしていました。テングシデは分かれる時には二つに分かれてどんどん大きくなるのをはじめて聞いてはじめて見ました。テングシデを切ったりしたら天ぐからばちがくるといううわさもありました。

そしてまた、絵をかきました。ぼくは、くねくねしているところがとても書きづらかったです。でも、いっしょうけんめいかいてとてもいい絵になりました。

一番心にのこったのは、テングシデです。天ぐのうわさがあるからです。

ほかにも、北広島町のいろいろなところへ行ってみたいと思いました。

## たから物いっぱい

豊平小学校 横谷 彩乃

今日、芸北小学校の三年生といっしょに北広島町のいろいろな所を回って、たから物をいっぱい見つけました。

はじめに、大朝のテングシデを見ました。テングシデは、いろいろなところにえだが生えていて、びっくりしました。

次に、オオアサ電子へ行きました。オオアサ電子では、車の部品やスマートフォンのカバー、細かい音がすごく聞こえるスピーカーなどを売っていました。

その次に、こおりやくしに行きました、千二百年前に作られたぶつぞうが今も、まだ、残っている事はめずらしいそうです。それだけ、まわりの人が、大切に守ってきたんだなと思いました。

お昼が近づいて来たので、どんぐり村にお弁当を食べに行きました。お弁当は、わたしの好きなキャラクターのディールのキャラクター弁当でした。わたしは、ものすごくうれしかったです。みんなが食べ終わったら、学校しょう会とゲームをしました。学校紹介は、わたしたちの学校が一番初めでした。わたしたちは、

「あいさつで、北広島町一番をめざしています。」

と言いましたが、他の小学校は、

「あいさつで、日本一をめざしています。」  
と言ったので、わたしたちは、「あいさつで、世界一をめざしています。」と言えれば、も  
っとがんばっていることが伝わったと思います。その後ゲームをして、いろいろな小学校  
の人と仲良くなれたのでうれしかったです。

次に、でんしょう館へ行きました。いろいろなむかしの物がのこっていました。  
むかしの物を見るのが楽しくて、時間が速く感じました。

帰りのバスで、お母さんが言っていた人が、わたしの前の席にのっていたのでいろい  
ろな話をしました。仲良くなれて、とてもうれしかったです。

あたからをいっぱい見つけられて、とてもうれしかったです。お母さんや家族とも行  
って、聞いたことを教えてあげたいなと思いました。

## 友だちがいっぱい出来た、ふるさと学習

豊平小学校 箕牧 佑季乃

今日、八重小学校・八重東小学校・芸北小学校・川迫小学校・新庄小学校・大朝小学校・  
壬生小学校・本地小学校と豊平小学校の九校の三年生と一緒に、ふるさと学習に行きまし  
た。

はじめに、テングシデを見学しました。テングシデの木は、すごく大きくて、まわりの  
太さが約三メートルぐらいあるそうです。私は、「すごく大きいから、いつの時代からこん  
なに育ってきたのかな。」と思いました。

次に、オオアサ電子かぶ式会社を見学しました。そこでは、スピーカーやえきしょうパ  
ネルを作る工場でした。少しお話を聞いたあとに、小さなへやでスピーカーを使って音楽  
やえい画を聞いたり、見たりしました。そのスピーカーの名前は、エグレッタと言います。

そのあとに、古保利薬師に行きました。全部のぶつぞうのうち、十二体が国のじゅうよ  
う文化ざいになっていることを知り、とてもびっくりしました。

古保利薬師の次は、お昼ごはんの時間でした。全校が集まって、学校しょうかいやお弁  
当、ゲームの時間でした。私たちの学校は、一番初めでした。どきどきや、はずかしい気  
持ちがありました。でも、さいごまでがんばることが出来ました。芸北小は、他の学校に  
はない、「ちょうせんか」という授業があるそうです。そこでは、しゅくはくをしたり、ラ  
ンドセルを作ったりするそうです。私は、「いいな、わたしも芸北小に行ってみたいな。」  
と思いました。

次に、もうじゅうがりというゲームをしました。私は、そこでたくさんの友だちができ  
ました。十人の友だちができ、いろいろな人と仲良くなれたので、うれしかったです。ゲ  
ームのあとに写真をうつしました。

最後に、芸北みんぞくげいのうほぞんでんしょう館に行きました。そこでは、いろい  
ろなむかしの道具があり、百たんすや糸車、テレビばんなどがありました。小だいこや大だ  
いこがあって、いろいろな人が気持ちよさそうにたたいていました。

とても楽しかったです。友だちもたくさんできたし、たくさんのおたからも見つけるこ  
とができたので、また、やりたいと思いました。もしまた、行くことが出来るなら、芸北  
小の人たちといっしょがいいです。



**4 年**  
**若鯉（カーフ）を応援して、**  
**真っ赤に燃えよう**



## 北広島ふるさと夢プロジェクト事業（４年）実施要項 ～「若鯉（カープ）を応援して、真っ赤に燃えよう」～

1 日 時 平成27年 8月 9日（日）（野球中止の場合＝中止）  
場 所 豊平どんぐりスタジアム（北広島町都志見2609）

2 目 的

豊平どんぐりクラブ屋台村の主催で開催される豊平どんぐりスタジアムでの「プロ野球二軍戦〔カープ×オリックス戦〕を、町内の小学校4年生に観戦させ、次の目的を達成させる。

○プロ野球の試合、二軍カープ選手のプロの技・ひたむきなプレイを間近に見ることで、児童に感動・夢を与える。広島への愛着を高める。

○町内の児童が一体となった応援をすることで、児童間の親睦を図る。

3 事業対象児童

〔町内の小学校4年生〕

芸北小学校（14名） 大朝小学校（14名） 新庄小学校（10名） 川迫小学校（2名）  
八重小学校（34名） 八重東小学校（16名） 壬生小学校（34名） 本地小学校（21名）  
豊平小学校（21名） 計166名

※ 各学校で保護者の了解を得て参加希望者を募り、参加させる。

〔引率職員〕

各小学校より、2名以上の職員が引率者となる。

4 日程

12時に、次のバスを利用して、学校ごとに豊平どんぐりスタジアムに集合する。応援練習をした後、12時30分より試合を観戦する。試合終了後に、カープ選手と交流をする。その後、学校ごとにバスを利用して帰路につく。

【往路のバス運行】

- (1) 芸北小－総企バス（中型）を利用＜11：20発＞
- (2) 大朝小・新庄小－大朝バス（中型）を利用＜大朝小11：10発→新庄小11：20乗車＞
- (3) 川迫小・八重小－総企バス（大型）を利用＜川迫小11：10発→八重小11：30乗車＞
- (4) 八重東小・本地小－豊平バス（大型）を利用＜八重東小11：20→本地小11：30乗車＞
- (5) 壬生小－大朝バス（大型）を利用＜11：20発＞

※ 豊平小－昼ごはんを食べて豊平スタジアム集合・そして現地解散

【集合時刻、復路の降車場所等】

		往 路		復 路
		学校集合時刻	バス乗車時刻	バス降車場所
(1)	芸北小	11：00	11：20	※学校のみ
(2)	大朝小	10：50	11：10	・大朝福祉センター・大塚 田津商店前 ・追坂口
	新庄小	11：00	11：20	・新庄小学校・からしろ館・北広島町図書館
(3)	川迫小	11：00	11：10	・八重小学校→蔵迫下→勝竜寺前→明智→下打道→川迫小学校
	八重小	11：20	11：30	
(4)	八重東小	11：00	11：20	・太郎丸（高速道高架下） ・旧千代田町役場前
	本地小	11：00	11：30	・片山橋→森藤→本地市→下本地
(5)	壬生小	11：00	11：20	・道の駅→壬生小学校→小木次 →旧南方小学校
※	豊平小	※スタジアムに集合・解散		

## 5 経費

バス代、観戦チケット料は、北広島町が負担する。

※学校への送迎等は保護者をお願いをする。

## 6 事前・事後の取組

### (1) 事前指導

①プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させるようにする。服装・応援は、次のようにする。

- ・服装－赤白帽子・運動靴・自由服（カーブ応援に適した服装）
- ・応援グッズ－メガホン（市販・手作り）などを各自・学校で準備する。
- ・当日は、担任等の引率者がリードして応援を組織的に行うようにする。

②車中・応援のマナーについて指導しておく。

- ・どんぐりスタジアムでは、単独行動をとらない。他の観戦者の迷惑になることをしない。
- ・交通安全、車中では「立たない」「騒がない」等の安全・マナーの指導しておく。

※学校間で連携して、座る場所等について協議しておく。

③特別な支援を必要とする児童・健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、引率職員体制について配慮する。

### (2) 事後指導と事後の取組

①実施後にアンケートを実施する。一緒に応援したり野球観戦・カーブ選手と交流したりしたことについて作文に書き、原稿用紙（3枚程度）にまとめる。

②次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい

実施計画・実施の様子

<写真入りで応援・観戦・カーブ選手との交流の様子をA4で4枚程度にまとめる>

作文<各学校2～3人>

実施後のアンケート結果

## 7 安全指導

○炎天下での観戦になることが、考えられるので、日射病・熱中症に対する事前指導と準備を、各学校で考えて実施する。当日は、細やかに健康観察をして早めの対応をする。

⇒ お茶等を多めに持参させる。計画的に水分補給をさせる。など

主催者と連携して、体調が悪くなった児童への対応、体を休める場所等の提供などについて事前に対応策を考えておく。

○どんぐりスタジアムでは、道路等が車で込み合うことで予想されるので、バスの乗り降り・道路の横断等について、事前の指導をしておく。移動に際しては、引率職員が連携して安全確保に努める。

○多数の観戦者があるので、単独行動をさせない。不審者に声をかけられたり、連れ去られたりしそうなになったら、大きな声をだすなど、具体的な行動の仕方を実態に応じて指導しておく。

○緊急事態発生の場合は、直ちに児童の安全を確保し、主催者と連携して適切な対応をする。町教委・該当児童の学校（校長）へ迅速に報告する。各学校で、保護者と連絡がとれるように対応策を考えておく。

## 8 その他

○雨天等のために野球中止となった場合は、その時点で緊急連絡メール・電話等で保護者連絡をする。その際は、代替のプロジェクトを考え、2学期中に実施する。

○開校日扱いにはしないが、趣旨を保護者に理解してもらおうようにし、できるだけたくさんの児童が参加できるようにする。事前に参加者を把握する。引率職員は、1日勤務とし勤務日の振り替えで対応する。

○原則、安全を考慮し、児童は学校に集合し学校で解散することとするが、各学校の実態に応じて帰りに分散して降車することも可とする。その際は、保護者連携を丁寧にし安全指導を徹底するようにする。

○事業の目的が達成されるように、学校間で協力・分担して、児童への指導・報告書の作成が適切に行えるようにする。

## 「若鯉を応援して、真っ赤に燃えよう」の活動の様子

「若鯉を応援して、真っ赤に燃えよう」の夢プロジェクトは、プロ野球「広島東洋カープ（二軍）」の選手の技やひたむきなプレイを間近に見ることで、児童に感動・夢を与え、広島への愛着を高めることと、町内の児童が一体となった応援をすることで、児童間の親睦を図ることがねらいでした。

夏休み中ということもあり、町内の4年生が全員集まったの事前の応援練習はできませんでしたが、各学校で応援のための「それ行けカープ」の歌を練習したり、一人一人がカープ応援グッズを持ち寄ったりして当日を迎えました。

豊平どんぐりスタジアム到着後は、北広島町内の4年生全員で、応援の練習をしました。カープ球団のマスコットのスライリーが登場してくれ、子ども達の応援への意欲も高まりました。

その後、スタジアムに入り、「カープ×オリックス」の試合を観戦しました。

二軍戦でしたが、一軍で活躍していたエルドレッド選手・シアーホルツ選手・堂林選手・天谷選手も出場しており、子供たちのテンションも上がりました。登場した選手の体の大きさや、ピッチャーの投げる球や飛んでくるファールボールの速さに驚いたようで、プロ野球選手の力強さや、日々の努力を実感することができました。

最初は引率の先生の声に合わせて応援する場面がほとんどでしたが、徐々に児童の方から応援の声が上がることも増えていき、楽しんで応援していました。また、応援の途中には、隣の席に座っている子供同士で、体調を崩していないか声を掛け合ったり、誘い合ってトイレに行ったり、自分の持参したうちわで友達を扇いであげたりする場面も見られ、交流が深まっていく様子を見ることができました。

試合は、カープの投手が序盤から打ち込まれ、しかも7回終了時点で大雨が降り、7対14のワールド負けという結果となりましたが、カープの岩本選手をはじめとするホームラン、ファインプレー、きびきびとプレーするカープ選手の一投一打、などプロ選手の活躍に感動した4年生でした。

帰りのバスの中では、一人一言ずつ「今日の感想」を発表した学校もありました。感想の中には、「スライリーに会えてうれしかった。」「自分たちの応援がカープの選手に通じて、打ってくれたり、守ってくれたりして、うれしかった。」「みんなと応援できて楽しかった。」「新しい友達できてうれしかった。」というような内容の感想が多く挙がりました。皆で声を揃えて応援することの楽しさや、プロ野球選手のプレイのすばらしさを実感でき、学校間の交流を深めることができた活動となりました。



各学校の児童が入り混じって応援しました。初めてプロ野球選手を間近で見た児童も多く、「テレビで見るより背が高い!」「こんなにすごい筋肉してるんだ!」と驚いた様子でした。



カープの攻撃では、子ども達が手拍子やマスコットバット、メガホンを使って応援開始。「かっとなげ、かっとなげ堂林!」、「ホームラン、ホームラン、ブラッド!」。得点が入ったら、「今日もカープは勝ち勝ち勝ち勝ち♪万歳、万歳!」



うだる暑さのあまり、体調を崩してしまいそうな児童もいましたが、「大丈夫?」「私の水筒のお茶を飲みなさい。」など、やさしい声かけがたくさん聞こえてきました。野球観戦を通して、応援だけでなく他校の児童との温かい交流もできました。

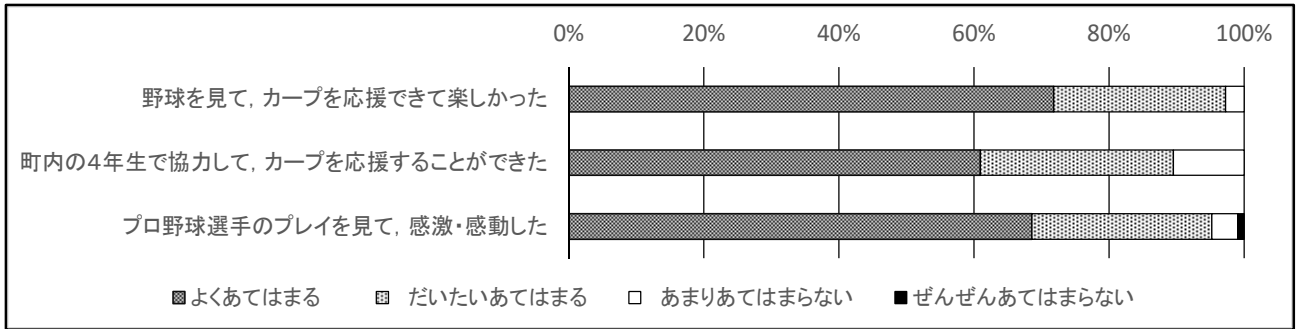


### 【帰りのバスの中の声】

「負けたので悔しかったけど、がんばって応援しました。」  
 「プロの選手のプレイはとてもすごかったです。」  
 「ぼくはこんな大きな野球場がある北広島のが好きになりました。」



## プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果



### 今日一日で、特に心に残っていることは、どんなことですか。

<b>芸北小学校</b> ① 岩本選手がホームランを打ったこと ② プロ野球選手の投げるボールがすごく速くてびっくりした ③ プロ野球の試合を初めてみたので、今日の全部が心に残った ④ アウトにしようと、一生けんめいボールを追いかけていた姿 ⑤ みんなでリズムを取りながら歌を歌ったり、カンフーバットをたたいたりして応援したのが楽しかった	<b>大朝小学校</b> ① スライリーと交流できたこと(2) ② 岩本選手がホームランを打ったこと(1) ② 一気にたくさん点をとっていたこと(1) ② カーブの選手が点を抑えていたこと(1) ② 新しい友達ができたとこと(1)
<b>新庄小学校</b> ① 大きな声で応援したこと(3) ② みんなで楽しく応援できたこと(1) ② いろいろな学校の4年生となかよくできたこと(1) ② カーブが負けたこと(1) ② 後半にカーブの選手が得点したこと(1) ② エルドレッド選手がすごく打っていたこと(1) ② カーブの選手がホームランを打ったこと(1) ② オリックスのチームがたくさんホームランを打っていたこと(1) ② 選手が最後まであきらめずに頑張っていた(1)	<b>川迫小学校</b> ① 暑かったけど本物の野球をみることができたこと ① 雨がふって最後までみるができなくて残念だったこと
<b>八重小学校</b> ① 町内の4年生で応援したこと(9) ② 選手の本気のプレー、ホームランが心にのこった(5) ③ いろいろな選手、スライリーを見られたこと(4) ④ カーブがだんだん巻き返していたこと(2) ④ 他の小学校の人と友達になれたこと、話したこと(2) ⑤ ファールボールが飛んできたこと(1)	<b>壬生小学校</b> ① カーブがホームランを打ったこと(3) ② みんなで応援できたこと(2) ② カーブが点を取っていたこと(2) ② 選手が投げる姿、球が速かった(2) ③ 得点しようがんばったこと(1) ③ カーブをしっかり応援できたこと(1) ③ 相手選手がホームランを2本も打ったこと(1) ③ 町内の4年生と仲良くできたこと(1) ③ カーブの選手が力を合わせていたこと(1)
<b>八重東小学校</b> ① 二軍の選手がボールを打った時にカキーンとすごい音が心に残りました(3) ② みんなで協力して応援できたことと、ホームランを見られたことがよかった(2) ③ ファウルになっても何回もボールをうっていた(1) ③ 負けていてもあきらめないこと(1) ③ カーブが点を入れたところ(1) ③ 負けたけど、カーブの選手のあきらめない気持ちの伝わるプレーを見ることができてよかった(1)	<b>本地小学校</b> ① 試合の途中で雨が降って中断したこと(2) ① カーブ応援で、オリックスに負けてしまったことが悔しかったこと(2) ① 選手のプレーを見られたこと(2) ② 岩本選手のホームラン(1) ② スライリーと会えたこと(1) ② しっかり応援できたこと(1) ② みんなでカーブの応援ができたこと(1) ② 野球を応援することがとても楽しかったこと(1) ② 保育所で一緒だった友達と会えたこと(1) ② 1回の裏で3点とったこと(1)
<b>豊平小学校</b> ① 大きな声を出してみんなと協力して応援したこと(5) ① 選手の本気のプレー、ホームランが心にのこった(5) ② スライリーを見ることができたこと(1)	

## プロジェクトを終えての「児童作文」

### 一生けんめいがんばったのなら，くいはない

芸北小学校 岡崎 美憂

カープのし合を観戦しました。とよ平の「どんぐりスタジアム」であったし合です。北広島町内の九つの小学4年生が集まって、カープをおうえんするのです。どんぐり村に着いて、最初におうえんするときの注意を聞いたり，おうえん歌の練習をしたりしました。急にスライリーが出てきたのでびっくりしました。

客席は，ほぼ満席でした。きっと，大きな声えんになると思います。わたしもせいっぱいおうえんしようと思いました。

し合が始まりました。選手が打ったり走ったり投げたりする様子は，とても力強くて，カッコよかったです。特に，カープの岩本選手が打ったホームランは，あっという間に飛んで行って，一番心に残っています。

相手のチームにもたくさんホームランが出たし，ヒットもたくさん打たれたので，大差がついてしまいました。

そんな時，雨が降り始めました。いそいで客席から屋根のあるところまでい動しました。そのままし合は中止になって，おうえんもできなくなってしまいました。後で聞いたのですが，14対7でカープは負けてしまったそうです。とてもくやしい気持ちになりました。でも，がんばっておうえんしたことは，こうかいしていません。それは，わたしにとって2回目のカープ観戦だったからです。

負けてしまっても，一生けんめいがんばっておうえんしたので，くいは残りません。わたしはこれからも，こうかいのないよう，一生けんめいがんばります。

### 初めて見たプロ野球

芸北小学校 上迫 沙椰

豊平どんぐり村まで行きました。カープのおうえんをするためです。今日のことは全部心に残っています。理由は，初めて本格的に大人の人が野球のし合をやっているところを見たからです。

最初に思ったことは，選手の体がとても大きいということです。わたしの家族や先生たちよりも大きくて，びっくりしました。

そんな大きな選手が，力いっぱいバットをふったり，ボールを投げたりするので，すごくはく力がありました。

席に着くと，すぐにし合が始まりました。初めは，選手の動きに見とれてしまって，おうえんするのを忘れていました。男の子たちが「がんばれー！」と言っているのを聞いて，わたしも言おうと思いましたが，はずかしくてなかなか声が出ませんでした。でも，他の学校の先生が，かけ声の言い方を教えてくださって，友達といっしょに少しずつ声を出すことができるようになりました。すると，ただ見ているだけの時よりも，し合を見るのが楽しくなってきました。

この日は，とても暑い日でした。天気が良くて，ぼうしをかぶっていても頭や

顔からあせがどんどん出てきました。すわって見ていたのですが、足にも日光が当たって、ジリジリとやけるようでした。クーラーボックスに入れてもらっていたタオルを首にあてたり、冷たいお茶を飲んだりしながらおうえんを続けました。見ているだけでもこんなに暑いんだから、一生けんめい野球をしている選手はもっと暑いんだろうなあと思いました。

カープの選手もたくさんヒットを打って点をたくさん取りましたが、相手のチームはカープい上に点を取ったので、どんどん差が開いていきました。わたしたちもがんばっておうえんしましたが、おいつくことができません。

すると、雨がぽつぽつ落ちてきました。でも、気にせずにおうえんを続けていると、そのうちに雨はやんでしまいました。

しばらくすると、急に空が暗くなってきて、さっきよりもたくさんの雨が落ち始めました。先生に言われて、屋根のあるところまで急いでいきました。そのとたんに、雨がものすごいきおいでふり始めました。

今度の雨はなかなかやみません。少しふり方が弱くなった時に、最初の集合場所まで行きました。し合が中止になったので学校に帰ることになりました。最後まで見ることができませんでした。

し合が最後まであったら、カープはまだたくさんヒットを打って勝っていたかもしれないですねんです。

でも、みんなでカープのおうえんができて楽しかったし、とちゅうまでも試合を見ることができてうれしかったです。今度は家族でマツダスタジアムに行ってカープをおうえんしたいと思いました。

## 楽しかったおうえん

芸北小学校 山田 葵

カープのおうえんに行きました。「真っ赤にもえよう！」というテーマで、北広島町内の4年生がとよ平どんぐり村に集まって、みんなでおうえんするのです。芸北小学校からは9人が参加しました。全員ではなかったのですが少しげんねんでした。

とても天気が良くて、客席にすわっていてもすごく暑かったです。カープの選手は暑さにも負けずに打ったり走ったり投げたりしていました。すごくかっこよかったしはく力がありました。ピッチャーが投げるボールはすごく速くて、わたしがやっているソフトボールとは比べものになりません。走るのも速くて、わたしもあんなふうによく走れるようになりたいと思いました。プロ野球選手が打ったボールは勢いが強くて、遠くまで飛んでいきました。ソフトボールはそれほど遠くまで飛びません。どうしたら遠くまで飛ばせるのか、教えてもらいたいです。

8回のカープのこうげきに入ろうとしたとき、とつぜん雨がふり始めました。そのままし合は中止になって、帰らなければならなくなりました。げんねんでした。

でもわたしは、たくさんの思い出ができました。特に心にのこっていることは、みんなでおうえん歌を歌ったり、おうえん用のバットを手びょうしのようにたた

いておうえんしたりしたことです。テレビで見たことはあったけど、自分でバットをたたいたのは初めてだったのでうれしかったし、やってみるととても楽しかったです。初めは何も分からなかったけど、周りの友達がやっている様子を見ながらまねをしているうちに、いっしょにおうえんできるようになりました。

し合の結果は14対7でカープは負けてしまったけど、選手のはく力を感じることができたし、みんなと楽しくおうえんできたので、とてもいい思い出になりました。

家に帰ってみてみると、日やけしていて、ズボンでかくれていたところと、ズボンから出ていたところできっきり白と黒に分かれていました。

## カープのおうえん

大朝小学校 上田 はじめ

八月九日日曜日。今日は、ぼくが楽しみにしていた、カープの試合を観戦する日です。大朝小学校の四年生六人と、新じょう小学校四年生と先生と、とよ平のどんぐり村へ行きました。カープ対オリックスの試合でした。

グラウンドに行くと、たくさんの方がおうえんに来ていました。最初に、オリックスが五点も点を入れたので、「まずいぞ。今日の試合はカープが負けるんじゃないかな。」と思いました。

次のカープのこうげきの時には、バッターボックスに立った人の名前を大きな声で言うておうえんしました。そうしたら、カープの選手がヒットを打ってくれたので、「ぼくたちのおうえんの声がとどいたのかな。」と思いました。おうえんの声がとどいたと思ったので、ますます大きな声でおうえんしました。その後の、カープのこうげきの時は、最初の回よりもっともっと大きな声でおうえんしました。そうしたら、五点を取り返すことはできなかったけれど、少し点が入ったので、「大きな声でおうえんしてよかった。」と思いました。三回では、また点を入れられてしまったので、少しくやしかったです。この時、ぼくの後ろの席にすわっていた新じょう小学校のしょうたろうくんが、

「負けるかも。」

と言いました。ぼくもその時に、「負けるかも。」と思いました。でも、あきらめずに、大きな声でおうえんしました。

五回の時、とつぜん雨がふりだしたから、びっくりしました。はじめは、タオルを頭からかぶって雨をよけていました。でも、その後にだんだん雨が強くなってきました。先生が、

「試合は中止になったから、しゅう合場所にもどって。」

と言われたので、しゅう合場所へもどりしました。その時ぼくは、「せっかくカープのおうえんに来たのに、雨で中止になってしまったし、負けてしまったからとてもくやしいな。」と思いました。

帰りのバスの中では、新庄小学校のみんなと、今日一日の感想を発表し合いました。ぼくは、「雨がふらなかつたら、もしかしたら勝っていたかもしれないな。」と思いました。

ぼくが知っているカープの選手の名前は、きく池，丸，マエケン，黒田，新井，福井，そよぎ，永川，エルドレッドです。今度は，マツダスタジアムにおうえんに行きたいです。

## カープの二軍戦

大朝小学校 木村 幸知

今日，北広島町内の四年生が豊平どんぐり村に集まって，カープの二軍戦を応援しました。

行きのバスは，新じょう小学校の人たちと一緒にでした。どんぐり村につくと，すぐに北広島町内の四年生全員で，カープのおうえん歌の練習をしました。歌っていると，スライリーが来てくれました。そして，スライリーはいっしょに歌ってくれました。ぼくは，このときに，初めてスライリーを間近で見ました。うれしかったです。

その後，バックネットうらに行って，し合を見ました。先こうは，オリックスでした。オリックスは，初回に点をとりましたが，カープはとれませんでした。次の回でも，オリックスに点をとられてしまいました。その後も，点をとったり，とられたりしながら，し合はすすんでいきました。

し合をおうえんしていると，と中でかみなりが鳴り始めて，雨がふってきたので，し合は中止になってしまいました。「ざんねんだな。もっと見たかったな。」と思いながら，帰りました。

ぼくは，野球を習っています。守っているポジションは，ファーストとキャッチャーです。プロ野球選手のプレイを間近で見ることができて，とてもべん強になりました。明日から，野球の練習をがんばりたいと思います。

## 楽しかったカープ観戦

大朝小学校 藤田 唯仁

今日，北広島町の四年生のみんなで，野球観戦をしました。球場に入る前，みんなで，カープのおうえん歌を練習しました。すると，とつぜんスライリーが来てくれました。ぼくは，びっくりして，「本物？」と思いました。近くで見ると，スライリーは，テレビで見るよりなんだか背が高いなと思いました。

球場に入ると，エルドレッド選手や堂林選手がいました。はじめは，どんどん点を取られてしまいました。でも，みんなは，

「がんばれ，がんばれ。」

と大きな声をはって，一生けん命応援していて，すごいと思いました。その声かとどいたのか，岩本選手が初球からホームランを打ってくれました。ぼくは，その時「プロの野球選手のプレイは，やっぱり違うな。」と感動しました。

そして，とうとう二点差というところまで追いつきました。これも，みんなの応援のおかげだと思います。みんなが応援したから，選手がそれにこたえてくれたんだと思います。



しかし、最後には、雨がふってしまい、し合は中止になってしまいました。「カープの二軍は強かったのに、くやしいな。」と思いました。その後、さらに雨が強くなってしまいました。そのうえ、選手との交流もなくなってしまいました。「悔しいな。ユニフォームにサインをもらいたかったのに。」と思いました。

このプロジェクトに参加して、間近にプロの野球選手を見ることができて、いい経験になりました。次にカープを応援することがあったら、みんなで声をあわせ、もっと大きな声で応援して、カープが勝てるようにしたいと思います。

## ふるさと夢プロジェクト

大朝小学校 山澤緑咲

今日は、八月九日日曜日。ふるさと夢プロジェクトでカープの試合の観戦に行く日だ。

わたしは、野球にはあまり興味はなかったが、新しい友達ができるかもしれないと思って参加したのだ。

バスに乗った。席は左側だった。しばらく走ると、新庄小学校の四年生がバスに乗りこんできた。わたしの右側にすわったのは、児童クラブにいた知っている子だった。バスの中では、応援の歌の練習をした。

豊平のどんぐりスタジアムに着いた。スタジアムの前には、北広島町内のたくさんさんの四年生がならんでいた。

先生のお話が終わり、みんなで応援歌の練習をしていると、着ぐるみの何かが出てきた。スライリーだ！辺りがざわつく。でも、スライリーはすぐに帰ってってしまった。

スタジアムの階段をあがり、客席に座った。天気はくもりで、野球観戦をするのにちょうどよい気温だった。

試合が始まった。しばらくすると、きゅうにボールが高く上がった。しかし、わたしの方には飛んでこなかった。「だれがボールを取ったのかな？」と思った。今度は、ホームランを打った選手がいて、外野の席にホームランボールが飛んでいった。

休けいの時間には、スライリーが出てきて、客席に向かってサインボールを投げてくれた。フェンスが高かったので、ボールがなかなか客席の方に入ってこなかった。スライリーは、何度も何度もボールを投げてくれた。ボールは、やっと客席の方に入った。そのボールを取ったのは、後ろの方の席の男の子だった。

「いいなあ。」

と、となりの友だちが言った。その後、急に天気が変わり、日が照りだした。半ズボンをはいていたので、足が暑くて、持ってきたレジャーシートを友達といっしょに足にかけた。天気はまたくもりに変わった。「むずかしい天気だなあ。」と思った。すると、今度は雨がふり始めた。リュックにもレジャーシートをかけて、ぬれるのをふせいだ。ちょっと待つと、雨がやみ、その後も試合は続いた。

しばらくすると、頭が痛くなった。先生に休けいする部屋につれて行ってもらった。部屋でねていると、夕立がきて、雨がザアザアとふりだした。あわてて、にもつを持って外に出ると、ほかの四年生たちは、集合場所にならんでいた。友

達が、わたしの荷物を持ってきてくれた。

「ありがとう。」

リュックサックをせおった。

帰りのバスは、話したことがない子がとなりだった。みんなで今日の感想を言い合った。そして、バスは新庄小学校にとうちゃくした。

「バイバーイ。」

「また今度会おうね。」

わたしは、新しくできた友達に手をふった。

## ふるさと夢プロジェクトに参加したよ

大朝小学校 松本 大遥

今日、カープの二軍の試合観戦に行きました。北広島町の小学校四年生が集まって、みんなでおうえんしました。

カープの先発ピッチャーは、中村投手でした。ホームランを3本打たれてしまいました。ピッチャーが変わったあとは、ホームランを打たれなくなったので、よかったなと思いました。

四回くらいに、岩本選手がホームランを打ちました。ぼくはその時、「やったー！このまま点を入れて、おいついてほしい。」と思いました。

そのあと、しばらくして、雨がふり始めました。「あっ！雨だ！どうしよう。このまま中止になったら悲しいな。雨がやんでほしいな。」と思いました。でも、雨はどんどん強くなってしまい、ついに試合は中止になってしまいました。とてもざんねんでした。「せっかく楽しい試合だったのに。」と思いました。

コールドゲームになってしまったのはざんねんだったけど、みんなといっしょにカープをおうえんできて、よかったです。

帰りのバスの中で、今日の感想を言い合いました。みんな、いいことを言っていて、すごいなあとと思いました。新じょう小学校の人たちともなかよくなれて、うれしかったです。またみんなといっしょにおうえんしたいです。

## カープ最高！

新庄小学校 松田 心音

私は、カープの試合を見るのが初めてです。プロの選手ってどんな試合をするのか最初はどきどきしました。それから、新しい友達もできるかなあと思っていました。

私達がどんぐりスタジアムに着いて応援練習をしていると、マスコットのスライリーが来て一緒に応援練習をしてくれました。とてもかわいらしく見えました。

試合が始まってオリックスの選手がホームランを打ったときはくやしかったです。

5回まで進んだ時、スライリーがネット裏の私達の方に向かって何回も何回もボールを投げようとしてくれたので、スライリーはとてもやさしいんだなと思い

ました。

途中で雨が降り出し、試合が中止になって残念だったけど、友達ができました。その友達と一緒に応援できてとてもうれしかったです。

今年から「ふるさと夢プロジェクト」という行事が町内で始まって、私はとてもいいことだと思います。それは私が住んでいる北広島町のことをいっぱい知ることができるからです。来年はどんなことをするのか、今から楽しみにしておこうと思います。

## カープ観戦

新庄小学校 久次 祥太郎

ぼくは、マツダスタジアムにカープ一軍の試合を見に行ったことはあるけど、二軍の試合を応援するのは初めてでした。でも二軍の選手の中には、ぼくが知っている選手もいました。

試合を見て、プロの選手のプレーはとてもすごいなあと思いました。観戦した後、カープはすごいと改めてわかりました。ぼくがまねできないことがたくさんありました。ぼくは、野球の体験はあるけど、まだうまくプレーできないし、バットにもうまくあたりません。でも、プロの人はそれらができているからぼくはすごいと思いました。ぼくも野球の基本を学んだような気がします。

応援は、四年生のみんなとできたのがうれしかったです。神田先生が応援の指導をしてくれなかったらみんなと同じことができなかつたと思うし、歌もぼくは覚えられなかつたと思います。神田先生のおかげでみんなが一つになって応援できたんだと思います。

あと、応援をするときに他の学校の友達と応援できたのでよかったです。会ったばかりなのに仲良くできたからです。友達がちょっと増えたような気がしました。

ぼくは最初、この「ふるさと夢プロジェクト」がなにかわかりませんでした。でもちょっとだけわかつたような気がしました。

豊平のどんぐり村で試合を見ることができて、うれしかったです。北広島町はとてもいい町だと思います。ぼくは、北広島川の川にいる魚も好きです。

また、どんぐり村にカープの応援に行きたいです。

## 仲よくできたカープの観戦

新庄小学校 大内 壮翼

8月9日にバスでカープ観戦に行きました。ぼくは、この日をとても楽しみにしていました。

まず、大朝小学校の4年生が乗っているバスでどんぐり村に行きました。ぼくは、野球クラブで知り合つたゆきち君のとなりにすわりました。大朝小学校の4年生は思っていたより人数が少なかつたけど、ぼくたちと同じくらいの人数だったのでよかったです。

バスの中では、みんなで「それいけカープ」を歌いました。そしてエルドレッドや堂林の応援歌を歌いました。でも、ぼくはエルドレッドの応援歌しか覚えられませんでした。

スタジアムに着いた時、ぼくは「昔、兄ちゃんの野球の試合でここに来たことがあるかもなあ。」と思いました。

カープの試合が始まりました。これまでの応援の練習の成果を発揮する時が来ました。ぼくは野球を習っているので、カープの選手、もしくはオリックスの選手のプレーをしっかりと見てみたいと思いました。

試合は、オリックスが先攻でカープが後攻でした。オリックスははじめの2回で10点取りました。その後、カープは7点取りました。でもオリックスも負けずに3点を加えました。

次の回はカープの攻撃だったのですが、雨が降って途中でゲームセットになりました。急いではじめにみんなで集まった場所に集合することになりました。

試合は13対7でカープが負けたので、ショックでした。そして、カープの選手との交流がないと聞いて、さらにショックを受けました。

でもぼくはしっかり応援できたのでよかったし、他の小学校の4年生と仲良くなれたのでうれしかったです。またカープの観戦に行って応援したいと思います。そして、次こそカープが勝ってほしいと思います。

## 北広島ふるさと夢プロジェクト カープ観戦

川迫小学校 日高 咲歩

私はカープ観戦は初めてでした。球場を見るのも初めてだったので、楽しみでした。どنگりスタジアムに着くと人がたくさんいました。

開会式の後、急いで球場の中に入りました。球場は応援のお客さんでいっぱいでした。が、その時くもりで「雨がふりそうだな」と、いやな予感がしました。

対戦相手はオリックスでした。一番先に点をとったのは、オリックスでした。カープも頑張っけて点をとりました。結果は雨のため、7回コールド負けでした。試合には負けたけれど、プロのわざはすごいなと思いました。ピッチャーの投げるボールはすごく速くて、あっという間にキャッチャーにとどいていました。ホームランのボールは、すごく遠くまで飛んでいきびっくりしました。

試合以外に心に残った事は、スライリーというカープのキャラクターが、ボールを投げてお客さんにプレゼントしたことです。スライリーは何回もやって5回ぐらい投げてやっとできた時、大歓声が起きました。人気者のキャラクターをすぐ目の前で見る事ができたのも思い出になりました。

カープ観戦の後、夏休みに、父と弟と私でキャッチボールの練習もしました。最初のころは一回しかボールをキャッチできなかったけれど、だんだんと自分もおどろくほどキャッチできるようになりました。父からも

「キャッチ、うまくなったね。」

と、ほめられました。もっと練習してうまくなりたいです。

## 精一杯応援した カーブ観戦

川迫小学校 本家 綺乃

北広島町ふるさと夢プロジェクトで、プロ野球ウェスタン・リーグ公式戦を見に行きました。川迫小学校は、八重小学校の4年生と一緒にバスに乗りました。八重小の人もカーブ応援グッズを持っていました。バスの中では、自己紹介をしたりして盛りあがりました。

球場の中は、お客さんでいっぱいでした。私たちは、バックネットうらの席にすわりました。球場や選手の様子がよく分かりました。カーブの攻げきになると上からも下からも大きな声で応援が始まり、耳が痛くなるくらいでした。私も、いっしょに拍手をしたり応援歌を歌ったりしました。一緒になって応援することは、いいなあと思いました。

試合は雨になり、カーブは7対14でコールド負けになってしまいました。カーブが負けて残念ですが、プロの試合を実際に見るのは初めてだったので、心に残る1日になりました。私もスポーツが好きなのですが、野球のルールが分かりませんでした。でも、この試合を見ているうちにルールが何だか分かったような気がしました。

## カーブ応援を終えて

八重小学校 松本 柚菜

8月9日に「北広島町ふるさと夢プロジェクト事業」でカーブ2軍のおうえんに行きました。おばあちゃんに「2軍は1位なんよ。」と言われたので、今日も勝つだろうと思っていました。そして、学校にバスが来ました。

豊平ウィングに着きました。その時はむねが高鳴っていてずっとかん客席をさがしていました。

試合が始まりました。「ファウルボールにご注意ください」という紙がはってあったので、ボールが取れるのではないかと期待しました。でもそのしゅん間、相手がホームランを打ったので口がぽかんとになりました。それからというもの、「あの人がああすれば…」ということが何度かあり、1回の表で5点も取られてしまいました。負けずぎらいのわたしでも、あきらめかけてしまいました。2回の表でも5点を取られ、後ろの方では、

「このままずっと5点なんじゃない。」

という声も聞こえました。

そして3回の表では4点取られました。でも岩本選手がホームランを打って2点入りました。14対7になって、まんるいホームランをすれば逆転もできると思いおうえんしました。

「カーブ、カーブ、カーブ広島 広島カーブ…」というおうえんのほかに、「かっとばせー、天谷…」というおうえんや「今日のカーブは…」というおうえんもありました。少しおぼえないといけませんでしたがかんばりました。

その時、ポツン、ポツンと雨がふりはじめ、少したってザザーという音にか



わかりました。先生の、

「中だんで一す。」

という大きな声が聞こえました。「最後まで見たいけど…でも帰らないといけない。」と思いながらいどうしました。予想外のはげしい雨でとってもざんねんでした。

でも今日は、野球のルールが分からないまま行ったけれど少しだけ野球のルールが分かりました。今度は、マツダスタジアムに行って1軍をおうえんしてみたいです。

2軍は次は勝ってほしいと思いました。今日は楽しかったです。

## カープのおうえん

八重小学校 堀川 楽真

きのう、カープ2軍のおうえんに行きました。最初は天気がよかったのですが、午後から大雨がふり始めました。

カープは初回から5点も取られてしまいました。ぼくは、とてもざんねんでした。でもカープは3点取りました。しかしなかなか同点に追いつけませんでした。そのままカープ3点のままオリックスに点をあげるばかりでした。

そして、何点も何点もとられて、最後のピッチャーが投げようと思ったとき、とつぜん雨がふりだしました。まだ回はたくさんあったのに、と中で雨がふったのでとてもくやしかったです。

ぼくは「それ行けカープ」を声がかれるまでずっと歌い続けました。それに「かっ飛ばせ かっ飛ばせ 堂林」とかいろいろなふうに歌いました。

ぼくは、1軍でも2軍でも、とにかくカープに入団したいです。そしていつか、新井選手みたいにホームランやヒットをたくさん打ちたいです。守りは、菊池選手みたいにうまくなりたいです。ちなみに2軍の中で一番好きな選手は、エルドレッド選手と堂林選手です。1軍の中では、新井選手・菊地選手・丸選手・田中選手・黒田選手です。ぼくもいつかみんなにおうえんしてほしいです。そしていつか、ファンの人にサインをたくさんあげたいです。でもその前にぼくは、自分のことをがんばらないといけません。そのためには、おうえんをしっかりしてあげないとなりません。

試合の合間に、スライリーがボールをぼくらのほうに投げてくれました。でもそのボールは、ぼくよりちょっとななめ後ろのところに落ちました。それなのでとてもくやしかったです。あと、会場について最初の歌の練習のときも、おうえん団長の後ろにスライリーがあらわれて、団長の後ろでこしを動かしてぼくたちをわらわせてくれました。

試合が終わった後、お父さんといっしょに帰ることになりました。お父さんといっしょに選手が出てくるのを待ちました。すると、たくさんの選手がざんねんそうな顔で出てきました。

ちょっとざんねんだったけどおうえんに行けたのでとてもよかったです。また機会があったら2軍か1軍のおうえんに行きたいです。とてもいい思い出をのこしました。

## カープ2軍おうえん

八重小学校 有間 陽菜

今日8月9日、町内の4年生が北広島町4年生夢プロジェクトでカープのおうえんに行きました。カープの歌詞カードを配られて、みんなでおうえんの練習をしたり、家で練習したりしていました。今年はカープ2軍の調子がよかったので楽しみにしていました。

11時20分、バスに乗って出発しました。バスの中で最初は名前・たん生日・好きなカープ選手を言ったり、近くの席の人と話したりしていました。そうやって話しているとすぐ、どんぐりスタジアムに着きました。着いたら一か所に集合して、おうえん中に注意することや、カープが打ったらどうするかなど教えてもらい、球場へ行きました。わたしの後ろが習っているダンスの友達で話しました。

試合が始まって最初からオリックスに2・3点入れられて、やばいやばいと思っていたら、カープも負けていませんでした。カープのおうえんの時はみんな、「カープ、カープ、カープ広島 広島カープ 空をおよげと天もまた胸を開く…」と歌いました。3回ぐらいになって、オリックスにばんばん打たれ始めました。それからカープのこうげきになって、もう暑の中必死で声を出しバットをたたきおうえんしました。それでも1回のゲームで取れる点数は1点ぐらいでした。オリックスがカープの点数を大きく引きはなし6点差ぐらいになりました。と中であきらめかけたときもありました。でも最初に言われた、「みんなのおうえんでカープを勝たせよう。球場を真っ赤にそめよう。」の言葉を思い出して最後まであきらめずにおうえんしようと思いました。

5回までやった後球場のせいびがあって、スライリーが出てきました。スライリーはボールを投げました。1回目はネットの真ん中のほうでとどかず…すかさずみんな

「もう1回。もう1回。もう1回。」

と言いました。スライリーは元気を出してもう1回。それもとどきませんでした。みんなはまたさっきと同じように言います。スライリーはそれから3回ぐらい投げました。でもとどきませんでした。元気を出してもう1球。その1球はわたしの足元に落ちました。ボールが落ちてきたので取ろうとするとちょっとはなれた別の人が取りました。くやしかったです。

野球は7回で雨のため中止になりました。14-7でした。

カープのおうえんは暑かったけれど、いいおうえんができたと思います。楽しかったです。

## カープ野球かん戦

壬生小学校 頼重 蓮太

今日、カープかん戦がありました。バスの中で歌の練習をしました。バスからおりると、ほかの学校の人たちがいました。全員そろくと、夢プロジェクトの開会式が始まって、その後カープのし合いを見に球場の中へ行きました。

まず、一回表はオリックスのこうげきでした。ホームランなどを打たれて5点をとられました。次はカープのこうげきでした。ホームランは打てなかったけど、ヒットを打って3点をとりました。二回にもオリックスに5点をとられました。堂林選手が打席にあがっているときシアーホルツ選手がバッドを2本持ってすぶりをしていたので、重いバットを2本もかるがるとふっていてすごいなあと思いました。その後、みんなでカープの歌を歌って、カープをおうえんしました。シアーホルツ選手はヒットを打ってるいに出ていたのですごいなあと思いました。だけど、この回は無とく点になったので、おいしいなあと思いました。次の回ではオリックスはまた点を取って、カープは無とく点でした。その次の回は、投手がうまくおさえてオリックスは無とく点でカープも無とく点でした。さらに次の回でもオリックスは無とく点でカープも点を取れなかったのでくやしかったです。オリックスは14点取っていて、カープは3点取っていました。すごく差があるから僕だったらあきらめてしまうかもしれないと思ったけど、カープの選手はあきらめずに、4点も取ったのですごいなあと思いました。だけどその後、雨がふって、試合は中だんになって、14対7でカープは負けてしまったのでざんねんでした。

その後、最初に開会式をしたところで今度は閉会式をしました。それが終わると順番にバスに乗ってそれぞれの学校にもどりました。バスの中でとなりの席の友達とカープのことや夏休みのことを話しました。次はカープに勝ってほしいほしいなあと思いました。

## 北広島町でカープ

壬生小学校 箕田 有花

今日、北広島ふるさと夢プロジェクトで、カープを応援しに行きました。私は、野球の事はよく分からないけど試合を見るのがとても楽しいです。カープは、最初にオリックスに点を取られてしまいました。だけど、カープは、オリックスが入れた点までは入らなかったけど、がんばって点を入れました。晴れていたからとても暑かったけど、選手みんなががんばっていたからいいなあと思いました。

私は、ストライク、ボールのどっちになったのか分かりませんでした。でも、投げたボールがストライクかボールかが、スコアボードに書いてあったから分かりやすかったです。私は、となりにいた友達に、「今の球って、ストライクとボールのどっち。」と、聞いたら教えてくれたのでうれしかったです。その友達は、カープの一軍の試合によく行っているから分かるのかなと思いました。

そう思っている間に、野球を見ていたら空から雨がふってきていました。かさ、かっぱを持って行くのをわすれていたから、よびのユニフォームを着ました。タオルなどをかけ、できるだけぬれないようにしました。少しぬれた時は、とても寒かったです。でも、あまりぬれなかったからがまんができました。その後バスに乗って帰る時、私は、一人ですわって壬生小学校に行って、元南方小学校の校庭に行き、校長先生に小木次のバスでいでおろしてもらいました。作文には、何を書こうか考えながら帰りました。

私は、カープは負けてしまったけど、とてもがんばってやっていたから良いと思いました。私は、ストライクかボールかがちゃんと分かるようになりたいです。雨で2軍のカープ選手とふれあう事ができなかったのがざんねんでした。雨がふった時、かっぱ、かさを持って行かなかった事をこうかいしました。家に帰った時、足を見るととても日やけをしていたから、暑かったからかなと思いました。

## カープ戦に行ったこと

壬生小学校 岡本 俊佑

今日、カープ戦に行きました。相手は、一気に5点を二回連続で取ったから相手は強いなと思いました。そんなに強いとは思わなかったから、最初は「ぜったい勝つ」と思ったのにこれはまずいなと思いました。でも、カープも負けずに二回連続で点を取ったから、相手とくらべていい勝負だなと思いました。ぼくは、カープ選手が負けていてくやしかったのか、打てなくてくやしかったのか、バットを投げていたので、おこってくやしがっているのかなと思いました。それからオリックスのおうえんだんの人はそんなにいないのに、なぜカープが負けるのかなと思いました。14対7でカープが負けました。ぼくは14たい7で負けて「くそー」と思いました。先生たちが「がんばれー」とおうえんしていたので、ぼくも本気でおうえんしました。カープ選手が本気で打ったり、バシッとボールを取ったりしてがんばっていたのに、負けるとは、くやしいなと思いました。

その後、急に雨がふりました。少しの雨だったから安心したけど、みんな本気でカープ選手をおうえんしていると、カープが1点入れました。そのしゅんかんに急に雨がたくさんふり始めて、野球は中止になってしまいました。くやしいなと思いました。

ぼくは、今日、野球を見て、ぼくも、カープ選手みたいにホームランを打ちたいし、選手が打ったボールをとれるようにがんばりたいです。ぼくのしょう来のゆめは、カープ選手だから、ぼくも打てるようにがんばりたいです。

## カープかん戦

八重東小学校 田中 悠莉

8月9日の日曜日に、北広島ゆめプロジェクト、「若鯉（カープ）を応援して、真っ赤に燃えよう」で、とよ平どんぐり村にある、どんぐりスタジアムへ野球を見に行きました。

どんぐりスタジアムでは、カープ対オリックス戦をしていました。行きのバスでは、本地小学校の4年生のたんにんの先生が話をしてくださいました。どんぐりスタジアムに着いた時には、もう人がたくさんならんでいました。あともう少しで12時30分になりそうだったので、スピーチはできませんでした。席にすわると、し合が始まりました。わたしは、野球のし合を見に行ったことがなかったから、野球はどうやってするのかかなと思いました。

1回も2回も、オリックスは5点も入れていました。カープも、5回目くらい

から点を入れるようになりました。とちゅうで、スライリーが出てきて、ボールを投げたり、ホースの水がかかりそうになって、にげたりして、応えんをもり上げていました。

6回になって、カープが少しずつ点を取り返していました。そのころから、雨がぼつぼつとふってきました。わたしは、このまま雨が降り続いたら、どうなるんだろうと不安になりました。ですが、雨はなかなかやみそうになく、カープのし合は雨で中止になりました。カープの選手たちは頑張っていたのに、14対7で負けてしまいました。

わたしは、野球のし合を生で見るのは初めてでした。今回は、雨がふってカープが負けてしまったのでざんねんでしたが、テレビで野球を見るのとはちがって、球場に行って生で見るのは、はく力があってすごかったです。いい経験になりました。

## カープかんせんに行った

八重東小学校 花田 卓満

カープの二軍のし合を4年生で見にいきました。ぼくは最初に学校の代表としてあいさつをすることになっていました。前の日まで一生けんめいれんしゅうをしたのに、時間がなくなったので、とてもかなしかったです。

次に席にすわりました。ぼくのとなりの席の人は、保育園の時の友達だったので、びっくりしました。し合が始まりました。ぼくはし合をしていないのに、きんちょうしてきました。相手チームのバッターが2打席れんぞくホームランを打ったから、すごいせん手だなあと思いました。でもカープのせん手もホームランを打ったり、ヒットを打ったりして、点を取り返していました。ぼくは大きな声でおうえんしすぎて声がかれてしまいました。

と中からは雨がふってきました。大雨だったので、びっくりしました。その時、カープは負けていたけど、ぎゃく転しようという気持ちがあるものがすごく伝わってきました。ぼくは一生けんめいおうえんしました。しかし、どんどん雨が強くなってし合は終わってしまいました。最後の最後まであきらめずにがんばっているカープのせん手のすがたを見ることができてよかったです。

## 真っ赤に、もえたおうえん席

八重東小学校 川上 ゆい

8月9日に、わたしたちはバスに乗ってどんぐりスタジアムに行きました。

とても暑くて、ねっ中しようにならないか心配でした。それに、すわっているだけでもあつかったのに、野球もしていたプロの選手は、やっぱりすごいと思いました。点をとったり、ホームランを打ったりしたときは、みんないっせいにかん声をあげました。カープグッズなどでみんなおうえんしたので、まるでおうえん席が真っ赤にもえたようになりました。そのおかげで、わたしは本気でおうえんすることができてよかったです。



カーブの方も、オリックスの方もわたしには1回1回がとても長く感じられました。両方とも対戦相手にかとうとしていたから、1回1回を大切にしていたのかなあと思いました。わたしもいつか、何かのきょうぎでそんなし合を試してみたくくなりました。

5回か6回くらいでは、カーブは負けていました。けれど、だんだんそのころからカーブがおいあげてきました。「もしかしたらぎやく点するかもしれない！！」とみんなも思っていたと思います。わたしもそう思っていました。わたしたちは、はく手をしたり、おうえんの歌を歌ったり、ポンポンをふったりして、一生けんめいおうえんしました。ほかにおうえんに来ていた人たちも、一生けんめいおうえんしていました。

でも、天気はみ方をしてくれませんでした。だんだん黒い雲がふえていき、雲ゆきがあやしくなってきた、ついには大つぶの雨がふり出しました。し合は中止になり、選手との交流もなくなってしまいました。そして14たい7で負けてしまいました。けれど、わたしはこのし合を見てよかったと思います。最悪の結果となってしまったけれど、とても速い球を投げたり、遠くのボールをかんたんそうにキャッチしたりするところなど、プロの選手のすごさを学べたからです。

わたしは、このし合でみんなと本気でおうえんして負けても、あまりくやしくないことに気がつきました。この体験を生かして、本気で物事に組みたいと思いました。今度もみんなとしっかりおうえんして、くやしくないぐらいしっかりおうえんしようと思いました。

## カキーン

八重東小学校 隅井 貴徳

8月9日に、北広島町の4年生全員でカーブの二ぐんをおうえんしました。

さいしょに、本地小学校の4年生といっしょにバスに乗り、会場であるとよ平ウィングのどんぐりスタジアムへ行きました。会場へ着くとたくさんの人、たくさん4年生がいました。次にいよいよし合が始まりました。知っている選手が一人し合に出ていました。せ番号7のどう林選手です。相手のオリックス先攻で始まりました。オリックスが順調に点を入れていきました。その次にカーブがせめました。するとかん客席から、

「カーブがんばれー！負けるな。」

と、たくさんのおうえんの声。カーブも負けてはいません。カーブの選手がホームランみたいに「カキーン」と、ボールを打ったので、オリックスに少しずつおいついていきました。

し合のとちゅうで休けいがありました。スライリーがカーブの選手のサインボールをぼくたちの席の方へ向かって投げてくれました。5回くらいネットに当たってスライリーの方へ落ちていくのでみんな、

「アンコール、もう一回。」

と言いました。スライリーがもう一度投げると、ボールがぼくたちの方へ落ちてきました。すると八重小学校の人がキャッチしたので、いいなと思いました。

休けいが終わり、カープがオリックスにおいつきそうになったとき、雨がふりはじめたのでし合が中止になりました。そしてオリックスが14点、カープが7点でオリックスが勝ちました。でもファウルボールがとんできたり、ボールを打つ音が聞こえたりしたので、よかったです。

ぼくは、カープの二ぐんの選手が最後まであきらめずに戦っている姿を見て、カープの選手の強さやすごさをあらためて知ることができてうれしかったです。

## 真っ赤にもえたカープ

八重東小学校 細田 爽花

8月9日にカープのおうえんに行きました。

わたしは夕立で雨がふるかと心配していました。しかし、そんなことはわすれておうえんし続けました。相手はオリックスで、カープの二ぐんなら勝てると思っていました。ホームランやいろいろなプロの選手のわざを見ることができました。そしてほかの学校の友達ができ、いっしょにカープのおうえんができてよかったです。

わたしは今までサッカーにしかきょうみがなかったけれど、カープのおうえんを始めて、ルールが少し分かり、点を入れたり入れられたりを見ていて、よそう以上に楽しむことができました。

本当はし合がまだあったけれど、心配していた雨がふってきて、中止になりました。結果は、カープが負けてしまったけど、選手もがんばっていたので、すごいと思いました。

今度おうえんに行くときは、勝ってほしいです。

## カープの二軍の試合

本地小学校 砂原 拓海

今日、北広島町のすべての学校の4年生と「夢プロジェクト4年生カープ応援」で、どんぐりスタジアムに行きました。

ほかの学校で、ぼくの知っている人が5人くらいいました。その中の1人は、日加利君をはさんととなりだったから話しました。

カープ対オリックスでした。カープは1回から点を取られて1回で5対3で負けていました。その後も点を取られました。7回で14対7で7点差でした。すると急に雨がふりだしました。最初は、小雨だったけどだんだんに雨が強くなってきたから野球はコールドゲームで負けでした。雨で中止の放送がなったらすぐに雨がやんできました。

ホームランは、オリックスバツファローズのおくなみ選手が3ランとまんるいホームランの2本を打ち、4打数3安打8打点でした。ほかにホームランを打ったのは、カープの岩本たかひろ選手です。ライトの森の方に飛んでいきました。そしてカープの選手でヒットを打ったのは、天谷選手が3打数1安打1打点で、阿部選手が3打数1安打で、土生選手が1打数1安打で、どう林選手が3打数2

安打 2 打点で、くわ原選手が 2 打数 1 安打でした。2 るい打を打ったのは、天谷選手と土生選手とどう林選手でした。

カープは、3 回までで 10 対 3 で 7 点差でした。6 回までで 14 対 6 で 8 点差でした。そして 7 回に 1 点返して 14 対 7 でオリックスバファローズのこうげきの中にも今村投手が投げているときに雨がふりだしました。

エラーをしたのは、おくなみ選手と山本選手と園部選手と天谷選手がエラーをしました。ぼう投したのは、中村選手と辻選手です。

2 時間 38 分という短い時間でしたが、おもしろかったです。また行きたいです。

## カープ応援でドキドキ

本地小学校 瀧本 優衣

今日、豊平のどんぐりスタジアムで、カープ対オリックスの試合を見に行きました。この日のために、カープのぼう子や応援グッズをおばあちゃんやお母さんが買ってくれて、カープの応援に行くのがとても楽しみでした。小学校からバスに乗っていきました。八重東小学校と一緒にバスで、いどころに乗っていました。どんぐり村に着いて開会式がありました。カープの歌を歌っているときにスライリーが来てくれておどっていました。スライリーが来てくれたので、はじめからびっくりしました。

それから試合が始まりました。最初にオリックスの攻めきでした。5 点をとられてしまいました。ドキドキしながら、いっしょうけんめい応援しました。と中から頭がいたくなって涼しい場所できゅうけいをしていたのでと中が見れなくてざんねんでした。休んでいる間も試合がどうなったかと思っていました。頭がいたいのがなおったのでまた応援にもどりました。カープの選手が点を入れていたのでいっしょうけんめい応援しました。8 回の表で、雨が降り出して、結局試合ができなくなってしまいました。けっかは、7 対 14 でカープが負けてしまいました。とてもざんねんでした。最後まで試合を見たかったです。

ウエスタンリーグの順位表では、カープが 1 位だから、このままがんばってほしいなと思いました。

閉会式が終わって、わたしはバスでは帰らず、お母さんたちと一緒に帰ることになったのでカープの選手が出てくるのを、ごう田さんとごう田さんのお母さんたちと一緒に待っていました。最後に外国人の選手が出てきたので、

「サインプリーズ」

言ったら、マイクザガースキー選手が、ぼう子にサインをしてくれました。とってもうれしかったです。エルドレット選手もいて、大きくてびっくりしました。カープの選手を近くで見れてうれしかったです。

カープの試合をまた見に行きたいと思いました。サインつきのぼう子は、わたしの宝物になりました。

## カープがんばれ

豊平小学校 船木 崇志

8月9日、北広島町の「若鯉（カープ）を応援して、真っ赤に燃えよう」という行事で、豊平どんぐりスタジアムに、プロ野球2軍戦（カープ×オリックス）を観戦しに行きました。

ぼくは、野球を応援するのは、初めてだったので、行く前にお母さんとカープの歌を練習しました。シャツなどを持っていなかったのですが、どうしようかと思っただけで、赤いシャツをお母さんが買ってくれて、「よし、これで準備オッケー。しっかり応援するぞ。」と、やる気が出ました。

当日の朝は、よく晴れていて、「野球にむいているいい天気だ。カープの試合が楽しめそうだな。」と、ワクワクしました。お母さんに車で送ってもらって、スタジアムに着きました。

いよいよ試合が始まりました。「さあ、始まったぞ。カープが勝つように、しっかり応援しよう。」と心の中で思いました。ぼくは、大きな声で一生けん命応援しました。豊平小学校の友だちも、他の小学校の友だちも、大きな声で応援していました。

ところが、前半はカープは負けていて、見ている大人の人がたくさんやじをとばしていました。それを聞いてぼくは、「やじをとばすなら、自分がやってみればいいのに。」と思いました。「選手はみんな頑張っているのだから、見ている人は試合を楽しめばいいのに。これじゃあ、やじをとばす人も、まわりの人でも試合を楽しめない。」と、ぼくは少し悲しい気持ちになりました。

でも、後半は前半よりカープががんばって点を取っていました。だから、やじもあんまりとびませんでした。やじがへったので、ほっとしました。

せっかく、カープががんばって追いつきそうになったのに、大雨がふってきて野球は中止になりました。だから、サインなどももらえなかったのが、ちょっと残念でした。

帰りの車の中で、お母さんに、「なんで選手は、暑い中、野球をがんばっているのに、文句を言う人がいるのだろう。」と聞いてみたら、お母さんが、「選手はお金をもらって、見に来ている人に楽しんでもらうのが仕事だから、勝ったり、よい試合をしたりすることがプロとして当たり前なので、仕方がないことなのよ。」と教えてくれました。

ぼくは、それを聞いて、「そうか、仕方がないことなんだな。だから、このきびしさは当たり前なんだ。」と思いました。そして、「プロの人は、大変さを乗り越えてがんばっているんだな。」と分かりました。

これからも、カープの選手にがんばってほしいなと思います。ぼくも、カープの選手に負けないぐらい、いろいろなことをがんばっていきたいです。

カープを、みんなでも応援するから、次は、勝ってほしいなと思います。

## カープのおうえん

豊平小学校 杉野 晴菜

8月9日(日)に、どんぐりスタジアムで、カープの2軍のし合がありました。町内の4年生が集まって、いっしょにおうえんをしました。

わたしは、朝、「お昼から暑くなる。」という天気予ほうを聞いていたので、ねっ中しようにならないように、ネッククーラーや、氷をたくさん入れた水とうなどを持って行きました。ねっ中しよう対さくをバッチリしたので、「これで、思い切りおうえんできるぞ。楽しみだな。」とっていました。

どんぐりスタジアムについて、友だちとならんでいすにすわると、わくわくしました。わたしは、今まであまり、マツダスタジアムなどに行って、カープのおうえんをすることはなかったので、本物のカープの2軍のせん手を見て、信じられないような気持ちになりました。

いよいよ、し合が始まりました。1回のオリックスのこうげきで、5点を取られてしまいました。でも、次のカープのこうげきで、カープが3点を取ってくれました。私たち4年生が、「カープがんばれ！」と、ひっしでおうえんしたので、カープのせん手もがんばってくれたのだと思いました。だから、「よおし、もっともっと、おうえんするぞ。」とはりきって声を出しました。みんなもはりきっておうえんしていました。

ところが、次の回からも、オリックスに、次々と点をとられ、「だいじょうぶかな。本当に勝てるのかな。」と、わたしは少し不安になってきました。でも、町内の4年生全員で歌を歌って応援すると、カープも、少しずつ点を取り始めました。「やっぱり、力を合わせておうえんしたら、こうかがあるんだな。がんばっておうえんして、よかったな。」と思いました。

暑くて暑くて、水とうにたくさん入れた氷もとけて、お茶もなくなり、ネッククーラーもかわくほどの、もうれつな暑さの日だったけれど、町内の4年生が心を一つにしておうえんができて、本当によかったです。みんなでおうえんしたことは、すてきな思い出になりました。

ざんねんながら、し合は14対7でカープが負けたけど、せいいっぱいおうえんができたので、とても楽しかったです。また、やってみたいなと思いました。

## ざんねんだったけど、がんばったウエスタンリーグ

豊平小学校 斎藤 美雪

8月9日、私たち北広島町の4年生は「ふるさと夢プロジェクト」で、どんぐりスタジアムで行われた広島東洋カープの2軍の試合を応援する行事に参加しました。

私たち4年生の目標は、「カープが勝てるように、大きな声で気持ちのこもった応援をする！」です。そのために、応援グッズを使ったり、応援歌を一生懸命練習したりして、応援の気持ちを選手にとどけたいとっていました。

初めは、オリックスのこうげきです。オリックスの奥浪選手に2打席連続ホー

ムランを打たれてしまい、1回の表と2回の表だけで5点ずつ、合計10点も入れられてしまいました。カープも、一回の裏に3点入れましたが、10対3と、すごい点差だったので、「絶対に負けてほしくない。」と、応援に熱が入りました。豊平小学校のみんなも、ほかの学校のみんなも同じ気持ちだったと思います。みんな、大きな声で応援しました。

だけど、その後も、オリックスにたくさん点を入れられてしまいました。カープも点を入れることはできたけど、オリックスの点に追いつくことはできませんでした。カープにも、点を入れるチャンスはあったものの、フライでアウトやダブルプレー、三振などでチャンスをのがしてしまいました。

とうとう、14対7になってしまいました。私は、「このままで終わらいたい。カープに、すごくがんばってほしい。」と思って、思い切り応援しました。そのうち、だんだん雨がふってきました。「まだ、がんばれる。コールドゲームにならないで。」と心でお願いしていました。でも、雨が本当に強くなってきて、とうとう放送が流れました。カープ対オリックス戦は、コールドゲームになってしまい、14対7の大差で、カープはオリックスに負けてしまいました。

負けと決まった時、「あんなに一生懸命応援したのに、負けてしまった。」と、私はとてもくやしくて苦しいぐらいでした。でも、ふりかえてみると、カープの選手はがんばっていたと思いました。私たちも、北広島町の4年生が力を合わせて応援をがんばることができました。だから、カープの試合を見ることができたといいと思います。また、みんなでいっしょに、カープの応援をしてみたいです。



# 6年

## 夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう



## 北広島ふるさと夢プロジェクト事業（6年）実施要項 ～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 平成27年10月23日（金） 9:15～15:10  
 場所 千代田運動公園（総合体育館 多目的広場）  
 〒 731-1514 広島県山県郡北広島町壬生字西谷 500  
 TEL 0826-72-8822

### 2 目的

- 植松電機 植松努専務取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

### 3 対象児童 小学校6年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	9	11	14	3	18	8	17	10	8	98
女子	12	6	7	3	11	8	5	7	18	77
児童数	21	17	21	6	29	16	22	17	26	175
引率者	2	2	2	2	3	2	2	2	2	18
計	23	19	23	8	32	18	24	19	28	193

※引率者は、各学校2名以上とする。

### 4 日程

#### (1) 各学校より会場への集合 [大型バスー3台 中型バスー3台]

- ①芸北小＝中型バス（23） [8:10]      ②大朝小 [8:15] →新庄小 [8:25] ＝大型バス（42）
- ③川迫小 [8:20] →八重小 [8:35] ＝大型バス（38）
- ④本地小 [8:20] →八重東小 [8:30] ＝大型バス（37）
- ⑤壬生小 [8:30] ＝中型バス（24）      ⑥豊平小 [8:15] ＝中型バス（28）

※ 9時00分に会場に到着できるように、計画をしている。

#### (2) 全体会・活動の流れ

各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて、1階のフロアに集合する。持参した屋内シューズに履き替えて二階へ（くつはビニール袋等へ入れて持っておく）

#### ◆開会行事（9:15～9:50）ー総合体育館（講演・ロケット作りも）

①開会挨拶（副応援隊長ー副町長）

②校長代表挨拶

③学校紹介（各学校2分程度）ー学校の特色ある取組とロケット作りへの意気込みなどー

#### ◆植松電機の植松努専務取締役の講演会（10:00～11:00）

#### ◆ロケット製作（11:00～12:30）

※昼食（12:30～13:30）ー学校ごとにアリーナの二階で弁当を食べる。

#### ◆ロケットの打ち上げ（13:30～15:00）ー多目的広場ー

#### ◆閉会行事（15:00～15:10）ー多目的広場ー

①閉会挨拶・謝辞（校長代表）

②児童代表挨拶

※閉会式後、バスのグループごとに学校へ帰る。

## 5 会場・準備物等

### (1) 開会式・講演会

#### 【町教委】

○横看板

「北広島ふるさと夢プロジェクト（小6）「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

○立看板（講演演題）

「思うは招く～夢があればなんでもできる～講師 植松電機（株）専務取締役 植松努 先生」

○演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）

○プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など  
パソコン（マック）は、講師が持参される。

#### 【千代田運動公園】

○音響装置（マイク・スピーカー 等） ○椅子－193脚

### (2) ロケット製作

#### 【町教委】

○長机－42脚（他施設より搬入）

○マジック〔油性〕・黒175本 ・色がセットになっているもの－30個  
モデルロケットに絵を描くのに必要。

#### 【学校】

○マジック〔油性〕・色がセットになっているもの－持って来られるだけ  
グループごと色がセットになっているものが2個以上は必要。

※児童が準備する物はない。

### (3) ロケットの打ち上げ

#### 【町教委】

○安全な発射，多目的広場の安全確保のためのサポート員の確保。

### (4) 費用について

#### 【町教委】

《植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）－小学生以下・・・2800円／1人－175人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

## 6 報告書作成について

■実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。アンケート事前に各学校へ送付する。

■次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい，実施計画

講演会の内容，ロケット実施の様子

<写真入りで，概要をまとめる>

児童の作文<各学校3人以上（川迫小2名）－400字原稿用紙で5枚程度>

実施後のアンケート結果

## 7 役割分担

千代田ブロック中心に分担。千代田ブロック担当については事前に協議して決定する。

- 植松電機・講演講師との渉外（豊平小<佐々木>） ○講師の昼食（町教委）
- バス会社と連携（豊平小<佐々木>）
- 教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（各学校） ○会計（町教育委員会）
- 全体会に関わって
  - ◆全体会進行<千代田ブロック> ◆開会式校長代表挨拶<千代田ブロック>
  - ◆閉会挨拶・謝辞<参加校長代表> ◆児童代表挨拶（閉会）<千代田ブロック>
- 報告書作成
  - ◆プロジェクトのねらい（豊平小）
  - ◆講演会の内容－A4で、2～4枚程度<千代田ブロック>  
講演会・活動の様子－写真入り，A4で4枚程度にまとめる。<千代田ブロック>
  - ◆記録用写真撮影<芸北小・大朝ブロック>）
  - ◆作文<各学校3人以上（川迫小2名程度）>  
学校ごとに指導して作成－作文をパソコン入力して，データを豊平小へ送付
  - ◆実施後のアンケート結果  
学校ごとに集計して，10月中に豊平小へ送付
- ※講演会の内容，講演会・活動の様子，作文は，11月20日までに作成してデータを豊平小へ送付
- 全体総括（豊平小－佐々木）

## 8 その他

- プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにする。服装は通常の通学服など。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具<あればカッパ・レインコート>等を持参する。
- 保護者案内は，10月9日を目安に学校ごとに作成して配布する。
- 特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。
- 前日準備をするので，10月22日（木）に各学校1名以上の職員が参加する。  
⇒依頼の文書は，後日に送付する。
- 進行状況を考慮し，適宜にトイレ時間・水分補給時間を設ける。
- 各学校より持参したマジックは，担当のグループ内に適当（1グループに同じ数）に置き，児童が使用できるようにする。町教委が準備したマジックは，学校へ持って帰ってよいことになっている（マジックセットは各学校3セット）。
- ロケット製作時は，原則，職員は大きく2つのグループに分かれて支援をするが，状況によっては臨機応変に対応する。  
→グループ3に八重東小，グループ20に新庄小，グループに壬生小28，グループ30に芸北小が関わるようにしている（学校からの連絡により配慮）。細かい分担については，関係職員が協議して決定する。
- 養護教諭が参加する学校は，想定される擦り傷などに対応できるように，応急措置ができるように準備をして参加して必要に応じた処置をする。
- 各学校でも，ロケットの打ち上げができるよう発射台を準備している。帰るときには持ち帰る。

## 「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

10月23日（金）、千代田運動公園にて、将来の「ふるさと」を担う人材の育成をめざして、町内の6年生（175名）を対象に、「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」という夢・感動体験事業が実施されました。

この事業は、全国でロケット作りの指導をしておられる植松電機の専務取締役の植松努先生を招いて、夢と希望を持って努力することの大切さについて講演をしていただくとともに、ロケット作りを行い発射させるという夢と感動がいっぱいのプロジェクトでした。

植松先生は、子供の頃からの夢を実現された秘訣について、楽しく分かりやすく、そして熱く語っていただきました。笑いあり感動あり、生き方を考えさせられることありの子供に夢と元気を与えていただく講演会になりました。夢を持ち続けること、失敗を恐れずにチャレンジすることの大切さについて、教えていただきました。

ロケット作りでは原則、自分で組立説明書を読んで、自分の力でロケットを作ります。最初は、戸惑う子供もいましたが、説明書とにらめっこしながらのロケット作りが始まりました。そのうち、グループの他の学校の児童と話をしながら作る姿が、たくさん見られるようになりました。ロケットは、基本的には部品を組み立てるという活動でした。特に苦労していたのが、パラシュート作りでした。ロケットが形になるにつれて、打ち上げへの期待で笑顔がそこかしこで見られるようになりました。最後に、マジックで模様や文字・色づけをして完成。学校を越えた友達の輪を着実に広げることができました。

一発目のロケットの発射。「3，2，1，発射」の合図で、点火ボタンを押すとロケットエンジン（火薬）に火がつき、0.3秒で時速200キロを突破し、高さ100mに届くぐらいのものすごい勢いで上がった時、子供からは、一斉に大歓声と拍手が沸きあがりました。

このプロジェクトを通して、夢を実現することのすばらしさ、ロケットを作り発射させるという感動体験、町内の児童間の親睦を図るといふねらいが達成され、一生忘れることはない体験として一人一人の胸に焼き付けられたことでしょう。

### 【学校紹介】



町内の9小学校の学校紹介では、各学校の自慢や頑張っていることを工夫して発表し合い、相互理解を深めました。



## 【植松専務取締役の講演】

「皆さんには、やったことがないことをやりたがる人、あきらめない人、工夫する人になってほしい。」「あきらめたり、やめたりしてよくなる未来はない。」「憧れは未来をよくするパワーであり、やめなければ成長できる。」「“どうせ無理”は、やったことがない人が言う言葉である。」「みんなには、すごい才能がある。大切なことは、本を読むこと。伝記には、つらいことの乗り越え方が書いてある。」など、夢を持ち続けること、失敗を恐れずにチャレンジすることの大切さについて、教えていただきました。



【ロケット作り】

説明書とにらめっこ。他校の児童とともに協力しながらロケット作りをすすめました。困ったときには、植松先生がサポートしてくださいました。







### 【ロケットの打ち上げ】



楽しみにしていた打ち上げの瞬間。期待と不安の中、発射スイッチを押すとシュシューという噴射音とともに、ロケットは大空高く舞い上がりました。大歓声の児童でした。







空高く飛んでいった自分のロケットを見上げ、上空で開くパラシュートにつながったロケットを取るためにみんな猛ダッシュしていました。



## 講演会 「宇宙へとばせるロケットづくり「思うは招く」 ～夢があればなんでもできる～

講師 植松電気株式会社専務取締役 植松 努 先生

※ 民間で宇宙開発に携わっておられる植松努さんのお話を聴きました。



今日は皆さんに会えることを楽しみにしてきました。今日は皆さんに小さいロケットを作ってもらいます。このロケットは小さいです。小さいですが、宇宙で使うことのできる本物の実験装置です。だから、今日皆さんが作るロケットは発射台にセットして、ボタンを押すと、0.3秒で時速200キロを突破します。ものすごい勢いです。そして上空で自動的にパラシュートを開いてここに戻ってきます。戻ってきた後は、ロケットエンジンを取り替えたなら何回でも飛びます。それを今日皆さんは、1個ずつ持って帰ります。

そして、皆さんの学校にはそれぞれ1台ずつ発射台がプレゼントされます。ということは、皆さんは、学校でもロケットを飛ばすことができるのです。今日皆さんはロケットを作れて飛ばせる人になってしまうのです。周りの大人に聞いてみたらいいです。「作れると思う?」「作ったことある?」ほとんどの大人は、「無理じゃないの。」と言います。でもみんなは作れちゃうんですね。だから、みんなの夢はかなうのです。世の中にある無理だ、難しいと思われていることは、実はほとんどがやったことがない人が言うだけなんです。やったらできることがほとんどです。

皆さんは、何でもできる素晴らしい人です。その証明のロケットです。今日は頑張って作ってほしいと思います。皆さんにロケットを作ってもらう前に、皆さんの大事な時間をちょっと借りて、皆さんにお話を聞いてもらいます。

そのお話は、夢のお話だったり仕事のお話だったりもするのですが、実は本当は、僕の仲間を探すための話です。「みんなが仲間になってくれたらいいな」と思ってするお願い事の話です。ぜんぜん難しい話じゃないです。今から、このスクリーンを使って紙芝居みたいにお話しますから、スクリーンを見ながら話を聞いてください。

僕は、小さい頃から飛行機やロケットが好きで、紙飛行機を作ることにのめり込み、自分で設計して作っていました。そんな自分だったから、成績はよくありませんでした。中学校の時「飛行機やロケットの仕事がしたい」と言ったところ、「出来るわけない。無理。」と先生に言われました。「飛行機やロケットの設計は、東大(東京大学)出じゃないと出来るわけがない」と言われたのです。

しかし、「ライト兄弟だって東大に行っていない。」と思いました。先生の言葉を無視して、僕は飛行機やロケットの勉強を独学でし続けました。周りからは「そんな趣味は無駄だ!受験に関係のないことをするな!」と言われました。でも願いが叶って希望の大学に進学し、今まで「そんなことをするなんて。」と言われ続けてきたことが、大学の勉強そのものでした。おかげで、大学では苦勞することはなく、多くのことを学ぶことができました。

ロケットが飛ぶ・・・泣くほど嬉しいのですが、失敗もあります。失敗したときはどうすればよいか考えることが大切です。失敗を自分のせいにははいけません。この世の中にはいろいろな能力の人がいるのです。「失敗は何でだろう」と考えて、「だったらこうしてみたら」で力になるのです。

## 【植松先生の講演スライドから】

- いやなことをがまんしないで、なんでいやだと思うのか考えたら、人を助ける発明になる。
- 美しい言葉は、本を読んで身につけよう。
- ぼくのおばあちゃん「お金は、ねうちが変わってしまう。だから、お金があったら本を買いなさい。」と言っていた。
- 学校の成績がすべてではない。
- やりたいことは、やったことがない人に相談すると、できない理由を教えられる。
- がんばれない人、できることしかしない人、考えない人が増えている。
- やったことがないことをやりたがる人、あきらめない人、工夫する人になってほしい。
- 「がまん」とは、あきらめること。あきらめたり、やめたりしてよくなる未来は無い。
- 本当の「がまん」とは、ちがう方法を考えること。
- 「どーせむり」は、やったことがない人が言う言葉。やったことがある人と仲良くなるのが大切である。
- じぶんの「夢」をどんどんしゃべろう！
- まずは、本を読もう。
- 伝記には、つらいことの乗り越え方が、書いてある。
- あきらめない生き方をコピーしよう。
- あこがれは、未来をよくするパワーです。
- 自分なんて・・・、失敗したらどうしよう、できるわけない、と思っているとそこで成長が止まる。もしも「あこがれ」をやめてしまったら、かなう夢もかなわない。
- 「あこがれ」をやめなければ、成長できる。
- 皆さんには、すごい可能性がある（自分の限界を勝手に決めてはいけない）。
- 好きなことは、がんばれる、覚えちゃう、それが本当の実力です。
- 言葉で人の可能性をうばうことは殺人と同じです。
- 人は、自信がほしいから、お金で自信を買う、自慢をする、人を見下す、努力をじゃまにする。
- 暴力を予防するには暴力をわかりやすく
- 人には、安心・自信・自由が必要です。
- 自分は安心できるかな 自信を持てているかな 自由に選べているかなと振り返って考えてみるのが大切、でも、自分のために、相手の安心、自信、自由をうばってはいけない。
- どーせむりだったら、こうしてみたら？と考えるとよい。
- ◇◇になりたいな と思ったら なぜだろう？と、まず考えてほしい。
- お金で買える＝サービス（してもらう）  
自分でやってみる＝本当の趣味（する）  
買うしかない＝してもらうしかない＝お金を払うしかない＝お金が必要
- 考えて工夫するを大切にしてほしい。
- 夢がたくさんあると一つくらい、うまくいなくてもだいじょうぶ。夢をたくさん持とう。





今まで、できないと思ひ込んで、できることができない大学生や社会人を見てきました。彼らは、せつかくいい学校に行ってもできない自分のことを責めて、自分の体を傷つけたりしていました。もったいないです。かわいそうです。人は生きていくためにどうしても自信が必要なのです。

でも、自信はお金で買えません。人を見下しても手に入りません。暴力を振るっても手に入りません。そして、独りぼっちになって守れるものでもありません。自信はやったことがないことやって身につくのです。だから皆さんは、どんどんやったことがないことをやったらいいです。

実際便利になりました。例えば、友だちの誰かが「私実は歌手になりたい。」と言ったら、「いいねえ。やってみたら」と言ってあげてほしいのです。だって、今は、ユーチューブなどで歌手としてデビューできるようになっています。その時、カメラを撮影してくれるのが得意な人がいたらいいですね。編集得意な人がいたらいいですね。メイク得意な人がいたらいいですね。衣装作るのが得意な人もいたらいいですね。ライト当ててくれたり、演出してくれたらいい・・・そういう人いたらいいですね。自分のまわりには、きっとそんなことが得意な人がいるものです。その人たちが力を合わせたら、みんながこの町で自分たちでテレビ局を作れるようになるかもしれないですね。その可能性は十分あります。

また、友だちの誰かが、「私小説家になりたいの。」って言ったら、「いいねえ。やってみて。」って言ってあげてほしいのです。だって、電子出版、自分でできるようになりました。でも、僕も本を書いてみてわかったけど、文書くだけじゃあ足りないのです。このページにどうやってレイアウトするかだけでも読みやすさがぜんぜん違うってくるのです。もちろん表紙も大事だし、目次も大事です。タイトルとか見出しも大事です。それは、僕は苦手だったのだけど、好きな人がやってくれたのです。きっと、皆さんの中に、文章書くのが得意な人もいます。レイアウト作るのが得意な人もいます。みんなが力を合わせたら、自分たちで出版社さえ作ることができるのです。

昔できなかったことができるようになったのです。だからこそ皆さんは、自分の未来というものを、昔の普通とか常識だけであきらめないでほしいのです。みんなは未来しか生きることができないのです。大人が言う昔の普通とか常識で未来をあきらめないようにしてほしい。頑張って、未来をつかんでほしいのです。

今日は、みんなに小さいロケットを作ってもらいます。でも、この小さいロケットでも、なかなかたいたしたものなんです。例えばね。アメリカのスペースシャトルの一番最初の姿は、これです。

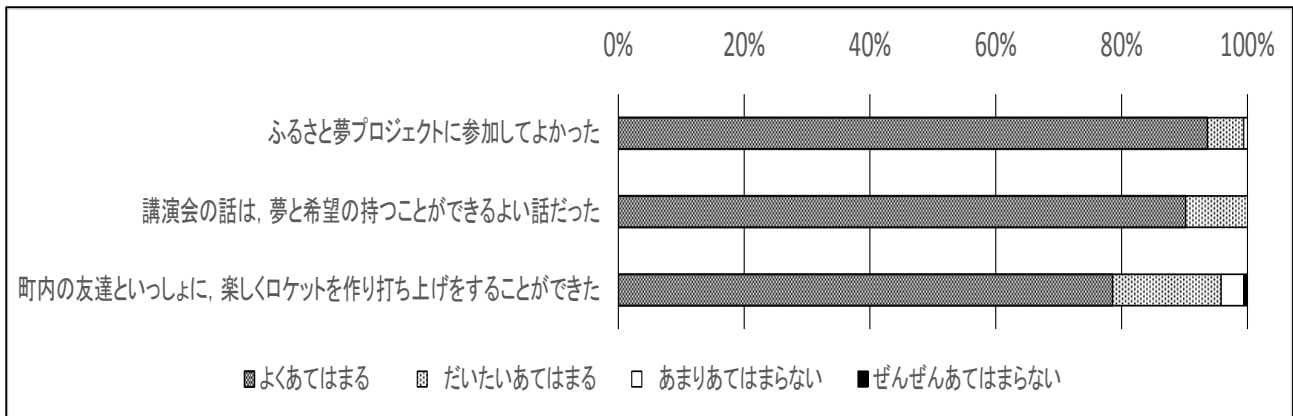
これが、アメリカの最初のロケットなのです。日本のロケットでかいですね。でも、日本の一番最初のロケットはこれなのです。実は宇宙開発って最初は個人の手作りなんです。今日皆さんが作るロケットは、最初のロケットより軽くて性能がいいのです。皆さんは今日ロケットを作れて飛ばせる人になってしまうのです。だから、ロケットを作れる皆さんは、何でもできる人ですから、ぜひ、いろんな夢をたくさん夢を追いかけてください。

そろそろ、僕の長い話を終わりにします。僕は小さい頃から飛行機・ロケットが大好きでした。ところが、僕の身のまわりにいたやったことがない大人は、全員口をそろえて「できるわけない」と教えてくれたのです。ところが母さんだけが「思うは招くだよ。」と言ってくれたのです。僕は思うことをやめなかったのです。そしたらできるようになりました。皆さんも、思い続けてください。きっとできるようになります。

最後にこの言葉を使ってくれたら嬉しいなという言葉を紹介して終わります。何回も出てきた言葉ですが、「だったらこうしてみたら」なんです。自分の夢を誰かにしゃべるのが怖いのは自分の夢が否定されたり、馬鹿にされたりするからです。でも、何で他の人の夢をつぶす必要があるんでしょうか。何でできない理由を教える必要があるのでしょうか。誰かの夢を聞いたのなら「あれ、だったらこの間テレビでこの人こんなこと言ってたよ。」とか「だったら本屋にこんな本あったよ。」と言ってあげるだけで、元気100倍なのです。みんなが安心して夢をしゃべることができて、みんながお互いにそれを支えたら、どうなりますか。皆さんの夢かなっちゃいますよ。みんな有名人になっちゃいます。同窓会楽しみですね。呼んでくださいね。その日のために、ぜひ皆さん「だったらこうしてみたら。」を使ってください。そうしたら、いつかいじめとか暴力とかもなくなるんです。みんなの力貸してもらえたら嬉しいです。

これで僕の長い話がやっと終わります。この後みんな頑張ってロケットを作ります。まずは、お話を聞いてくれてありがとう。

## プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果



### 今日一日で、特に心に残っていることは、どんなことですか。

#### 芸北小学校

- 他校の子と仲良くなれたこと。
- 植松さんの講演とロケットの打ち上げ。
- 植松さんのお話がおもしろかったこと。
- ロケットは墜落してしまったけど、本当に空に飛んだこと。
- ロケットを飛ばしたこと。
- ロケットを飛ばしたこと。
- 町内の人といっしょにロケット作り、打ち上げができたこと。
- 植松さんの講演。
- 植松先生の話聞いたこと。
- 「やってもうたあ〜！」と言った。

- ロケットを飛ばしたこと。
- 植松さんの演説。
- 新しい友達ができた。
- ロケットの打ち上げ。
- ロケット作りのときの会話。
- ロケット飛ばし、友達との交流。
- みんなでロケットをつくって飛ばしたこと。
- 自分のつくったロケットが空を高く飛んだとき。
- 植松先生のお話が一番心に残っている。
- ロケットが高くあがったからうれしかった。
- ロケットづくり。

#### 大朝小学校

- ロケットを飛ばせたこと。
- ロケットが、0.3秒で時速200kmもでることなどいろいろなことを学べたからよかった。
- ロケットを作り、ロケットを打ち上げたこと。
- 植松さんのお話を聞かせていただいたこと。
- ロケット作り。理由は、協力して作ることができたから。
- ロケットを飛ばしたところ。わくわくしながら飛ばせたのがよかった。
- 植松努さんが、私は有名な大学に行ったわけではないと言った時。

- 今日一日で、一番心に残っていることは、社長様の「思うは招く」の一言だ。
- 植松さんの講演で、なやんでいることが全て解決した。
- 講演会で、夢や希望、自分の可能性を見つけられたから。
- ロケットをとばすところ。
- 植松さんの1時間のお話。
- 植松さんの話。
- ロケットを作ったこと。
- ロケットがうまくできたこと。
- ロケットを空高くあげたこと。

#### 新庄小学校

- ロケットを飛ばしたこと(6)。
- 植松さんの講演(6)。
- すごい速さで飛んだこと 高く飛んだこと(2)。
- 他の小学校の人と仲良くなったこと(2)。
- 仲良くなった人とロケットを飛ばしたこと(2)。
- ロケットを作ったこと。
- ロケットを作りながら、友だちを話したこと。

#### 川迫小学校

- ロケットを打ち上げたこと。
- 植松さんの話が良かった「やってみなことは無い」
- ロケットができたこと。
- 楽しかった。
- ロケットを飛ばすときに、「本当に飛ぶのか」と思ったら飛んだので楽しかった。

#### 八重小学校

- ロケットを作る時に、分からない所があったら、知らない人とでもしゃべれて仲良くなったところ。
- ロケットをみんなと作って打ち上げた時。

- ロケットがこんなに飛ぶなんてびっくりした。
- 他の学校の人と触れ合えたこと。特に、グループの人と触れ合えたこと。



<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケットを作っているときに、同じグループだった他の学校の人と、楽しく話ができたこと。</li> <li>○知らない子と友達になって、一緒にロケット作りをして、みんなでロケットを飛ばしたこと。</li> <li>○自分でつくったロケットが空高く飛んだこと。</li> <li>○ロケットの作り方を教えてもらわず、説明書だけでつくったロケットを飛ばす時に、成功したのでとてもうれしかった。</li> <li>○ロケットを飛ばした時。</li> <li>○あんなに小さくて、簡単なのに、偉い人でもロケットを作るのは難しいけど飛ばせたことだ。それに80m高く飛びゆっくり落ちているときキャッチできたから。</li> <li>○ロケットが高く飛んで成功したこと。</li> <li>○ロケットを飛ばしたこと。約80m飛んだのですごかった。</li> <li>○友達ができたこと。ロケットがちゃんと打ちあがったこと。</li> <li>○ロケットを作って飛ばしたこと。また、植松さんの講演会を聞いたこと。</li> <li>○グループで他の学校の友達と新しくできた友達と助け合いながらロケットを飛ばすことができてよかった。思いのほか高く飛んで、簡単にできたので楽しかった。</li> <li>○他の学校の人と楽しくロケットを作ったこと。講演会の話聞いて、自分の夢は努力すれば叶うということが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作ったロケットが、0.3秒で200kmも出るので、すごいと思った。それと、3倍、4倍飛ぶものがあるのを知ったときびっくりした。</li> <li>○ロケットを作るときに、協力できたこと。自分から他の学校の人に声をかけられたこと。ロケットが80mも飛んだこと。</li> <li>○自分のロケットがちゃんと高くまで飛んだこと。</li> <li>○ロケットを飛ばしたことです。あんな小さなロケットが80mなんて高さまで飛んでいてロケットはすごいと思った。</li> <li>○自分のロケットが飛んだ時。話を聞いているとき。新しい友達と触れ合えたときが思い出になった。</li> <li>○ロケットを打ち上げる時。</li> <li>○植松さんの話がおもしろかった。</li> <li>○みんなと考えながらロケットを作ったこと。</li> <li>○ロケットを無事に飛ばせたことと、とても良いお話を聞いたこと。</li> <li>○ロケットがよく飛んだ。</li> <li>○ロケット作りやロケットを飛ばす時に、みんなと協力してできたから。</li> <li>○ロケットを作ったこと。ロケットを作るときに、他の学校の人と友達になれたこと。はじめて会った人たちばかりだったのですごく緊張したけれど、自分からも話せたと、協力して作れたことが心に残った。</li> </ul>
---	---

八重東小学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演会で、あきらめないことが一番大切であるということが心に残った。</li> <li>○植松さんのお話が一番心に残った。特に、「どーせむり」をなくし、夢と希望を持つことが大切だということが心に残った。</li> <li>○ロケットを自分で高く飛ばしたところ。少し不安だったけれど、パラシュートも開いて、高く飛んだのでうれしかった。自分たちで作れるんだと驚いた。</li> <li>○ロケットを作るとき、隣の人に教えてもらい、新しい友だちを作ることができた。</li> <li>○植松さんの講演を聞いて、あきらめないことの大切さや、自分も相手も無理と言ってあきらめてはいけないことが心に残った。</li> <li>○ロケット飛ばしするとき、とても高くとんでいったこと。</li> <li>○ロケットを飛ばして飛んだ時。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケットがとても高く上がって、パラシュートが広がったときとてもうまくできたので心に残った。</li> <li>○植松さんの話の一つ一つの言葉。ロケットを作って打ち上げたとき。</li> <li>○ボタンを押してロケットが飛んだ時。頑張って作ったロケットが飛んだ瞬間はうれしくてたまらなかった。</li> <li>○ロケット飛ばしが一番心に残った。ロケットが飛んだとき、「すごく飛ぶな」と思った。</li> <li>○ロケットが空高く打ち上げられたとき。</li> <li>○植松さんが話をしてくださったことがとても勉強になった。</li> <li>○自分が飛ばしたロケットが、落ちる前に手が届かなかった時、他校の人が落ちる前に取ってくれたこと。</li> <li>○ロケットを飛ばした時。</li> <li>○ロケットを打ち上げたときが一番心に残った。</li> </ul>
---	---

壬生小学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケットを作るのはむりだと思っていたけど、班の人と話をしながら上手にできたので、協力してよかったと思った。</li> <li>○ロケットが高く飛んだこと。</li> <li>○自分の手でロケットを飛ばしたということ。</li> <li>○ロケットがぶじにとんだこと。</li> <li>○みんなと交流ができたこと。</li> <li>○植松努さんの話。「どーせ無理」という言葉がどれだけいけないのが分かった。</li> <li>○ロケットを発射する時。すごく高くまで飛んでびっくりした。</li> <li>○ロケットを飛ばすこと。</li> <li>○色々な人と話して、たくさん交流ができたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の学校の人と話しながらロケットを作ったこと。</li> <li>○友達といっしょにロケットを飛ばしたこと。</li> <li>○ロケットを発射した時。</li> <li>○班の人と協力して作ったこと。</li> <li>○いろんな学校の人と協力してロケットを作ったこと。</li> <li>○ロケットをとばしたこと。</li> <li>○ぼくが一番心に残っていることは夢をあきらめてはいけないということ。</li> <li>○植松努さんの話の「がんばれば夢はかなう」ということ。</li> <li>○グループの人と仲よくなれた。</li> <li>○ロケットを空高く、とばしたあとパラシュートを広げて落ちてきた時。</li> <li>○ロケットが落下してこわれたこと。</li> </ul>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>○植松さんの話。</li> <li>○ロケットに夢を乗せて打ち上げた時。</li> </ul>	
<b>本地小学校</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケットをとばしたこと。</li> <li>○何事もあきらめないことの大切さを学んだ。</li> <li>○夢をなくさないことを学んだ。</li> <li>○ロケットを作る時。分からなかったら班の人に聞いてやりして仲が深まったから。</li> <li>○「どーせむり」をなくすこと。</li> <li>○夢をあきらめないこと。</li> <li>○ロケットを飛ばしている時。</li> <li>○ロケット作り。みんなと交流できて楽しく教えあひながらできたから。</li> <li>○友達と一緒にロケットを作ったこと。</li> <li>○ロケットを作成する時、最初は初めてあった子と話せるか不安だったけれどしっかり話せたし、協力できたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケットを自分で作り飛ばせたこと。</li> <li>○午後の、ロケットを打ち上げる時速くて高いところ上がった時。</li> <li>○植松先生の講演会。</li> <li>○植松先生のお話。</li> <li>○ロケットを飛ばしたこと。</li> <li>○ロケットが空高くあがったこと。</li> <li>○班の人とちょっと話せてうれしかった。また自分の作ったロケットがうまく飛んだのでうれしかった。</li> </ul>
<b>豊平小学校</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケットを作るとき、色々な話をしたこと。</li> <li>○絶対失敗したら自分を責めないで、どうしたらよいか考えることと言われたこと。</li> <li>○ロケットが飛んだこと。パラシュートが開いたとき、「よかった。」と感じたこと。</li> <li>○町内の6年生でロケットを作って、打ち上げて高く上がったこと。</li> <li>○講演は話も面白く、内容も今後役に立つものがたくさんあった。</li> <li>○「安心」「自信」「自由」の三つをうばってはいけないこと。</li> <li>○ロケットをとばす時。全員のロケットが無事打ち上げられたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色々な学校（他の小学校）の人と協力して、ロケットを作ったこと。</li> <li>○植松先生の講演を聞いて、知らなかったことが分かったこと。</li> <li>○植松さんがNASAなどのすごい人と仲が良いこと。</li> <li>○初めて会った小学生と一緒にロケットを作ったこと</li> <li>○自分の夢にあきらめを持ってはいけないことが心に響いた。</li> <li>○植松先生のお話の、「好きなものがあることは大切だ」ということ</li> </ul>

<b>講演会の話についての感想や思いについて</b>	
<b>芸北小学校</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○何を言われても、ずっとがんばろうと思った。</li> <li>○自分も夢や希望を持ちつづけ、常に前向きでいようと思った。</li> <li>○「どーせむり」とあきらめないようにすることが夢への第一歩だということ。</li> <li>○「夢と希望があれば何でもできる」という言葉を聞いて、どんな夢でも夢に向かってがんばろうと思った。</li> <li>○絶対に夢をあきらめないようにしようと思った。</li> <li>○いろいろな言葉があってよかった。</li> <li>○自分の夢をかなえるためには、「こんなことをすればいい」ということが分かった。</li> <li>○どんなことも一生懸命取り組もうと思った。</li> <li>○北海道にいて、外国からも工場に来ているということが、それほど上手だということが分かった。</li> <li>○私は、夢をあきらめず、何事にも挑戦しようと思った。</li> <li>○人生の中、いろいろな事があってもあきらめないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これからは自分を否定しないようにしようと思った。</li> <li>○好きなことをずっとわすれないようにしようと思った。</li> <li>○何事にも挑戦すること。</li> <li>○「失敗したら失敗した理由をさがす」が挑戦科とつながると思った。</li> <li>○「どーせむり」と言われたとしても、あきらめずになりたい仕事につけていたので、やりたいことはあきらめずしようと思った。</li> <li>○植松先生は、たくさんの先生方に「そんな夢はあきらめなさい」と言われても、夢をあきらめずに夢をかなえていたので、私もあきらめないようにしたい。</li> <li>○自分の夢を友達に言って「やめておいたら」と言われても、挑戦してみる。</li> <li>○改めて自分を振り返れた。</li> <li>○なんでもあきらめないこと。</li> </ul>

大朝小学校	
<p>○色々なおもしろいことをしゃべってくださり、生きていけば楽しいことがあることが分かった。</p> <p>○小学生もたいくつにならないように間におもしろいことを言ってくれて、たいくつにならなかった。</p> <p>○おもしろい話やしんこくな話をしてくれて、とても聞きやすく、ロケットに興味があった。</p> <p>○おもしろくしながらも、しんけんに大切に、これからの人生でとても役立つことをお話して下さってとても勉強になった。「思うは招く」を一生忘れないようにしたい。</p> <p>○植松さんの話を聞き、「どうせ無理」などという言葉にまどわされず、夢と希望を持って進んでいこうと思った。</p> <p>○「思うは招く」を聞いて、ぼくもがんばろうと思った。</p> <p>○植松努さんの深い考えに共感できたから。</p> <p>○自分は、今まで、この話の反対の世界だったので、今までの常識がくつがえされたようで気持ちよかった。</p>	<p>○おもしろいお話もあり、すごく学べる話があったので、すごくよかった。</p> <p>○ぼくも植松先生のように夢をあきらめないようにしたい。</p> <p>○とてもおもしろかったし、また聞きたい。</p> <p>○ロケットを作って楽しかったこと</p> <p>○思うは招くと言葉が心に残った。</p> <p>○今日のこと、人になにを言われても、自分があきらめないかぎりなんでもできるということが分かった。</p> <p>○心にひびくお話や自分も「どーせ無理」でいろんなことを片付けていたので、周りの人からの「どーせ無理」には耳をかたむけず、自分のやりたい事や夢、やりたい仕事を叶えたいと思った。自分の可能性を見つけられた気がした。</p> <p>○見えなくなっていた夢をとりもどすことができた。</p>
新庄小学校	
<p>○「思いは招く」は大切だと思った。</p> <p>○ぼくもほかの人になんと言われようががんばる。</p> <p>○やればできるということ言ってもらえたので、何事にも挑戦していきたい。</p> <p>○僕も失敗はあるけど、前向きに考えられるようになった。</p> <p>○一言一言が未来のためになると思う。</p> <p>○おもしろくて楽しかった(3)。いろんなことを学んだ</p> <p>○あまり自信を持っていないので、自信を持とうと思った。</p>	<p>○無理だと言われても夢をあきらめたくない。(5)</p> <p>○好きなことを仕事にしたいと思えた。</p> <p>○励まされたり勇気をもらったりすることができた。</p> <p>○あきらめないことや思いは招くという言葉は将来役に立つことだからすごくいいと思った。</p> <p>○悩んでいることをやってない人には相談しないようにしようと思った。</p> <p>○夢は多く持ったほうがいいということ。</p>
川迫小学校	
<p>○やってみることはいいけど、これからがんばっていきけるような話だった。</p> <p>○ゲームのいすを自分で作ってすごいなと思った。</p> <p>○僕たちに夢と希望を教えてくださいました。</p>	<p>○「どーせむり」を言わないようにしようと思った。</p> <p>○面白い話だった。</p> <p>○夢はあきらめなくていいんだと思い、自信を持つ事ができた。</p>
八重小学校	
<p>○自分の夢などを悪く言われても、それはやったことがない人たちだから、あきらめずやろうと思った。</p> <p>○夢を持つことが大切だと言っていたので、よい話だと思った。</p> <p>○講演会で聞いた話は、これから自分が困ったときに思い出して役立てていきたいと思った。</p> <p>○植村さんの話を聞いて、楽しいことを夢で実現できてすごいなと思った。ぼくも楽しいことを夢でかなえたい。</p> <p>○植松先生が体験されたお話があったりして、自分に自信がついた。</p> <p>○できないと人から言われてあきらめるのではなく、できないと言われても、自分ではできると思いががんばるとその夢は実現できることがわかった。</p> <p>○絶対できないと言われても、自分の思うことをやればいいと思った。</p> <p>○「学校が全てではない」という話がすごくよい話だった。</p> <p>○植松さんは「あきらめなければ夢はかなう」とおっしゃっていて、とても心に残った。</p> <p>○人に「できるわけがない」と言われてあきらめるので</p>	<p>○「どーせむり」と言われても、自分は自分でよい思いながら生活していきたい。</p> <p>○講演会を聞いて、自分に自信がついた。</p> <p>○失敗しても、それが成功につながるということが分かったし、本はどんな本でもすごく役立つことが分かったので、これからも本を読み続けようと思った。</p> <p>○あきらめなければいいということがわかった。</p> <p>○人の言葉に惑わされないで、自由にすることが大切なんだなと思った。</p> <p>○宇宙のすごさが分かったのがとてもうれしいし、植松先生はロケットのために何回も挑戦されてきていたので簡単にあきらめないことを学んだ。</p> <p>○植松さんのことを知ることができた。「思いは招く」という言葉はじめて知った。他の人の意見ではなく、自分の意見で将来を決めたいと思った。</p> <p>○とても勉強になったし、自分が興味をもったことをたくさん調べようと思った。</p> <p>○とても具体的にロケットを作ろうとした理由を言ったり、ロケットを僕も作れたらいいと思った。</p> <p>○自分の夢を続けるということを知った。あきらめないことが大事だと言うことが分かった。</p>

<p>はなく、挑戦して夢をかなえてみるといういい言葉を聴いたので、夢をかなえたいと思った。</p> <p>○私はすぐあきらめてしまうけど、植松さんの話を聞いて、あきらめないで何事にも最後までがんばろうと思った。「どーせむり」と今まで言っていたので、今度からは言わないようにする。</p> <p>○最初聞く前は、難しい言葉が沢山出てきて意味が分からないのかなと思ってたけど、アニメやいろいろなことを使ってロケットの仕組みや希望をもつことを楽しく知れてよかった。また、話の中ででた、「がまん」のもう一つの意味を知ることができてよかった。</p>	<p>○夢や希望を持つことができた。</p> <p>○確かにそうだなあと思った。</p> <p>○本を読むことはいいことだということが改めて分かったので、これからは沢山読もうと思った。</p> <p>○自分の好きなことでも、仕事にできたのがすごいと思った。</p> <p>○がんばろうと思う。</p> <p>○植松さんの話はとても面白かったり、難しかったりして、とても勉強になった。</p>
<p>八重東小学校</p>	
<p>○植松さんが、親にくだらないと言われてもやり続けたところが心に残った。</p> <p>○植松さんの話を聞いて、「どうせ無理」を言わないようにしようと思った。</p> <p>○夢があれば、何でもできると言っていたので、人の夢を壊すようなことを言わないようにしたいと思った。</p> <p>○話を聞いていると、確かに自分であきらめてできなかった事と、あきらめなかったからできたことがあった。自分で夢をあきらめるのではなく、誰に何と言われようと、夢に向かって頑張ることが大切だと思った。</p> <p>○植松さんの話はとても聞きやすく、話している内容がよく分かった。また、植松さんが話してくださったおかげで、夢と希望を持つことができた。</p> <p>○ほかの人の言葉で、夢をあきらめず、自分の夢がかなうように頑張ろうと思った。</p> <p>○植松さんがあきらめずに、夢をかなえた話を聞いて、あきらめずに夢と希望を持って頑張ろうと思った。</p> <p>○「どうせ無理」という言葉は、その人の気持ちを殺してしまうものだから言わないようにしたい。</p>	<p>○ぼくも何かを作ることが得意になりたいと思った。そして本はとても大事ということが分かったのでしっかり本を読んでいきたい。</p> <p>○「どうせ無理」という言葉を使わないということを学んだ。</p> <p>○私はできないことがあったらすぐにあきらめていたけど、植松さんの話を聞き、あきらめずに努力しようと思った。</p> <p>○「どうせ無理」という言葉を使わないようにして、可能性を無限に持ちたい。</p> <p>○人のことを考えて行動すること、夢をあきらめないことの大切さがよく分かった。「どうせ無理」という言葉をこれから使わないようにしていきたい。</p> <p>○今回のお話はとても役に立つお話だと思った。何かあったらこの話を思い出して生活したいと思った。</p> <p>○「どうせ無理」や「できん」などを言うことがあったので、今度からは、なんで出さないのかを考えようと思った。</p> <p>○とても胸に響く言葉が多かった。</p>
<p>壬生小学校</p>	
<p>○何をやってもすぐあきらめず、何回も挑戦しようと思った。</p> <p>○「ダメだ」「ムリだ」とあきらめないことが大切なんだなあと思った。</p> <p>○学んだことは、2つあった。1つ目は夢があれば何でもできるということ。2つ目は、人には個性があるということ。</p> <p>○植松さんが「どーせむり」という言葉をなくしていきたいと言っていたから、ぼくもなくしていきたい。</p> <p>○絶対「むり」を使わない。</p> <p>○夢や希望を持つことはとても大切なんだと思った。</p> <p>○夢を持つことはとても大切なんだなあと思った。</p> <p>○やろうと思っていることは、けいけんしている人に聞くこと。</p> <p>○植松さんは、自分のやりたいことは最後までやりきるということが分かった。</p> <p>○ちがう方法で考えることを大切にしようと思った。</p> <p>○夢を実現させる方法も教えてくれたのでよかった。</p>	<p>○「どうせむり」と思うことがあったけど、むりと思ったなら何もできないということがわかった。</p> <p>○夢があれば何でもできるんだなと思った。</p> <p>○「どーせむり」が、夢に向ってあきらめないことで、できるようになるというのがすごいと思った。</p> <p>○自分の好きなことを、あきらめずにやり続ければいいことが分かった。</p> <p>○自分にできることがあったので、それをやりたいです。</p> <p>○ぼくは話を聞いて、将来の夢に向って努力していきたい。</p> <p>○「どーせむり」と言われても、がんばっていたのですごいと思った。</p> <p>○ぼくはこれから、だれかにできないと言われてもあきらめないようにしたい。</p> <p>○周りの人の話をまにうけてはいけないことが、たまにあるということ。</p> <p>○話を聞いて、自分の夢に対する思いが深まった。</p> <p>○いろんなことを好きになって楽しめばいいこと。</p>
<p>本地小学校</p>	
<p>○夢と希望に通じるお話でとてもよかった。</p> <p>○最後まであきらめないことを学んだ。</p> <p>○植松さんはおもしろい人だった。</p> <p>○私はCAになりたいのでとても役に立った。これから「ロケットを飛ばしたい。」という子が増えそうな講演会だった。</p>	<p>○話がおもしろくてとてもよかった。</p> <p>○最初の部分はおもしろかったけれども、最後の部分は「どーせむり」と言われてもあきらめないことが分かった。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○植松先生のように自分の好きなことを大人になってもしたい。</li> <li>○できないことをやり続けていけば本当にできるようになる。</li> <li>○おもしろい話もあったし大切な話もあったのでよかった。</li> <li>○「どーせむり」は言われたことがあるけれど、この話を聞いて気にしないようになった。</li> <li>○最後まであきらめないことを学んだ。</li> <li>○人から「無理だ。」と言われてもあきらめずに夢に向かっていきたいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話の内容がよくわかった。いやなことやきらいなことと向き合おうと思った。自分の自信が夢につながるんだと思った。</li> <li>○笑いのオチのある話だったが、とてもためになる話だった。</li> <li>○おもしろい話もあったけれども、とても勉強になった。</li> <li>○とてもおもしろくとても大切なことを教えてくださった話だった。</li> <li>○人から「お前にはできん。」と言われても、あきらめずにちゃんとやることを学んだ。</li> </ul>
---	--

豊平小学校	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○人には、「安心」「自由」「自信」が必要であること。</li> <li>○人の夢をうばうことはいけない。「どうせ無理。」</li> <li>○植松先生が言っておられた「失敗したらどうして失敗したのか考えればよい。」という言葉がすごく心に残った。</li> <li>○将来の夢について語ってくださる中で、どんなに夢をあきらめろと言われても好きなことを捨てないということが心に残った。また、楽しく講演して下さって分かりやすかった。</li> <li>○ぼくは失敗を怖がって、あまりやる気が出ないことがあったけど、今回の植松さんの講演で、失敗を恐れなくなろうと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きなことを続けていくことはとても大切だと思った。</li> <li>○だれかに、「できるわけじゃない。」と言われても、その夢に向かって頑張ればかなうことがわかった。</li> <li>○なぜだろうと考えると、考えたことをやったら役に立つかもしれない。</li> <li>○あきらめない気持ちに、「かっこいいなー。」と思いました。ぼくもあきらめないように頑張りたいと思う。</li> <li>○植松さんは失敗しても、何度もチャレンジし、成功するまでやっているのすごいいい方なんだと思った。</li> </ul>

ロケット作り・打ち上げの感想や思いについて	
芸北小学校	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○時々違う人のロケットがパラシュートも開かず落ちていくところ。</li> <li>○ロケット作りの時にあまり他校の人と話せなくて残念だった。打ち上げのときには、少しだけ話すことができてよかった。</li> <li>○なかなかパラシュートが開いてくれなかったけれど、植松さんが直して下さって上手に飛ばせてうれしかった。</li> <li>○ロケットを作ったり、打ち上げたりすることは、とても楽しかった。でも、町内の友達とあまりしゃべることができなかった。</li> <li>○友達とあまり話せなかったけど、少しは教えて、教えてもらったりした。</li> <li>○違う小学校の人と友達になり、質問しあいながら作ったのがうれしかった。</li> <li>○最初はあまりしゃべれなかったけど、だんだんしゃべれるようになった。</li> <li>○いろいろな人と話をした。一緒に考えてできたので楽しかった。</li> <li>○となりの人といっしょに「3・2・1」と言うところが楽しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知らない人と話すことをした。</li> <li>○よくできているなあと思った。</li> <li>○無事ロケットがあがって良かったし、友達もできて良かった。</li> <li>○自分の作ったロケットがうまく飛ぶか成功するか心配だった。</li> <li>○他の学校の人と仲良く、たくさんお話できた。</li> <li>○ロケットをつくる時、途中から仲良くなった。</li> <li>○はじめての人とやって、いろいろな事が話せてよかった。</li> <li>○「どうやるん？」とペアの人に言う時「こうするんよ」と言ってくれたので、うれしかった。</li> <li>○植松先生に分からないことをたくさん聞くことができて良かった。みんなで協力してつくってよかった。またやりたいと思った。</li> <li>○芸北小学校の三人がそろっていたから、安心してできた。</li> <li>○ロケットの打ち上げのときに緊張した。</li> <li>○ロケット作りのとき、分からない人たちに教えてもらって、距離が縮まり、良かった。</li> </ul>
大朝小学校	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○最初は話せなかったけど、話せてよかった。</li> <li>○まちがえたところを「ちがう」と言ってくれたから話せた。</li> <li>○仲間と協力し助け合ってできたロケットが、こんなに本格的なロケットができてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知らない人にも話ができてうれしかったです。こんな交流をもっとしていただきたい。</li> <li>○知らない友達とも仲良くなったし、もう友達だった人とも、もっと友達になれたのでよかった。</li> <li>○16人の友達と仲よくなりました</li> </ul>



<p>○初めは、仲良くできるのかな？ちゃんとロケットを作って飛ばすことができるのかな？と不安ばかりだったが、仲良く、楽しく飛ばすことができたのでうれしかった。</p> <p>○知らない子ばかりで、しゃべることもできなかつたけれど、ゆっくりゆっくりみんなとなじんでいき協力することが出来た。飛ばす時は、チームではない人と飛ばすことができた。</p> <p>○色々な友達が出来たのでよかった。</p> <p>○またばくも打ち上げてみたいと思った。</p> <p>○ロケット作りをして話しながらできて、「みんなと協力する」が守れたからだ。</p>	<p>○班には知っている人もいてよかったと思った。それと、ロケットの打ち上げで1時間30分もかけて作ったのにたった3秒で飛んでいくから、ちょっと悲しかったけどいろんな人とできて楽しかった。</p> <p>○ロケット作りをしてほかの学校の人と交流できた。</p> <p>○高くまでとんでうれしかった</p> <p>○自分で作ったロケットがうまくとんでよかったと思った。</p> <p>○4人ともはじめて会った人でした。だけど、少しずつなれて、友達のようになり、楽しくロケットを作れた。</p>
<p>新庄小学校</p>	
<p>○上手に飛んで、パラシュートも開いてよかった。(7)</p> <p>○作るのは難しかったけど、うまくいったのでよかった。(2)</p> <p>○新しくできた友だちがやさしかった。</p> <p>○自分で飛ばせてうれしかった。</p> <p>○思ったより簡単にできて、楽しかった。</p> <p>○人と関わってやるとすぐできるんだと思った。</p>	<p>○知らない人と友だちになり、ロケットをうまく作れた。みんなのロケットが無事飛んだこと。</p> <p>○協力して作れた。</p> <p>○あまりしゃべれなかった。</p> <p>○パラシュートが開かなかったから残念だった。</p> <p>○初対面の人と活動し緊張したけど、だんだん慣れて協力してできた。</p>
<p>川迫小学校</p>	
<p>○分からない時は、友達に聞いた。</p> <p>○楽しく、上手に打ち上げられた。</p> <p>○途中から話せるようになり、午後からはもっと話せた。</p> <p>○協力して、チームでロケットを打ち上げた事。</p> <p>○パラシュートがちゃんと開いてよかった。</p>	<p>○上手に打ち上げられたからよかった。</p> <p>○ロケットでは、班で仲良く交流する事ができ、ロケットの打ち上げのときに時速200kmくらいで飛んですごかった。</p>
<p>八重小学校</p>	
<p>○あんなに高く飛ぶと思わなかったのですごいなと思った。ちゃんとパラシュートも開いてよかった。</p> <p>○ロケットの作り方がわからないときに教えあうことができたから。</p> <p>○ロケット作りをしている時に、他の学校の人と楽しく話すことができたり、打ち上げのときも違うグループの人とも話すことができたりして楽しかった。</p> <p>○予想以上に迫力があつてすごくびっくりした。</p> <p>○他の学校の人と仲良くなることができたし、作ったロケットが飛んでうれしかった。</p> <p>○わからないところを町内の他の学校の人と話してやって仲良くなれてうれしかった。</p> <p>○ロケット作りでわからないところを教えてあげたり、教えてもらったりしてできてよかった。</p> <p>○話し合うことはあまりしなかつたけど、助け合って飛ばすことができてよかった。</p> <p>○最初ロケットを作ったとき、ちゃんと打ち上げられるか心配だったけど、成功したのでとても良かった。</p> <p>○他の学校の子と協力してロケットを作ったり、一緒に飛ばしたりして楽しかった。</p> <p>○ロケット作りでは、友達と協力しながら、分からないことがあつたら聞いて仲良くなれた。打ち上げでは高いところまで飛び上がり、上手にパラシュートが開いたので良かった。</p> <p>○私はロケットを飛ばすのを近くで見て、本当に感動した。ロケット作りは少し大変だったけど、植松さんの仲間の方が優しく教えてくださったので、とてもうれしかった。</p> <p>○グループのみんなで助け合いながらできてよかった。</p>	<p>○ほかの学校の人に教えてもらったのが良かった。</p> <p>○打ち上げて80mぐらい飛んだので、すごかった。ロケットにつみこんだパラシュートが開いたので良かった。</p> <p>○あまり友達と話せなかつたところがくやしい。でも、パラシュートが開いて、無事に落ちたのがうれしかった。</p> <p>○ロケットを打ち上げるときに、他校の人とカウントダウンをして、ロケットが飛んだのがうれしかった。ロケットを打ち上げるときに、達成感があつた。</p> <p>○分からないところを友達が教えてくれたので助かった。そしてロケットの打ち上げが成功したので良かった。</p> <p>○ロケット作りで友達が分からないところを教えてあげて話せたのでよかった。ロケットのパラシュートが僕の班の人は全員ひろがってよかった。</p> <p>○新しい仲間と触れ合えた。打ち上げのときにロケットはすごいな一と思った。予想以上にロケットがあがった。</p> <p>○ロケットを打ち上げてどこまで行くかと思った。</p> <p>○ロケットが飛んだのですごいと思った。</p> <p>○難しいけど飛ばしてとてもおもしろかった。</p> <p>○よく飛んだ。うれしかった。</p> <p>○打ち上げのときのどきどき感があつて、成功した後はとても達成感があつて楽しかった。</p> <p>○ロケットを打ち上げてとても高く飛んでうれしかった。</p> <p>○ロケットをほかの学校の人たちと協力して楽しく作って、友達と打ち上げをしたことと、私はロケットをこんなに簡単に、飛ばせるなんて思いもしなかつたので</p>

<p>分からないところがあったら、みんな優しく教えてくれてうれしかった。ロケットを飛ばすときに高く飛んでパラシュートを開けたときはうれしかった。</p>	<p>作れてうれしかった。  ○とても高くロケットが飛んだし、ダイレクトキャッチができた。  ○班の友達と、がんばって作ったロケットが、とても高く上がったので、とてもうれしかったです。一人で作るよりも友達と作ったほうが楽しかった。</p>
<p>八重東小学校</p>	
<p>○自分のロケットが作れたし、ちゃんと打ちあがったのでうれしかった。  ○ロケットが飛ぶ瞬間や、パラシュートが開くときなどが楽しかった。打ち上げが成功したのでとてもよかった。  ○初めてロケット打ち上げをして、とても楽しかったし、いろいろな発見ができた。町内の人と一緒にやり、お互いを知ることでもできたのでよかった。学校でもやってみたい。  ○班の人たちと協力してロケットを作ることができてよかった。  ○ロケットを作るとき、難しいところもあったけれど、作れた時や打ち上げが成功したときとてもうれしくて感動した。  ○ロケットをつくっているときに、教えてあげると「ありがとう。」と言ってくれたり、教えてくれたりしたので、楽しくロケットを作ることができた。また、打ち上げた後に、マシユマロをとってくれたので助かった。  ○ロケットが空高く飛ぶのを見て、ロケットを作るのは難しかったけれど、空高く飛んだ瞬間はとてもうれしかった。</p>	<p>○分からないところはみんなに聞いたりしてロケットが上手に打ち上げられた。  ○ロケットを打ち上げたとき、地面に突き刺さり壊れてしまったけど、打ち上げた瞬間は、とても予想以上高く飛んで素晴らしかった。  ○最初の方は、誰もしゃべらず黙々としていたけど、最後の方はわからないところを聞いたり、楽しくしゃべったりすることができた。  ○ロケットづくりで、自分一人ではできなかつたところを、ほかの人に手伝ってもらってすごくうれしかった。  ○友だちと一緒に上手にできた。  ○ロケットづくりのとき、他の学校の人たちと協力しながらやって楽しかった。  ○打ち上げのときとてもワクワクした。他の学校の人とよく交流できた。  ○友だちとお話をしながらロケットをつくれなかった。もう少し自分から話しかければよかった。  ○作るときみんなで協力できた。打ち上げはとてもすごかった。</p>
<p>壬生小学校</p>	
<p>○前、仲良くなった友達とまた話してロケットを作り、とばしたので楽しかった。  ○ロケット作りの時、他の学校の子に話しかけられて良かったと思った。  ○ロケットを自分の手で飛ばしたしゅん間、もう自分はロケットを自分で作れて打ち上げられる人になったというここと。  ○ロケット作りの時にあまりしゃべれなかった。  ○苦労したかがあるなと思った。  ○製作の時に教え合ったり、話をしたりすることができた。  ○ロケット作りや打ち上げなどは、友達といっしょに楽しくできてよかった。  ○グループの人とはあまり話せなかったけど、ちがう時に仲良くなった人と話せたのでよかった。  ○普段いっしょでない他の学校の友達と話して打ち上げることができた。  ○話しぶらい人と話せたのでやってよかったと思った。</p>	<p>○想像以上に高くとんだのですごいなと思った。  ○他校の人たちと作る時や、いっしょに打ち上げをするのが楽しかった。  ○他の学校の人としっかり交流できて楽しかった。  ○ロケット作りで、みんなで協力して作れたし、楽しかったので良かった。  ○同じ班の人と協力できたのでよかった。  ○町内の人と楽しく作れたのでよかった。  ○作っているとき友達が教えてくれて、そのおかげで出来たので助け合えばなんでもできると思った。  ○ロケットを飛ばしてみて、これからもあきらめずにいっしょうけん命をおいかけようと、自分は決意した。  ○ロケット作りの時、分からなくてまよっていたら教えてくれた。  ○パラシュートに穴をあけること。  ○ロケット作りの時、分からない時は、みんなで協力してできて良かった。  ○ロケットを作るときは、話すことができなかったけど、飛ばすときはたくさんしゃべることができた。</p>
<p>本地小学校</p>	
<p>○ロケットを作るのが難しかったけれども、友達に教えてもらいできた。ロケットはすごく飛んだ。  ○友達と協力できた。  ○作る時は静かだったけれども、打ち上げる時はわいわいがやがやだった。  ○作ったロケットを打ち上げる時、最初はびっくりしたけど楽しかった。みんなと交流できてよかった。</p>	<p>○ロケットを自分で作り、飛ばせたこと。  ○打ち上げたりする時に他の人と話せてよかったけれど、作る時は助け合いはあまりできなかった。  ○班の人とはあまりしゃべれなかったけれども、打ち上げの時にたくさんしゃべることができた。  ○打ち上げの時になぜ自分の父がやっているのかと思った。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○始めはみんな無言だったけれども後からだんだんしゃべれるようになった。</li> <li>○知っている友達もいたけれど知らない人とも話しながらロケットを作れた。</li> <li>○みんなと一緒に作ったロケットを飛ばすので、打ち上げが一番心に残った。</li> <li>○協力しながら作れた。</li> <li>○たくさん話し協力できたので、とても上手にロケットを打ち上げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケット作りを通して知らない人ともしゃべれ、とても楽しくロケット作りや打ち上げができた。</li> <li>○ロケットが高く上がってよかった。</li> <li>○最初はうまく飛ぶか不安だったけれども、うまく飛んだのでうれしかった。またロケット作りの時にとなりの子が分からない点を聞いてきて、答えてあげてすっきりした。</li> </ul>
<p>豊平小学校</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケット作りでは、同じ班の人が話しかけてきてくれたので、うれしかった。</li> <li>○青空高く、みんなのロケットが飛んで良かったと思った。</li> <li>○来年の6年生は、ぼくたちよりも上手に作ってロケットを打ち上げてほしい。</li> <li>○ロケット作りでパラシュートをたたむ時に、町内の友だちといっしょにやることができた。</li> <li>○最初試に飛ばしている様子を見ると、すごく速かったのでびっくりした。また、町内でこういう交流をすることがあったらいいなと思った。</li> <li>○困っているときに助け合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロケット作りの時、知らない友達だったけど、しっかりみんなと協力して作った。打ち上げの時はみんなで、「ちゃんと飛んだらいいね。」などと話がはずんで楽しかった。</li> <li>○打ち上げの時、ロケットが飛んでいくのが速くてびっくりした。</li> <li>○ロケットを打ち上げて、パラシュートもきちんと開いたのでよかった。</li> <li>○ぼくでもロケットを飛ばすことができるんだなと思った。</li> </ul>

### 挑戦科の力

芸北小学校 近藤 江里菜

今日、北広島町の6年生が全員集まってロケット作りをしました。ロケット作りをしておられる植松先生が来られて、みんなと一緒に作りました。

始めに植松先生の講演がありました。私の一番心に残っている言葉は、「夢と希望があれば、なんでもできる。」です。その言葉を聞いて、私は「絶対無理」や「どうせ無理」という言葉はこの世に必要なとは思いませんでした。大変なことにであった時、これまでの私は「できない」と思っていました。でも、できないと思ひこんでいるだけで、「必ずなんでもできる。」ということなのです。これは、芸北小学校の合言葉「やればできる」と同じ意味だと思いました。「夢と希望があれば、なんでもできる。」は人生の中でずっと忘れないようにしようと思いました。

植松先生の講演が終わると、いよいよロケットを作りました。30のグループに分かれて作り始めました。私は22グループで6人でした。グループになっていすに座るとなぜかとても緊張してきました。みんな知らない子ばかりで、

「何を話せばいいんだろう。」

と思っていました。これまでの挑戦科の中の「保育園児さんとの交流」や「おじいちゃんおばあちゃんとのふれあい隊」で学んだ、人見知りをしなないための方法やどう接したらよいか考える方法をこんな時に発揮したらいいのに、全然発揮できません。

私の席の横の2人の男の子は、2人で協力してロケットを作っていました。

「ここ、どうやるん？」

等と話しながらやっていました。後の4人は何もしゃべらずに作りました。

「この空気はいけない。」

と思っしてしゃべろうと思っしても、何をしゃべればいいんだろうと思ひ、手ばかりが動いて口は全然動きません。そう思っしている間にどんどんロケットは完成してしまいました。

グループにいる人を見てみると、1人の男の子が

「ここっってどうやるんだ？」

と悩んだ顔をしていました。

「これはチャンス。助けてあげよう。そうしたら話ができて、みんなが楽しくなる。」と思ひました。でも、それは夢の話です。

「夢と希望があれば、なんでもできる。」ので、わたしにもできると思っ

「大丈夫？」

と聞こうと思っして、何度も何度も色ぬりをする前に言おうと思っしても、思っうように声がかげられませんが。そう思っしている間にまた時間が過ぎて、そのロケットは完成しその男の子は色塗りを始めてしまいました。

私は「チャンスを見逃した・・・。」という気持ちになり色ぬりを始めました。

そして、ご飯の時間になり、その後ロケットを飛ばす時間になりました。

体育館からグラウンドに歩いて行くときも、少し時間がありました。

「女の子だけでもいいから話そう。」

と思ひましたが、これも思っうように話ができませんでした。

いよいよロケット飛ばしが始まりました。話ができないまま飛ばしたので

「この思ひも飛ばす。」

という思いで飛ばしました。結果は、パラシュートも出ず、いん石のように落ちてしまいました。

「がんばったかいがなかった。」

と思いました。でも、植松先生の講演でも、「人は初めてやる1回目は失敗する。」と言われていたので「失敗は成功のもと」でいつかまたやる時は、なんで飛ばなかったのかよく考えてやってみようと思いました。

今日は、他の学校の人と話ができず、私にはまだまだ「挑戦科の力」が必要だと思いました。また、あらためて「挑戦科」が何のためにあるのかがよく分かりました。もうないかもしれませんが、またこんな機会がある時は、同じ失敗をしないで、他の学校の人と仲良くなれるようにして、たくさんの友達をつくりたいです。

## 夢プロジェクト「思うは招く」

芸北小学校 岡本 羽琉

ぼくはこれまでに何度か

「君達は、無限大の可能性を秘めているんだ。」

という言葉を書き聞きましたが、なんだかピンときませんでした。でも今日の植松先生の講演「思うは招く～夢をもっていれば何でもできる～」を聞いて、その意味が分かりました。それは、ぼく達は好きなことを何回でもできるということです。例えば、ぼくの好きなことは本を読むこと、絵を描くこと、テレビ、ゲーム、料理等・いろいろなことが好きです。もしかしたら、この中に僕の将来につながるものがあるかもしれません。

植松先生はおっしゃいました。

「本はいいですよ。死んだ人とも仲良くなれるし、自分の世界に入れる、自分には何が向いているか分かりますから。」

と。ぼくはこの話を聞いていろいろな本を買って多くの事を学ぼうと思いました。

改めてぼくは、これから自分の将来を変えることが何度でも起こると思うのでそのチャンス逃さず、生きていこうと思いました。植松先生の講演では、おもしろくていいことをたくさん聞きました。ありがとうございました。

次はロケットづくりです。ぼくは、ロケットといたら、テレビの「イッテQ」で出川さんが作ったロケットのようなものかなあと思っていました。しかし、意外とコンパクトで、0.3秒で200mとぶと聞いて驚きました。ぼくは

「ほんとうにそんなにすごいロケットかなあ。」

と思いながら作っていきました。

ロケット作りは、町内の6年生全員で30のグループに分かれて行いました。ぼく達のグループは6人で、ぼく以外他の学校の人ばかりでした。

ロケットをつくっていく時、まずしなければならなかったことがありました。それは、同じグループの人達と「うちとける」ことです。でも、ぼくは初めはうまく話しかけられず、「もっと声をかけたいただけけど・・・。」とっていました。

そんな中でグループの人に聞くことができたのは、パラシュートをつける時でした。

「ここ、どうやってつけるん？」

とぼくが、となりの人に聞くと

「たぶん、こうじゃないかなあ。」

とこたえが返ってきました。その友だちの名前は「風汰」君です。今では「風ちゃん」と呼んでいます。



そして、いよいよロケット発射の時がきました。

みんな、

「すごーい。」

「ぼくもあんなにとぶかなあ。」

「わ～お。」

等と口ぐちにいいながら興奮していました。

ぼくの番になると、ドキドキと緊張しました。そして、「3・2・1」と言ってボタンを押すと・・・・・・・・

ぼくのロケットは無事に発射しました。そしてパラシュートが開いて無事に帰ってきました。

こうして作った僕のロケットはいろいろな人に自慢できる最高のロケットになりました。植松先生、今日はありがとうございました。

## コミュニケーションの大切さを実感した夢プロジェクト

芸北小学校 白 一輝

今日は6年生の「夢プロジェクト」の日でした。

まず、学校紹介でぼく達は「芸小のトリセツ」(替え歌)で学校紹介をしました。ぼくは、しっかり笑顔と大声を意識して歌いました。しかし、緊張していたせいか、いつもの練習より表情がかたかったです。それに自分のセリフを言う時に動作を忘れていました。ちょっと残念でした。

他の学校の紹介を聞くと、昔からの伝統や今頑張っていることなどが分かり、それぞれの学校の特色がよく分かりました。

次の講演会は植松先生がとても大事な話を、分かり易く面白くしてくださいました。ぼくが一番心に残ったことは、「夢があるとなんでもできる。」です。ぼくは夢についてあまり真剣に考えたことはありません。でも、自分が「これになりたい、やりたい。」と強く願うのであれば、自分の夢がきっとかなうはずだと思いました。「○○になりたい。」と思ったら、「どうせ無理」なんて思わずあきらめずに努力していくことが大事だと分かりました。

また、「マンガでも伝記でもいい、本を読むことも大事だ。」と言っておられました。「マンガにもいいことが書いてある、伝記を読むことでマザーテレサや他の人に自分になれるかもしれない。今はそう思っていなくてもなれるかもしれない。」

この話を聞いて、ぼくはもっと本を読もうと思いました。

また、「だれも初めから成功はしない。失敗を重ねてこそやりたいことができるようになる。」と言っておられました。ぼくもそう思います。ソフトなど、最初は失敗が続く「やめたい。」と思う時も練習してできるようになると思いました。

次のロケットづくりでは、6人グループで、最初はどうすればいいか分からなくて一人で黙々と作っていきました。そのうち分からないところが出てきました。そこで誰かに聞こうと思ってもなかなか言えませんでした。でも、分からないままとまっているのは嫌だと思って、思い切ってとなりの人に、

「どうやるん？」

と言うと、

「こうやるんよ。」

と言って教えてくれました。

「言ってよかった。恥ずかしいと思っていた自分の殻がやぶれた。」  
と思いました。

ロケット作りが終わり、二階に上がる時、剣道の時に当たった人と会い、階段をのぼりながら一緒に話しました。だんだん慣れてきて、自分から話すことができるようになりました。

いよいよロケットをとばします。自分の番が来るまでとなりの人と話しました。自分の番がきてロケットをとばしたら、空高くとんでとてもうれしかったです。とばした後マシュマロを探すときはグループの人以外の人ともいろんなことを話しながら探しました。

ぼくは、今回の夢プロジェクトで、最初はなかなか人と話せなかったけれど後から盛り上がり話せるようになりました。もっと早くからはなせたらよかったです。また、せっかく話せるようになったのだから、この状態がずっと続けばいいなと思いました。

挑戦科の「ふれあい教室」や「保育園児さんとの交流」で、あれだけ人と関わる活動をして、今回はその力を発揮する時と思ったけれど、いざ話すとなると全然話せませんでした。同じ学校の人が1人もいないとなると、話せるようになるまでに時間がかかりました。

ぼくは、この夢プロジェクトでたくさん大切なことを学びました。学んだことをこれからも意識して生活していきたいと思います。

## 私の夢よ 大空にはばたけ！

大朝小学校 堀田 まる美

「三・二・一・発射。」

「シューーー。」

今日は十月二十三日金曜日、「北広島ふるさと夢プロジェクト〔六年〕～夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう～」というプロジェクトが、千代田運動公園でありました。講師の方は植松電気の植松努さんでした。

「これから開会式を始めます。一同、礼。」

この言葉を合図に、プロジェクトが始まりました。最初は各学校の紹介からです。私は少しドキドキしました。そして、

「大朝小学校のみなさん、お願いします。」

と言われ、元気よく返事をして前に出ました。大朝小のみんなは大きな声で次々と自分の言葉を言い、ついに自分の番が来ました。私は大きく息を吸って

「地域の方々のおかげで私達ガキンチョ（子ども）は、川遊びを思いっきり楽しむことができました。」

と言うことができました。あまりの人数の多さにびっくりした私にとって、言い終わると肩の荷が下りました。

次は、植松さんの講演がありました。実を言うと私はあまり興味がなく、一時間もお話が聞けるかと心配でした。なぜなら、宇宙のことをよく知らないし、ロケットのことを全く知らない私にとって、話を聞いても難しくてちんぷんかんぷんでよく分からないと思ったからです。

でも、そんなことは無用の心配でした。笑いを交えた、とってもおもしろくて、とってもためになるお話でした。一生忘れることができないほど心に残ったお話が、二つあります。

一つ目は

『どうせ無理だ。』と思わないで。自分を責めないで。ちがう方法を考えて。」  
です。

二つ目は、

「好きなものこそあきらめずに、がんばる。」  
です。

私にも夢があります。どんなに失敗しても、めげずにがんばろうと思いました。この講演は、私だけでなく、会場にいた一人一人の心に残る言葉ばかりでした。この一時間で、人間としての生き方や見方・考え方がすごく変わったと思います。

講演の次は、待ちに待った時間がやってきました。それは「ロケット作り&ロケット飛ばし」の時間です。

私は、このプロジェクトを聞いたとき、とてもワクワクしました。ロケットを作れるなんてすごいことだからです。でも、ちょっと「ペットボトルで作るやつかな。あんまり飛ばないんじゃないかな。」と、失礼なことを思っていました。それがびっくり。なんと作るロケットは、0.3秒で、時速二百キロメートルのスピードが出るということでした。すごい。私は、正直、なめていたと反省しました。すみません。

植松さんの説明が始まると、会場がどよめきました。

「作り方の説明はありません。説明書をもとに、みんなで助け合いながら作って下さい。」と、おっしゃったからです。私も不安でいっぱいでした。「そんなあ。作ったこともないし、知らない人ばかりだし・・・大丈夫かな。」と。

いざ作り始めると、みんな積極的に話し合い、作っては相談し、作っては相談して完成！

植松さんの点検を受けて、いざ外へ！

スタッフの方が発射台にロケットを設置してくださいました。「ロケットが空高く飛びますように。」「パラシュートがちゃんと開きますように。」

「三・二・一。発射。」

「シューーーー。」

ロケットは勢いよく飛んでいき、パラシュートがちゃんと開きました。その光景は私の夢と重なって見えました。

「ロケットのように私の夢も空高く飛ぶように。」「パラシュートがちゃんと開いたように、私の夢も開きますように。」と。

私の夢は、パティシエールになることです。きっかけは、私が小さいころにお菓子を作ったら、家族がとっても喜んでくれたことです。私は修行して、大朝にお店を出したいと思っています。「大朝の食材を使い、大朝の人に食べてもらい、大朝の人に喜んでもらう。」それが私の夢です

そんな私の夢やみんなの夢を乗せたロケットは、空高くはばたき、花がさいたようにパラシュートが開きました。

今日、ロケットの向こうには、雲ひとつない大きな空が、ありました。

## 夢をのせて空高く飛んだロケット

大朝小学校 洲濱 愛那

「植松努です。よろしくお願ひします。」

今から、植松電気の専務、植松さんのお話が始まる。

今日、十月二十三日（金）は、千代田運動公園で「北広島ふるさと夢プロジェクト〔六

年] ~夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう~」が行われる日だ。町内の六年生が集まり、植松さんのお話を聞かせていただいたりロケットを作ったりする日だ。

私には心配なことがあった。それは、町内の六年生と仲良くできるだろうかということだ。なぜなら、私は知らない人に話しかけることがとても苦手だからだ。

だが、植松さんのお話に引き込まれて、そんな心配は次第に忘れていった。

「人は、『どうせだめだ。』と言うとあきらめてしまう。『どうせだめ』にはたくさんの意味がある。」

植松さんは、私達のこれからの人生にとっても役立つことを真剣な顔でおっしゃった。そこに笑いも入れることで、私達の心をつかまれた。植松さんのお話の中で私が一番心に残ったのは、

「『夢を言うと何か言われる。』と、こわがらないで、いろんな人に言ってごらん。また、聞いたら『こうしてごらん。』と言ってあげて。」

という言葉だ。自分の夢を語られる人、友達の夢を応援できる人になりたいと思った。

最後に植松さんはおっしゃった。

「絶対に絶対に死んではいけませんよ。『死にたい。』と、絶対に思っちゃだめ。」

自分の体験を交えながら、少し涙をこらえて植松さんはおっしゃった。それだけ必死に私達に伝えようとされたんだと思った。私は、どんなにいやなことやつらいことがあったとしても、絶対に死にたいなんて考えないようにしようと固く思った。

次は、ロケット作りだ。班内での自己紹介から始まった。私の班は六人だったが、みんなとてもとまどっていた。私もとても緊張し、手が少し震えていた。ロケットを作り始めると、シーンと静かになった。同じ班の人が作っているところを見たり説明書を読んだりしながら作った。

ふっと気づくと、手の震えが止まっていた。周りを見ると、張りつめていた空気もなごんでいた。他の班からは話し合う声が聞こえてきた。しかし、私の班は男子同士が少し話しているぐらいだった。私は話しかける勇気がでなかった。

そうこうしているうちに着々とロケットは出来上がっていった。説明書が分かりやすかったので、ロケット作りは思っていたより簡単にできた。細長いロケットの完成だ！

完成したロケットに、私は、ロケットの一部を黄色と黄緑色でぬりつぶして、青色とピンク色の水玉模様をかいた。班のみんなも思い思いの色をぬったり絵をかいたりした。様々な色づかいやデザインがあり、仕上がりはとてもきれいだった。

私達がお昼ご飯を食べている間に、植松さんと植松電気の方が、町内六年生一人一人のロケットを、うまく飛ぶかどうか確認してくださった。

午後、ついにロケットを飛ばすときがきた。

ワクワクの期待いっぱいとしの不安の中、自分が作ったロケットを持って順番に並んだ。いよいよロケット飛ばしの始まりだ！

一番初めに飛ばす六年生のロケットが、発射台に置かれた。六年生全員でカウントダウンをする。

「三・二・一・発射！」

「シューー・・・。」

ロケットは音を立てながら空高く飛んでいった。「ロケットを飛ばしたい！」という私達六年生全員の夢がロケットに乗って空高く飛び立った瞬間だった。

「うわーー。」

町内の六年生は歓声をあげた。太陽の日差しでまぶしそうに空を見上げながら。

ロケットは二百メートル上がると「ポン」というようにパラシュートが開いて、ふわふ

お落ちてきた。

みんな順番にロケットを打ち上げた。私の夢も同じ班の人の夢も次々と空高く飛び立った。大成功だ！

私は「夢は？」と聞かれると困ってしまうことが多かった。しかし、四年生の時、先生の助けもあり、「自分は作家になりたい！」という夢を持った。

今日、自分の夢をはっきり言える勇気をもらった。「私の夢は作家になることだ。」と自信をもって言える勇気をもらった。

自分の夢をかなえるために、これまで以上にお話を書いたり植松さんのように本を読んだりしたい。そして、北広島の豊かな自然や温かい人々を舞台にしたお話が書ける作家になりたい。

## 夢に向かって

大朝小学校 白砂 武流

「植松努さん、お願いします。」

司会の先生の言葉で、講演会が始まりました。

十月二十三日、金曜日。今、ぼくは千代田運動公園の体育館にいます。百七十名以上の北広島町内の全六年生と、植松電気の植松努さんのお話を聞こうとしているところです。

植松さんは

「わたしの動物占いはコアラでした。」

などと、おもしろいことを途中途中にはさんで、ぼくたちがあきないように工夫して話してくださいました。真面目なところは、くわしくしっかりと話してくださいました。これだけでも「今日、ここに来ることができてよかったな。」と思いました。

ぼくが驚いた話もたくさんありました。一番驚いたのが

「ぼくの会社は十八人だけでロケットを丸々一台作っています。それを宇宙に飛ばすこともできます。ポッキーを・・・。」

と、植松先生がおっしゃったところです。

また、植松先生のようにする方法も教えて下さいました。

「どーせ無理。ぼくなんてだめだ。」の言葉は自分をだめにする事。

「質問をする時は、『どーせ無理。』と思わずに勇気を出して質問しましょう。失敗の原因になることや成功につながるアドバイスとはげましがもらえます。」

植松先生からたくさんのお話を教わりました。ぼくは、自分の夢をあきらめず、夢を仕事にできるようにがんばりたいと思いました。夢をあきらめない植松先生に、もっとたくさんのお話を教わりたいたいと思いました。

そして「早くロケットを作りたいな。作ったのを早く飛ばしたいな。」と思わされたお話もありました。体育館に来る前、学校のみなどと

「ロケットといっても、ペットボトルに水と炭酸バブで飛ばすだけじゃない。」

と、話していました。しかし、全くちがっていました。

「今日飛ばすロケットはこれです。この小さなエンジンで、たった0.3秒で、時速二百キロメートルに達します。おそらくこれが世界一軽いロケットだと思います。それを今日は、北広島町の六年生みなさんに作ってもらい飛ばしてもらいます。」

と、植松先生がおっしゃいました。てっきりペットボトルロケットだと思っていたぼくは、「小型とはいえ時速二百キロメートルも出る本物のロケットだ。」と分かり、早く作りたくて飛ばしたくてたまらない気持ちになりました。

やっとロケットを作る時間が来ました。

ロケット作りの袋を開けると、プラモデルのように説明書とパーツが入っていました。ぼくはプラモデル作りが得意なので、「こんなの楽勝。」と思って作り始めました。しかし、パラシュートの糸がよく分からなくなりました。だからぼくは、

「植松先生、パラシュートがよく分かりません。教えてもらえますか。」と質問しました。すると

「はい。どこが分からないの。」

と、植松先生はすぐにかけて教えて下さいました。質問してよかったと思いました。植松先生のおかげで、無事、なんとか作り上げる事ができました。

ついに、ロケットを飛ばす時がやってきました。植松先生がおっしゃった通りに、パラシュートが開くかどうか心配です。

「安全確認よーし。」

発射担当の先生の声が響きました。

「ドクン、ドクン・・・ドクン、ドクン。」

鼓動が早くなりました。

「三・・・二・・・一。発射！」

ぼくのロケットは、真っ白なけむりとともに空へ。「お願い。開いて。無事帰ってきて。」

「パァッ。」

「やった。パラシュートがちゃんと開いた。よかった。」と、とてもうれしかったです。

「植松先生に質問はありませんか。」

全員がロケットを飛ばした後、進行担当の先生が呼びかけられました。

ぼくは手を挙げ、質問しました。百七十人以上の中で質問できることが今日のぼくの成長だと思ったし、植松先生の一生懸命さに対する恩返しだと思ったからです。植松先生はまたしてもすぐに教えて下さいました。「質問してよかったな。」と思いました。

ぼくの夢は、ショートムービーなどを作って、インターネットなどを利用して見てくれる人を笑顔にすることです。この夢が仕事になるように努力していきたいです。

## 夢プロジェクトの思い出

新庄小学校 山根 拓海

今日は、前から楽しみにしていた6年生の夢プロジェクトでした。どうして楽しみにしていたのかというと、陸上記録会に続き、また他の学校の人に会うことができるのと、先生からかなりすごいロケットを作って飛ばすらしいと聞いていたからです。

そして、いろいろな楽しみの中で今日がやってきました。

初めに、今回の夢プロジェクトの講師の植松勉さんの話がありました。この話がけっこう今まで聞いた話の中でも印象に残りました。どういうところが印象に残ったかというと、植松さんの考え方です。例えば、「失敗してもばつをあたえない」ということです。それはなぜかかというと、それで失敗をおそれて何もやらなくなってしまうからだそうです。確かに、「失敗は成功の元」という言葉にもあるように、失敗によって人は学んでいくのに、失敗するたびにばつをあたえられては、性格まで暗くなっていきそうです。ほかに、「できなかったらどうすればいいか考える」など、とても勉強になりました。それに、話の中には「本を読んでいろいろなことが学べる」と言われていたので、新庄にはあまり書店はないけれど図書館はあるので、借りて読んでみようと思いました。

いろいろな話があったけれど、自分に必要なことは「夢をほかにも持つ」ということで



す。植松さんも、今は電気会社だけれど、ピアノ教室などにも通っていたそうです。「他にも夢があると、一つのことができなくなっても他の夢に向かっていける」と言われていたので、なるほど、そういう考え方もできるんだと思いました。ぼくの今の夢は、サッカー選手になることです。休憩時間や休みの日などにはサッカーの練習をしています。でも、ぼくのいく中学校にはサッカー部はありません。サッカー選手になるために中学校に行っても練習をしますが、もしなれなくても他になりたいものを持っておくこともいいな、自分ももっといろいろなことをやってみようと思いました。

次は、ロケット作りでした。他の学校の人と班になって、説明書を見ながらロケットを組み立てました。ここで、他の学校の人と話すチャンスがありましたが、いざいっしょになるとなかなか話しかけることができませんでした。みんなけっこうロケット作りに夢中になっていて、話しかける感じじゃあなかったのも理由としてありました。何を話せばいいのか分からず、結局、このときは初めの自己紹介だけで終わってしまいました。

そして、午前の部は終わり、午後の部に入りました。やっとロケットを飛ばすことができます。今回の夢プロジェクトのテーマ(目的)は、「夢と希望をのせたロケットを飛ばす」ことなので、うまいこといってくればいいなあと思いました。初めに見本を見ました。びっくりしました。発射のボタンを押したとたん、シューともものすごい速さでロケットが飛んでいったからです。予想以上でした。ぼくの番をワクワクしながら待ちました。みんなのロケットはどんどん飛んでいきました。パラシュートが開かなかった人もいたけど、ロケットは天高く飛んでいきました。そして、いよいよぼくの番です。「3,2,1。」押したとたん、ロケットは勢いよく飛んでいき、パラシュートも無事開くのを見ました。一生けん命追いかけてきましたが残念ながらダイレクトキャッチはできませんでした。でも、すがすがしい気持ちでした。それにいっしょにロケットを飛ばした他の学校の人と話ができたので、ちょっとホッとしました。

この夢プロジェクトを通して、学んだことはたくさんありました。そして、その中でぼくは学んだことをどう生かせるのかを考えました。ぼくにとって大切なのは、サッカー以外に何か好きなことを見つけて、もう一つ夢を持つということだと思います。いろいろなことを挑戦して、夢を増やしたいです。

なによりも、夢プロジェクトはとても楽しかったです。自分の楽しみにしていた期待をはるかに上回りました。他の学校の人とあまり交流できなかったのは残念だったけれど、このことは次の機会にとっておきます。この夢プロジェクトで、ぼくは自分の将来のことをいろいろ考えました。「夢と希望をもせたロケットを飛ばす」というテーマ通りだと思いました。

## できないことはない。がんばればなんでもできる

新庄小学校 芳賀 悠史

先日、ふるさと夢プロジェクトが行われ、北広島町内の6年生が集まりました。町内の6年生175人で、ロケットを飛ばそうというものでした。

開会式では、それぞれの学校の紹介がありました。新庄小学校は3番目に発表しました。「学校紹介があるけど、どういうことを紹介したらいい？」と先生に聞かれたとき、みんな「新庄小はやっぱりはやし田でしょう」と答え、学校紹介の中にはやし田を入れました。2分間に入れるのは難しかったけど、なんとか30秒にしようと練習しました。本番では、大勢の人が前に座っていてきん張りました。前の人顔も見られませんでした。がんばって歌を歌いました。上手にできたのでよかったです。

次は、講演会がありました。講師は北海道から来てくださった植松努さんという方でした。とても面白くて、わかりやすいお話でした。植松さんは北海道にある会社の社長さんで、主にマグネットを作っていて、ロケットや人工衛星も作って飛ばしていると言っていました。小学生のころはペーパークラフトをしていて、今でもがんばったらとても細かい難しそうなものも作れると言われていたので、絵や工作をするのが苦手なぼくは、あんな細かいものを作れるってすごいなあと思いました。

植松さんの講演では、みんながよく知っているアニメやマンガのことが出てきたので、植松さんにとっても親近感がわきました。ぼくの好きなアニメやマンガも出てきたので、共通点があるなと思いました。ぼくは、植松さんの話で、「できないことはない。がんばればなんでもできる」ということが特に心に残りました。植松さんは、学生時代に先生から自分の夢はどうせ無理と言われたそうです。ぼくは言われたことはないけれど、実際に言われたら相当ショックだろうなと思います。ぼくは、いま、新庄中学校の受験勉強をがんばっています。つかれているときは、植松さんの言葉「できないことはない。がんばればなんでもできる」を思い出して、がんばりたいと思います。

講演会が終わったら、ロケット作りに取りかかりました。他校の6人とやりました。自己紹介をしてから、ロケット作りに取りかかりました。ロケットにパラシュートをつけるのですが、そこが一番大変な作業でした。周りのみんなはてきぱきとやっていたけど班の中でぼくが一番おくらっていました。何とかロケットを作り終わり、マジックペンでロケットに色をぬりました。ロケットの先たんはオレンジ色にぬって、フィンには半分黒をぬりました。ロケットを作るとき、ぼくたちの班は、回ってきた大人の人から「この班は静かだねえ」と言われるくらい、話をしませんでした。みんな、説明書を見ながらもくもくと作っていて、話すふんい気ではなかったからです。ぼくも、パラシュートをつけるのが難しかったけど、何とか自分でやるしかないかと思ってしまいました。今は、ちょっと話しかけてみてもよかったかな、話しかけるとどうなっていたのかなと思い、少し心残りです。

昼食を食べ終わったら、グラウンドに行ってロケットを飛ばしました。初めにみんなで見本のロケットを見ました。するとすごい速度で上空へ上がっていきました。0, 2秒で100mとか言って、どれぐらいか分からなかったけど、見るとすごい勢いでした。思わず「オーッ」とさげんでしました。みんなもさげんでいたので、びっくりしたのはぼくだけではありません。順番を待つ間、となりの人と話をしながら待ちました。あんなに人に話しかけにくかったけど「すごいねえ」「うまくキャッチできるかねえ」「あの人、パラシュートが開かんねえ」など自然に話をしました。いよいよ、ぼくの番です。となりで話をしていた人といっしょにロケットを先生にわたし、カウントダウンをしてボタンを押しました。ぼくのロケットも見事に飛んでいきました。パラシュートをつけるのに苦労したけど、パラシュートも無事に開きました。ほっとしました。みんなのロケットが発射し終わったら、閉会式が行われました。植松さんの話では、各校に一つずつ発射台をプレゼントすると言っていました。いつ飛ばすのか楽しみです。

このプロジェクトで、「できないことはない。がんばればなんでもできる」とことと「あきらめないこと」の大切さを学びました。このことを忘れないで、これからもがんばりたいと思います。

## 大成功 ふるさと夢プロジェクト

新庄小学校 佐伯 穂乃果

私は「夢プロジェクト 夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」という行事で、ロケット飛ばしをしました。私はロケットなんて作ったことが無いからこの日をとっても楽しみにしていました。

まず、始めの開会式では各学校の学校紹介でした。2つの学校の発表を聞いた後、自分たちがするのは、緊張したけど言葉をまちがえずに言えてよかったです。新庄小学校は、言葉だけでなくはやし田もしたので、みんなによく伝わったと思います。八重小学校はソーランをやっていたけど、音が出なくて先生が歌って、みんな元気におどって印象に残りました。それぞれの学校の特色などが知れてよかったです。

次は北海道から来て下さった『植松努先生』の話の話を聞きました。始めは紙飛行機が好きだった努先生も本のおかげでロケットを作る人になるなんてすごいなと思いました。私の将来の夢は「習字の先生」です。今は、習字を習っているだけですが、今日のお話を聞いて、本で将来が変わるから、習字に関する本を読んでみるのもいいかなと思いました。今は、字にあまり自信が無く、姉からは「字が下手なのに、習字の先生になるなんて」と言われます。もっと自信をつけるために、これからたくさん練習したいと思います。人に夢をバカにされても、あきらめずにがんばろうと思います。

11時過ぎから、楽しみにしていたロケット作りが始まりました。私の班には、知っている人がいなかったけど、自己紹介の時に、みんな元気よく話してとってもいい空気でした。それから作業を進めていると、となりにいた八重小の人がパラシュートのやり方を聞いてきたので教えてあげました。それから、みんなで「どんな色にぬろうか」「学級は何人？」「今、算数、どこまで進んだら？」「どこの中学校に行くの？」などと自然に話がはずみました。そして、1時間ぐらいかけてやっとロケットが完成しました。みんなのロケットが並んでいるのを2階から見ると、いろいろなロケットがあり、個性があるなと思いました。

お昼ごはんを食べた後、一番楽しみにしていたロケット飛ばしが開始しました。前の方からロケット飛ばしが始まると、私は一番後ろだったので、となりにいた八重小の女の子と話をしながら順番を待ちました。やっと順番が来ると、スイッチを押したら「ヒューン」とロケットが勢いよく飛んでいきました。遠くまで飛び、パラシュートも開いてロケット飛ばしは成功しました。みんなのロケットを見ていると、ものすごく高く飛んでいる人もいたので何かコツがあったのかなと思いました。学校に一台ずつ発射台を置いてくれるので、早くロケットが飛ばしてみたいです。

私は今日一日で、たくさんの人とお話をしました。ただお話をしただけの人もいますが、仲良くなった人もいます。八重小や豊平小などあまり会えない人もいるので、またこういう北広島町の6年生が集まって何かする機会があればいいなと思います。私は今日だけでロケットが作れて飛ばせるなんて思ってもいませんでした。みんなと協力すればできないと思っていたこともできるからすごいなと思いました。北海道から来て下さった努先生にもまた会えたらいいなと思います。今日は本当に楽しい一日でした。

## ふるさと夢プロジェクト

川迫小学校 河内 愛奈

10月23日金曜日に、北広島町内の六年生が集まって「ふるさと夢プロジェクト」がありました。私はこの日まで、早く金曜日にならないかなあと考えていました。とても楽しみにしていたので、目覚まし時計が鳴る前から、目が覚めていました。何回も見直し、準備しても、時間がたつのが遅いので、とても待ち遠しかったです。

学校に着いて少したって、バスに乗りました。不安だなという気持ちや、楽しみだなという気持ちなど、色々な気持ちがありました。途中で、八重小学校の6年生がバスに乗ると、もっとにぎやかになり楽しくなりました。運動公園に着くのはあつという間でした。運動公園に着いて、体育館に入るとほとんどの小学校の6年生が来ていました。修学旅行で仲良くなった人や、陸上記録会で仲良くなった友達が、覚えていてくれて手を振ってくれたり、話しかけてくれたりしたのでうれしかったです。だから「今日も友達をたくさん作ろう！」と私も思いました。

最初に、開会式がありました。校長先生のお話などがありました。そのあとは、学校紹介がありました。豊平小学校や、八重小学校など実際に演技をしていて分かりやすかったです。どの学校も特色があって良いなあと思いました。川迫小学校の学校紹介は、最後でした。ひとつ前になると緊張してきました。他の学校の人が、川迫小学校の良いところの一つでも知ってくれば良いなあとという気持ちで発表しました。私は、川迫小学校の中でも一番後だったので、もっと緊張していましたが、最後までちゃんと発表できたので良かったです。川迫小学校の発表が終わると、開会式も終わりました。5分から10分休憩があってトイレに行ったりしました。友達と話したりできて、良かったです。それから、植松電気株式会社取締役の植松努先生の講演がありました。私は、長い話が苦手だったけど植松努先生の話はとても面白かったので、1時間がとても短く感じました。

私はこの講演の中で、素晴らしいことをたくさん知りました。植松努先生の会社は北海道にあって色々な有名人(AKB・SMAP)などが来ていると聞いて、とてもびっくりしました。小さいときから紙飛行機など作るのが大好きだった植松努先生は「やっていない人には聞いたら、ダメ。」ということをおっしゃっていただきました。最初は、なんでダメなんだろう。自分より年上の方は、色々な知識を持っていて、いいんじゃないの？と聞いていたけど話を聞いている間に意味がわかりました。やっていない人は、やってもないことを、無理と覚えてしまいます。できる人にも、「どーせむり」など言ってしまうから、やってもない人に聞かないほうがいい。と、おっしゃっていただきました。こんどから、やったことのある人にわからないことがあったら、相談したいと思いました。

私が一番心に残っている言葉は、「思うは招く」という言葉です。なぜかという、植松努先生もこの言葉を信じて頑張ってきて、実際に自分で、植松電気株式会社を作って工場まで造られていました。とてもすごいことだなあと思いました。私にも夢があります。この言葉を信じて、これから頑張っていきたいと思えます。

時計を見るともう11時になっていました。わたしは、「はや！」と思いました。短いような長い1時間だったけど、この1時間でとてもいいことを知れて良かったです。本を読むことは大事！とおっしゃっていたから川迫小学校で頑張っている読書活動も続けていきたいです。

その後、私が楽しみにしていたロケット作りでした。私の班は、16班で、まだ友達じゃない人がほとんどでした。とても緊張していました。「ロケット作りはむずかしい、間違えてしまうかも」と思っていたけれど植松努先生は間違えたら、

『やっでもうたあ』と言ってくれ』  
と言ってくださったので、安心しました。もしわからなかったら隣の人に聞こうと思いま  
した。

ちょっと難しいところもあったけれど、色塗りまで完成しました。そのあとは、写真を  
撮って、昼食でした。お弁当はとてもおいしかったです。みんなのお弁当もおいしそうで  
した。

1時30分にロケットを取りに行きました。ほかの班の人は、どんどん取りに行くのに  
16班はなかなか呼ばれなくて、最後でした。グラウンドに行くと、すぐロケットの打ち上  
げが始まりました。とてもワクワクしました。ロケットは、時速200キロメートルで飛  
んで行ってパラシュートで帰ってくるからすごい仕組みだなあと思いました。他の人のロ  
ケットが次々飛んでいくので目で追うのがとても大変でした。ついに私の出番でした。一  
緒の班だった友達と2人で飛ばしました。勢いよく飛んで帰ってきたのでよかったです。  
最後はキャッチできななかったけど、とてもいい思い出になりました。とても楽しい一日に  
なりました。

この会を通して、私は夢を持つ大切さを知りました。みなさん、本当にありがとうございました。

## 夢プロジェクト

川迫小学校 炭村 唯那

10月23日に夢プロジェクトでロケットを作って飛ばしました。

最初に自己紹介をしました。私達は、最後だったので緊張していたけれど、なんとかで  
きました。

次に、植松さんの話を聞きました。まず、植松さんが言っておられた言葉は、「思うは招  
く」「夢があれば何でもできる」でした。その言葉は、植松さんのおばあさんがいっていた  
と言っておられたので、そのおばあさんの言葉で植松さんの夢が叶ったのかなと思いま  
した。だから、私も思うは招くという言葉をおぼえておきたいようにしようと思いま  
す。植松さんは将来の夢を先生にいったら、できない理由を教えられるので、やりたいことをやったこと  
のない人に言うのではなく、やった人に言えばいいと教えてくださいました。私も今やり  
たい事とかは、やった人に言おうと思います。

次に、植松さんに本当の「がまん」を教えてくださいました。私が思っていたがまんは、「な  
んでもあきらめなければいけない。」ということでしたが、植松さんが言われたのは、違う  
方法を考えることだと教えて頂きました。

私が一番心に残ったのは、「言葉で人の可能性を奪うことは殺人と同じです。」という言  
葉です。私も「むり」と言われたことがあったので、私もまねしないようにしたいと思  
いました。私が一番駄目だと思ったのは、自信がほしいから…「お金で自信を買う」「じま  
んをする」「人を見下す」「努力をじゃまする」ということです。そして、植松さんは、「でも  
相手の安心、自信、自由を奪ってはいけませんよ」と教えてくださいました。

私たちは、本当の実力ということについても教えてくださいました。それは、「好きなことは  
がんばれる、覚えちゃう、それが本当の実力」と言っておられました。私も本当の実力は  
なんだろうと思っていたので植松さんに本当の実力を教えて頂けたのでよかったです。

そして、植松さんは、おばあさんに「お金は、値打ちがかわってしまう。だから、お金  
があったら本を買いなさい。」と教えられていたので、本が好きになったから、本を読んで  
書いたのかと思いました。

私が良いと思った言葉は3つあります。一つ目は、「やったことがないことを、やりたがる人、あきらめない人、くふうする人」という言葉です。もう一つは、「学校の成績が、すべてではない。世界は広い！」という言葉です。最後は、「美しい言葉は、本を読んで身につけよう」という言葉です。この、3つの言葉は忘れないようにしたいです。

おもしろかったのは、「ポッキーの日」に植松さん頼まれて、「11月11日11時11分11秒、高度1111m丁度」に、ポッキーとプリッツをロケットにして飛ばしたと言っておられたのでおもしろかったです。

次に、ロケットを作りました。私は、17班でした。ロケットを作るのは初めてだったので緊張していました。ロケットを作る最初は、班の人と何にも話していませんでしたがパラシュートをつけるときは、隣の人と色々話すことができました。色つけなどもあまり時間がなくて棒の所は塗れなかったけれど、きれいにできたのでよかったです。その後、無事ロケットが完成したのでうれしかったです。

お昼ご飯を食べたあと、外にロケットを飛ばしに行きました。最初は、本当に飛ぶのかなと思っていました。実際に飛ばしてみると時速約200kmでロケットが飛んだのでびっくりしました。私のはちゃんと飛んでパラシュートも開いたけれど、何人かは、パラシュートがちゃんと開いていませんでした。その中に颯汰君もいて「ロケットが地面に突き刺さって、抜けない。」と言っていたのですごい力なんだなと思いました。私も中に入れておいた硬い綿が無くなっていたので、びっくりしました。初めて作ったロケットでしたが、植松さんのおかげでちゃんと作ることができました。そして講演では、私たちにいろんなことを教えてくださいましたので、うれしかったです。私も植松さんのように、夢を諦めないようにしたいと思います。

## 夢のロケット作り

川迫小学校 西田 晴香

10月23日、千代田運動公園でロケットを作りました。私は最初、とても「めんどくさいなあ。」と、思っていました。でも、意外と楽しかったです。楽しかったことは、植松さんのとても長い話とロケット作りとロケットの打ち上げです。

植松さんの話で、一番心に残っている言葉は、「やって、無駄なことはない」という事です。なぜかという、植松さんは、小学生の頃に、がんばって紙飛行機などの設計をしてたくさん物を作っていたけれど、学校のテストには全く関係なく、ゼロ点ばかりで、怒られていたそうです。でも、大人になってから、子供の頃にやっていたことが、役に立ったと言われたからです。だから、私も今のうちから、たくさん事に挑戦していきななと思いました。そして、将来の仕事に役立てばいいなと思いました。

2つ目の心に残っていることは、「がまん」という言葉です。私は、がまんと言うのは、自分の言いたいことなどを言わずにあきらめることが、がまんだと思っていました。でも植松さんは、

「がまんとは、あきらめる事ではないよ。あきらめたりして、良くなる未来はない。本当のがまんとは、ちがう方法を考える事」

と言っておられました。私はがまんという言葉の意味が違ってビックリしました。

植松さんは、今までつらい事や大変な事を乗り越えていてすごいなと思いました。

講演が終わると、楽しみにしていたロケット作りが、始まりました。机に行くと、色々な物が置いてあって、ワクワクしました。

作る時は、6人で協力して、一人1個のロケットを作りました。私の班は、最初は全く



話せませんでした。しかし、ロケットのパラシュートで切りまちがえた人が出てくると、みんなで助けながらできました。その後も、少しずつ話せたので、とても、うれしかったです。ロケットに色を塗るとき、男子は一色でぬっていたから、おもしろかったです。

ロケットが完成すると、弁当を食べました。弁当は、いっぱい詰めてあったので、お腹いっぱいになりました。食べ終わると休憩しました。1階では、植松さんとスタッフの人がロケットを見ていたので、少し心配になりました。

弁当の後、ロケットの打ち上げです。私は、少しか飛ばないと馬鹿にしていたけど、最初にスタッフの人が1つ飛ばすと、ものすごい勢いで高く飛んでいったので、ビックリしました

私の飛ばす番になったので、唯那ちゃんと前に出ました。赤いボタンを押すと、勢いよく飛んでいきました。パラシュートもちゃんと開きました。でも、残念だったことは、ロケットを取るのに集中して、一番高く上がったところを見られなかった事です。違う人のロケットは、パラシュートが開かずに地面に突き刺さっていてびっくりしました。

一日が終わって、私はたくさんのいい話が聞けてとても良かったし、友達もできてよかったです。

## すごかったロケット飛ばし

八重小学校 上本 真己

「うわー。すげー。こんなに飛ぶの。」

と、思わず叫んでしまいました。なぜなら、こんなに身近なところで本物のロケットが飛んでいったからです。

10月23日、金曜日にふるさと夢プロジェクトがありました。ぼくは、「ふるさと夢プロジェクトって何。」と思いました。先生に聞くと、みんなでロケットを作って飛ばすということはわかりました。ぼくはその時、ペットボトルロケットのような簡単なロケットを作って飛ばすのかなと思いました。細かいことはよくわかりませんでしたが、それでもロケットを作るということで何だかすごく楽しみでした。

むかえた当日、学年発表などがあるのですごく緊張しました。無事に学年発表を終えた後に、今回ロケット作りを教える植松さんのお話がありました。お話の内容は、夢をあきらめないということでした。その話を聞いて、なぜかドキッとしました。なぜならぼくも将来の夢で迷っていたからです。植松さんは何度も夢をあきらめかけられたようですが、自分の夢を叶えられました。植松さんは、お父さんやお母さんに助けられていたから夢を達成できたとおっしゃったので、努力すれば夢は叶えられるものなのだと自信ができました。その植松さんのお話を聞いて特に心に残った言葉は、「夢があれば、なんでもできる。」です。ぼくは、夢はなかなか叶えられないと思ったけれど、植松さんの言葉を聞き、なぜか自信がもてました。ぼくはまだ夢が決まっていないので、夢を決めていきたいです。

次に、他校の人たちと協力してロケットを作りました。ぼくは少し心配になりました。なぜなら、初めて会う友達と協力してロケットを作れるかどうか不安だったからです。しかも植松さんは、

「自分は何も言いません。なので、自分たちの班のみんなと協力して作って下さい。」

とおっしゃったので、もっと心配になりました。けれど、自己紹介をし終わると、なぜか不思議とみんな友達になっていて、協力してロケットを作っていました。分からなくても、班のみんながやさしく教えてくれて、すごく楽しかったです。最後のロケットの色ぬりでも、みんなで楽しく、

「こうすればいいんじゃない。」

「確かに。」

と話をしながら、色をぬっていきました。

昼は、お弁当を食べた後にロケットを飛ばしに行く日程でした。ぼく達が弁当を楽しく食べている間、植松さんとスタッフの方々が、僕たちのロケットを点検して下さっていました。ぼくが仕上がりは完ぺきだと思っていた自分のロケットも、スタッフの方々が直して下さっていました。何だかはずかしかったです。

お弁当を食べた後は、みなさんお待ちかねのロケット飛ばしでした。最初に植松さんが、  
「0.03秒で時速200kmのスピードで飛ぶんだよ。」

とおっしゃっていましたが、ぼくは実際のところはどうかなと思っていました。

「3・2・1・・・」

という合図とともに、ロケットがものすごい勢いで飛んでいきました。ぼく達の反応は、  
「うわー。すげー。こんなに飛ぶの。」

と、すごくびっくりしていました。その時ぼくは、自分が予想していたロケットと全然ちがって何だかはずかしくなってきました。ぼくは早くロケットを飛ばしたい気持ちでいっぱいになりました。周りのみんなもワクワクしていたので、多分そう思ったのは、ぼくだけじゃなかったと思います。その時のみんなの顔は笑顔であふれて、そしてぼくもすごく笑顔でした。そしてロケットが次々と飛ばされる中、自分の番がやってきました。ぼくは、ロケットのパラシュートが予定通り開くかどうか不安で、すごくドキドキしていました。カウントダウンが始まりました。

「3・2・1・・・」

勇気をふりしぼってボタンを押しました。

プッシュー。と天へ向かって飛んでいきました。心配していたパラシュートも無事に開き、ロケットが落ちてきました。まさか自分の手でロケットを作って飛ばすなんて思っていなかったので、すごくびっくりしました。

ロケットを飛ばした後、ぼく達みんなから植松さんへの質問タイムがありました。他校のだれかが、

「発射台は自分たちで作れるのですか。」

という質問をしました。それに対して植松さんは、

「簡単に作れますよ。」

とおっしゃいました。そのつくり方は、一本の針金に豆電球の実験で過去に作ったことのある回路をつけるというもので、とても簡単なものでした。この時にもやはり、自分たちであきらめなければロケットや発射台も作れるのだと思い、あきらめないことの大切さを感じました。

最後の閉会式で植松さんは、

「夢をあきらめないでがんばって欲しい。」

とおっしゃっていました。ぼくは、夢はとても大切なものだと感じました。これからの生活の中で、夢をあきらめそうになることがあるかも知れないけれど、植松さんの話を思い出して、夢に向かってがんばっていきたいと思いました。今回の夢プロジェクトは、ぼくたち六年生はすごくいい経験をしました。

## 人生初ロケット

八重小学校 山本 敬太

ぼくはすごくビックリしました。北広島町でふるさと夢プロジェクトが行われる。その話を聞いた時、すごく楽しみになりました。他の学校の友達に聞くと、その話を知っていたので、ぼくはますます楽しみになりました。「こんなすごいイベント初めてだなあ。」と思いました。よくよく話を聞いてみると、ロケットは簡単に作れて、それがものすごく飛ぶということを知りました。「今すぐやりたい。」という気持ちでいっぱいでした。その中で一番楽しみだったのは、ロケット作りでした。ぼくは工作がものすごく好きなので、ロケット作りと聞いてすごくうずうずしていました。

そして当日の行きのバスでは、ロケットをどういう風に作るのかなとか、ロケットはどれだけ飛ぶのかすごく気になっていました。体育館に入ると色々な小学校の人がいました。始めに学校紹介がありました。ぼく達は八重小ソーランをおどりました。アクシデントがあって音楽が鳴りませんでしたが、先生がフォローして下さり何とか終わりました。その後、植松先生の講演がありました。ぼくはまだ夢が決まっていませんでした。植松先生は夢について話をして下さいました。講演の中で、これまで植松先生は夢に向かってあきらめずに歩んできたということが分かりました。植松先生は、あきらめずに自分の好きなことを続けていくことで、その夢が実現するとおっしゃっていました。ぼくは、たとえ自分の好きなことを反対されたとしても、その夢をあきらめず続けていくことが大切だということが分かりました。

講演の後に、他校の人とロケットを作る作業を行いました。ぼくは、始まる前にみんなで協力して作ろうと思ったけれど、なかなか上手くいきませんでした。初めて会う人ばかりなので、なかなかみんなに声をかけられませんでした。でも勇気を出して話しかけてみました。すると、

「がんばってつくろう。」

と返してくれました。ぼくはそれからみんなと仲良くなりました。作り方がわからない時など、どうやれば上手くいくのかを教えてくださいました。活動を通して友達ができて良かったなあと思いました。ロケット作りを行っている中で、一つすごく面白かったことがありました。それは植松さんが言った言葉です。失敗したら、「やってもうた。」と言うことです。実際に失敗した人が、

「やってもうた。」

と言った時は、何だかすごく面白かったです。三人位の人がそれを言ったのですが、何回聞いてもすごく笑ってしまいました。「失敗することは悪いことではなく、失敗したことをはずかしく言える雰囲気は良いな。」と思いました。

ロケットが完成した後は、ロケットのデザインを考えて色をぬりました。ぼくは、ロケットと言えば何が思いつくかなと考えました。するときれいな夜空だとひらめきました。青の暗い色と明るい黄色にしました。きれいな色で仕上がりました。友達は、ロケットのどがついているところを鉛筆の芯のようにデザインしていたので、それもまた良いアイデアだなと思いました。

そしてロケットを飛ばす時がやってきました。植松さんは打ち上げ台を自分で作ったこともあるという話をぼくは聞いて、「それもまたすごいな。」と思いました。

そして一人目のロケットを飛ばす時がやってきました。ぼくは、水や空気などで飛ばすのかと思っていたら火薬で飛ばしていました。その時ぼくは、「本格的だなあ。」と思いました。ロケットは0.03秒で時速200kmのスピードが出ると聞きました。一人目の

ロケットがものすごい勢いで飛んでいきました。二人目三人目と飛んでいきました。パラシュートが開かない人や、ロケットが折れている人もいました。せつかくがんばって作ったのにかわいそうだなと思いました。

そして自分が飛ばす時がやってきました。先生が火薬を取り付けて、ロケットを打ち上げ台にセットしました。そしてカウントダウンが始まり、発射スイッチを押しました。

ブシュー。という音とともにロケットが飛んでいきました。しかしぼくのロケットのパラシュートは開きませんでした。「みんな開いたのに。」と悲しくなったけれど、こんなこともあると気持ちを切りかえました。ぼくはこの時、「ロケットを作るといのは難しいんだな。」と改めて思いました。そして「もう一回飛ばしたいな。」とも思いました。

最後に質問コーナーがありました。質問の中に、

「発射台は自分でも作れるのですか。」というものでした。ぼくも質問してみたかった、ピッタリの質問でした。そしてなんと植松さんは、  
「針金があれば簡単に作れる。」

とおっしゃいました。ぼくは絶対作ってみようと思いました。火薬がもらえて、もう一度飛ばすチャンスがあるということが分かりました。ぼくはその時がすごく楽しみです。

そして、次は自分で考えてロケットを作ってみたいと思いました。こんな貴重な経験のできるイベントを考えてくださった人に感謝しています。

## ふるさと夢プロジェクトを終えて

八重小学校 宍戸 紗良

10月23日に、北広島町の小学6年生が千代田運動公園に集まってロケットを飛ばしました。私は行く前「どんなロケットが飛ぶのか。何m位上空に飛ぶのか。」とわくわくしていました。

まず始めに、学校紹介を行いました。どの学校の紹介もとても個性的で面白かったです。八重小学校は八重小ソーランを少しだけ紹介しました。しかしハプニングが起きてしまい、用意していた曲がかかりませんでした。そして曲は急きょ、先生が歌いました。他の学校からはすごく好評だったので良かったです。

次に植松さんに「夢」についてのお話をさせていただきました。植松さんは昔「どうせむり。」など、夢をあきらめてしまいそうな言葉を言われ、とてもつらい思いをされたそうです。時には、あきらめかけたこともあったそうです。しかし植松さんは夢をあきらめないで一生懸命勉強して、長年の夢を叶えられたそうです。私は、人から夢をあきらめさせられるような言葉を言われたのに、あきらめず夢を叶えてすごいと思いました。私はまだ夢がたくさんありすぎて一つにしぼれていないけど、植松さんのように人に何を言われてもあきらめないでがんばって夢を叶えたいと思いました。

そして、ロケット作りをしました。知らない子もいて「仲良くなれるかな。」と思ったけど、みんなすごく優しくていい人達だったのですぐに仲良くなれました。パラシュートのたたみ方が分からなかったのも、となりの席の女の子に聞いてみたら、とても分かりやすく教えてくれたのでうれしかったです。作るの難しいと思っていましたが、思ったより簡単に楽しかったです。

午後はロケットを飛ばしました。一番初めに打ち上げた人のロケットを見ると、ものすごく大きな音ともものすごい速さでロケットが飛んでいったのでびっくりしました。しかもすごく高くまで上がったので、まぶしくて全く見えませんでした。上空でパラシュートが開いてゆっくりゆっくり降りてきました。私は友達と、

「あんなに小さいロケットなのに、すごく高く飛ぶんだね。」と話をしました。30cm位しかないロケットが約80m飛ぶのなら、宇宙まで飛ばすロケットは、すごく大きくてエンジンもたくさん必要なんだろうなと思いました。飛ばすためには色々大変なことがあるのだなと思いました。植松さんは何度も何度もロケットを飛ばすのに失敗をして嫌になったことがたくさんあったそうです。だからロケットが無事に飛ぶと、涙が出るほどうれしいそうです。

「何度も何度も失敗してできた時の感動はとても良いものだ。」とおっしゃっていました。

そしていよいよ私がロケットを飛ばす順番になりました。係の人が装置にロケットを取り付けて下さり、私はボタンを押しました。すると大きな音とともに上へ上がっていきましました。あまりの速さにびっくりしました。飛んだ後のロケットを見てみると、パラシュートの部分が少しだけ焼けて黒くなっていました。エンジンを取り付けて飛ぶのがすごいと思いました。

「ふるさと夢プロジェクト」はとても良い思い出になりました。植松さんは夢についてお話してくださいました。どんなことがあっても乗り越えてこられた植松さんはすごいと思いました。たとえ辛いことがあっても、周りの人に何を言われても強い心を持ち続けていくことはとても大切だということがよく分かりました。私も、人生は一度きりなので自分を信じて、自分に自信をもって夢をかなえたいです。

ロケット作りでは、自分達で説明書を見てつくりました。知らない小学校の子とも、すぐに打ち解けられたし教え合えたので、人の輪が広がってよい機会になりました。それにロケットはどういう仕組みで飛ぶのか分かった上で飛ばすことができるととても良かったです。ロケットを飛ばす前には、何m位飛ぶのかわくわくしていました。空へ向かって約80m飛んだ時にはすごくびっくりしました。飛ばした後は、夢が大きくふくらみました。

このような貴重な経験のできたプロジェクトを行ってくださった方や、この「ふるさと夢プロジェクト」のために、遠い北海道からわざわざおこしくくださった植松さん、そしてロケットのキットを購入して下さった北広島町の方々に感謝です。

この「ふるさと夢プロジェクト」でロケットの仕組みだけでなく、夢についても考えることができました。

## 夢をかなえるために

壬生小学校 和泉 晴香

私は、今回のロケット作りで、「あきらめないこと」と「友達は大切」と言うことが分かりました。植松さんは、他の人に「そんなん、東大に行っていないと無理だよ。」と言われても、ロケットが何回爆発してもあきらめなかったそうです。また植松さんが「読書が好き」ということから始まって自分で書いた本が出せたのは、友達のおかげだったそうです。

私は、体験に行く前、「友達をいっぱい作りたい」という夢を持っていました。友達をいっぱい作るには、社交的になればいいんだと思いました。いろいろな体験をして、いろいろな発表の場に積極的に出て行けばいいんだと思いました。そうすればきっと、話が合う人もいるだろうし、いろいろな人に自分のことを知ってもらえるからです。夢のために私は、低学年と遊んだり、地域の人に積極的にあいさつをしたりしています。

植松さんのお話には大切なことがいっぱいありました。「夢を持つんだよ」「そのためにねばり強く努力するんだよ」壬生小学校でもそれを目標にして頑張っています。今回、同じように頑張っている夢をかなえた植松さんの話は、私にとってとても説得力がありました。

植松さんは、「他の人に『あきらめなさい』と言われてもあきらめないで。」と、おっしゃいました。その人は、やったことがないから「あきらめなさい」と言っているだけで、まずはチャレンジすることが大切だそうです。確かに、やった事が無い人に、「これ、できるかな。」と言っても、自分がやった事が無いのだから、「できないと思うよ。やめたほうがいいんじゃない？」と言われてしまうと思いました。それから、植松さんは、「夢を持つことは大切なんだよ。」とおっしゃいました。夢や目標がないと、将来何も出来なくなります。勉強するのも、将来、役に立つという目標があるからだし、大人の人が仕事をするものも、お給料をもらうという目標があるからです。一人ひとり目標は違いますが、やっぱり何かをするには、夢や目標が必要です。夢や目標をたっせいしたい！そう思って、今はむだだと思いうことでも努力したら、「思いは招く」ことで、夢を叶えられるそうです。でも、努力するためには、自分一人の力ではどうにもならないこともあります。そんな時には、「やったことがある人」に会うことが大切だそうです。その人と友達になることが大切だそうです。もし、もう「やったことがある人」が死んでしまっていたとしても、本を通じて友達になれるそうです。だから、本を読んでその人たちに出会うことが大切だそうです。植松さんは今も、本からいろいろなことを学んでいるそうです。植松さんは、考えるためには、美しい言葉が必要だとおっしゃいました。「うぜえ。だりい。」こんな言葉では、自分がきちんと表現できません。自分の心や考えを、きちんと表現できる言葉も、植松さんは本から学んでいるそうです。私も、本を読んでたくさん学びたいと思いました。

植松さんの話を聞いた後は、ロケット作りをしました。ロケット作りを実際にやってみると、ちょっと難しかったです。でも、一番何が難しかったかという、他の学校の人との交流です。

「・・・」

みんな一言も話してくれなくて、これじゃあ私の目標の「友達づくり」ができないじゃないかと不安になりました。私は細い声でとなりの女の子に言いました。

「どこまでできた？」

すると女の子は笑って、

「ここ、どうするの？」

と、聞いてくれました。しーんとした中、不安の中、やっと話しかけて返答が帰ってきたので、うれしかったです。それから何回か、その女の子にロケットの作り方を教えてあげました。出来上がったロケットを見て、女の子は、

「かわいいね。」

と、言ってくれました。私も、

「さわやかな色でいいね。」

と、笑顔になって言いました。友達になれたみたいでとってもうれしかったです。

いよいよロケットを飛ばします。みんな、「ロケットがちゃんと飛ぶか」「飛んでもパラシュートが開いてくれるか・・・。」と半分心配で、「どんだけ飛ぶんだろう？」と半分楽しみな気持ちで、ロケットを飛ばすのを待っていました。やっと私とあの女の子の番が来て、

「1・2・3・プシュー」

と、ロケットを飛ばしました。高ーく跳んで

「うわー！」

と、まぶしいのがまんして上を見ました。それくらいうれしかったです。

私は、努力すれば夢はかなうし、不安だったら不安な程、できた時の喜びは大きいんだなと思いました。

私は、夢を叶えるためには、夢を持ち、それを望むことが大切だということが分かりま



した。講演の題の『『思うは招く』ってなんだろう?』とと思っていた私ですが、「思う」ことでそれを達成しようと頑張ることができます。そして、「あきらめないこと」と、「友達は大切」ということは、夢をかなえたいと欲していたら自然となることだと分かりました。あきらめたら、夢は叶わないことは分かっているし、夢をかなえるためには、友達が必要なこともあるからです。だから私は、「あきらめないこと」と「友達は大切」ということを大切にしていきたいと思いました。

## 夢プロジェクト

壬生小学校 細居 知輝

ぼくは、今回の体験で自分の夢や好きなことは、あきらめずにやり続けてもいいということを学びました。それに、失敗は次に生かすことがとても大切なことだということも植松さんから学びました。

ぼくは、みんなからみとめられて、人の役に立てるような大人になりたいという夢を持っています。だから、その夢をロケットに乗せたいというふうに思っていました。ぼくは、二つのことを実現させるために、学校でどういう行動をしたら人の役に立つのかを考えて生活しています。また、人に優しく接するなど、みんなからいいように思われるようにいろいろなことを学校でがんばるようにしています。そして、今のうちにしっかりと身に付けて、大人になれるようにしていきたいです。だから、二つの夢がかなってほしいです。

ぼくは、植松さんの話を聞いて、たくさんのことを学ぶことができました。植松さんはロケットを発射するのに、最初は爆発ばかりで、失敗されていました。しかし、なぜ爆発したのか、なぜ、ロケットが飛ばないのかなどを調べたり考えたりされました。そして、ついに、ロケットが飛ぶようになったそうです。だから、

「失敗は次にいかそう。」

と言われました。また、植松さんは、子どものころから好きなことは、あきらめずにやり続けられていました。たとえ、

「どうせ、無理。」

とだれかに言われても、夢をあきらめていませんでした。その結果、今のように、すごい人になりました。そのような経験から、

「自分の好きなことは、あきらめずにやり続けよう。」

と、言われました。その他にも、植松さんは、たくさんのお話を教えてくださいました。

ぼくは、植松さんの話から、自分の好きなことや夢は、人にどう言われてもやり続けていいということを学びました。だから、ぼくも、好きなことは夢や植松さんのようにやり続けるようにしたいです。そうすることで、将来に役立つのかなと思いました。また、失敗は次に生かせばいいということも学びました。人間は、絶対に失敗する生き物です。しかし、その失敗を次に生かすか生かさないかが成功した人と、また同じ失敗をした人のちがいのだと分かりました。ぼくも、失敗することはあるけど、なぜ、失敗したのかを考えて、次に生かすことのできる失敗にしたいです。そして、同じ失敗は絶対に繰り返さないようにしたいです。そうしたら、植松さんのようなすごい人になれるのかなと思いました。その他にも、様々なお話を植松さんは教えてくださいました。このお話をこれからの生活に生かしていきたいなと思いました。そして、植松さんの話を大切にしていきたいです。

ロケット作りでは、火薬で飛ぶロケットを一人一個ずつ作りました。ロケットの材料を簡単に手に入るものばかりでした。作り方もけっこう簡単でした。ロケットの中には、マ

シュマロのようなもの二つとパラシュートを入れるだけでした。しかし、パラシュートの入れ方のちがいできれいにパラシュートが出るか出ないかが決まるということでした。ロケットを飛ばす時は、ロケットに火薬をつけました。それを、発射台にセットしてもらいました。そして、ボタンをおすと、とてつもないスピードでロケットが発射しました。そして、パラシュートを開いて、ゆっくりと落ちてきました。ロケットを発射してから着地するまでとてもきれいにパラシュートが開いていました。

ぼくは、ロケットがこんなに簡単に手に入るものでできているとは思いませんでした。だから、植松さんが言っていたように東大生などの頭がいい人じゃなくても、ふつうの人でもできることはあるのだなと学びました。また、難しく考えなくても簡単に考えればロケットが作れたように、できることもあるのかなと思いました。小さなロケットだけど、あんなに高く飛ぶのですごいなと思いました。また、パラシュートまで出てくるので、植松さんはかなり苦労して作られたらと思うなと思いました。それに、いろいろな工夫をされていると思います。だから、ぼくは何事にも工夫をしてやっていきたいです。

## あきらめず、やり遂げたい

壬生小学校 石井 未咲

私は、今回、何度失敗してもすぐあきらめずにやり続ければ成功できるということがわかりました。

私は、今のところ夢が決まっていませんでした。今、夢がないから夢が決まるまで自分の好きなことをやっていこうと思いました。好きなことは、さいほうと料理をすることです。好きなことを夢にすれば、楽しく出来ると思うのでさいほうか料理に関わることがいいなと思います。それで、**新しくできた自分の夢が成功する、できるようにと思いつながら**

この体験をまっていたました。

ついにロケットを飛ばす体験をさせてもらいました。ロケットを作る前に植松さんの話を聞きました。植松さんは、ロケットを作り、飛ばして、今はロケットも人工衛星も作れるそうです。でも、今まで植松さんはロケットを飛ばすときに何度も失敗したのだそうです。植松さんは失敗してもあきらめず考えていたそうです。植松さんは、「やりたいこと、やったことがある人に会おう。」とおっしゃっていました。やった事が無い人は「どーせむり。」など、出来ないと思うからだそうです。

植松さんが子どものころ、いっぱい本を読んでいたそうです。その中で、考えるために本から美しい言葉を見つけ、学んでいたそうです。

私は、植松さんの話を聞いて、私もたくさん本を読み、たくさん美しい言葉を見つけ、取り入れていこうと思いました。私は、いろいろな本を読んでいけば自分の夢も見つかるのじゃないかと思いました。そして、私の夢は料理やさいほうに関わることなので、料理もさいほうもするお母さんおばあちゃんに、からないことがあれば聞いてみようと思いました。

私は、むずかしいことをする時に、「どーせむり。」や「できない」などを言わないようにしたいです。私は出来なかつたらすぐあきらめてしまうときがあります。でも、これから、植松さんのように、何度失敗してもあきらめないようにしたいです。失敗したら、次にどうしたら成功するかよく考えて何回も成功するまで挑戦したいです。

ロケット作りでは、植松さんが説明して作るのではなく、説明書を見て班で相談してつ

くりました。私は、説明書を見て作るの正直無理だと思っていました。でも、植松さんの話を聞いて、やっぱりがんばって挑戦してみようと思いました。袋をあけ、ロケットの部品、説明書を読みました。説明書をみながら、部品をくっつけてテープでとめるなど、夢中になってやっていました。思っていたより、とても楽しかったです。と中、よくわからない所がありました。パラシュートの所です。私は、山海島体験活動で仲良くなった友達に相談しました。いっしょにやって何とかできました。私は、相談してよかったですと思いました。それでロケットができました。マジックで自分の好きな絵などを描きました。私は、いろいろな色で星や丸を書いたり、横線などをかいたりしました。絵もかき終わって、自分のロケットができました。

いよいよロケットを飛ばすときがきました。私は、試し打ち上げをした時にとってもびっくりしました。なぜなら、思っていた以上に上にとんでいって、パラシュートがパンッと開いてゆっくり落ちてきたからです。試し打ち上げを見て、私はもっと早く打ち上げたい気持ちと、パラシュートが開かなくて失敗したらどうしようという不安な気持ちでいっぱいでした。いよいよ私が打ち上げる時がきました。いっしょに打ち上げる子と、カウントダウン

「3・2・1、発射。」

とボタンを押しました。いきおいよく真上に飛び、上手にパラシュートも開きました。ロケットはずっと遠くに飛んで行って遠くまで取りに行きました。だから、ダイビングキャッチはできませんでした。残念だったけれど、高く遠くに飛んで、パラシュートもちょうど開いたので今回は大成功だと思いました。

私はできないかなと思ったことは、やらないけど、今回の体験でできないかなと思ったことでも挑戦してみようと思いました。私は、植松さんはあきらめないでやってきたからこそ今の成功があると思うので、私も何か挑戦していて失敗したとしても、あきらめない人になりたいです。そして、思ったことをやりとげてみたいと思いました。

## 夢にむかってあきらめない

壬生小学校 古川 宇汰

「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」がいよいよ始まります。ぼくは、今回「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」で学んだことが三つあります。

一つ目は、「どーせ無理」を「できる」に変える方法です。「どーせ無理」を言われても、自分で思っても、あきらめずにするというのが、「どーせ無理」を「できる」にする方法だということを知りました。

二つ目は、自分が好きで興味があるものは、とにかくやってみるということです。とにかくやってみると、失敗することもあるかもしれないけれど、その失敗が重なることで、成功につながってくるし、大人になった時のためにもなるからです。

三つ目は、「思うは招く」という言葉です。思っていることは、すぐではないけれど、いつか起こるということを知りました。それに、思うことで、夢への意思が強まることを学びました。

ぼくが体験に行く前にもっていた自分の夢は、サッカー選手になることでした。ぼくは今、「AC・CAVATINA広島」というチームに入っています。ぼくは、サッカー選手になり、日本だけでなく、外国のサッカーチームでもプレーして活やくするのが夢です。そのために、家で走ったり、父さんと練習をしたりもしています。

植松さんは、

「ロボットに出来ないこと、それは考えること」  
とおっしゃっていました。現在、工場では、人の手ではなく、ロボットが作業をしたり、宇宙飛行士はロボットになりそうになったりしているそうです。ただ、そんなロボットにも弱点があるということをおっしゃっていました。それは、「考えること」です。ロボットには考えて言葉を発したり、行動したりする力はありません。でも、人間は、そういうことができます。それが人間の最大の武器だと思います。

そして、  
『うぜえ、だりい』なんか言っていると考えられなくなる。だから、本をしっかり読んで美しい言葉を学ぶことが必要だ。」

とおっしゃっていました。

「うぜえ、だりい」  
よく聞いたことがあるし、言ったこともあります。確かに「うぜえ、だりい」などを言っているとやる気をなくすなと思いました。でも、植松さんは、「本をたくさん読んで、美しい言葉を身につけるといいよ」とおっしゃっていました。本を読むことで、たくさんの言葉を学ぶことができるので、時間があれば本を読んでみたいです。

植松さんの話を聞いて、ロボットにできないことが、自分にはできると自信を持てたし、「うぜえ、だりい」ではなく、本を読んで美しい言葉を身に付けようと思いました。

植松さんの話が終わると、いよいよロケット作りです。6人で1グループでした。色をぬることまで合わせて、1時間30分くらいでした。いよいよロケット作りのスタートです。失敗したら「やってもうた」というかけ声をかける約束でした。せい作をしていると、となりの子が

「ここどうするん？」  
と聞いてきました。ぼくは、  
「こうするんよ。」

と、自分のロケットを使いながら説明しました。すると、  
「ありがとう。」  
と言ってくれました。うれしかったです。今度はぼくが迷っていると、  
「教えてあげよるよ。」

と、さっきの子が教えてくれました。うまくできました。  
そして、ロケット飛ばし的时候は、知っている友達と飛ばすことにしました。  
「楽しみだね。」

「うん、どんだけ飛ぶかね。」  
「3・2・1！」

バンッ、大きな音とともに、天高く飛んでいきました。数十メートルは飛んでいました。飛んだしゅん間、「うわ、すごい。」と思いました。

今回のロケット作りと飛ばす時に学んだのは、どんなに無理だと思っても、まわりの方が声をかけてくれるとやる気がでるし、植松さんの話にあったように、こうするとできるかもしれないと思うことが必要だということでした。

これからの生活の中で、今回学んだたくさんのことを使い、夢に向かってあきらめないように頑張りたいと思いました。

## 夢に向かって

八重東小学校 梅尾 大輝

「バチッ」「ヒューン」「バン」ぼくのロケットが上がった。

今、「ふるさと夢プロジェクト」のロケット飛ばしをしている。ぼくのロケットは、空中でパラシュートを開き、無事帰ってきた。

午前中は、植松さんの話を聞き夢の大切さを知った。

植松さんは、全国各地での講演やモデルロケット教室を通じて、人の可能性を奪う言葉である「どうせ無理」を無くし、夢をあきらめない事の大切さを伝える活動をしておられる。

演題にある、「思うは招く」これは植松さんが中学生のとき、お母さんが教えてくださった言葉だそうだ。思ったらそうなるという意味で、思い続けることが大切であるということだと知った。

植松さんは、小さい頃から飛行機やロケットが好きで、紙飛行機を作ることにのめり込んで、自分で設計して飛行機を作ったそうだ。中学校の進路相談で

「飛行機やロケットの仕事がしたい。」

と言ったところ、

「ばかじゃないの？お前の成績で出来るわけないだろう？というか、この町に生まれた段階で無理だわ。」

と進路の先生に言われたそうだ。

「飛行機やロケットの設計は、東大出じゃないとできるわけがない。」

と言われたそうだ。しかし、植松さんの心の中にいたライト兄弟が「僕たちは東大に行っていないよ」とさきやいたそうだ。植松さんの話を聞きながら、ぼくは、自分の夢と重ね合わせて考えてみた。

ぼくの夢は、内村航平選手のようなオリンピックの選手になることだ。内村航平選手の演技はとてもきれいだ。でもぼくの演技は「きたない」とよく言われる。ひざやつま先が伸びていないからだ。ぼくは、コーチに、

「お前じゃ伸ばせない。」

と言われた。だから、練習方法をかえたりして、伸ばす努力をしている。いつか、コーチに

「お前じゃのばせない。」じゃなくて、「お前、きれいな演技だな。」と言われるくらいの演技をしたい。

今考えると、ぼくは、人の夢を壊すようなことを言っていた。弟に、

「オリンピックに出たい？お前じゃ無理だろう。」

と言ったのを思い出した。植松さんの話を聞いて、「自分が出てもいけないのに、どうしてそんなことが言えるんだ。」と思った。

誰にだって可能性はある。そのために日々の練習を頑張って、一步一步、一步一步夢に近づけていきたい。

ぼくは、ぼくとほとんど同じ夢を持った人を知っている。体操の漫画、「ガンバフライハイ」の主人公の藤巻駿だ。中学1年のときから、オリンピックに出たいと言っていて、わずか7年でオリンピックに出ている。ぼくも、努力に努力を重ね、オリンピックに出たい。

今日の話聞き、一生懸命練習をしていることは、夢につながると思った。夢はかなうという希望を持つことができるものだった。

僕は、今、植松さんに出会えてとてもよかったと思う。もちろんこれまでも自分の夢に

向けて努力をしてきたが、今がんばっていることへの自信につながるものとなった。これからも、自分の夢に向けて努力していきたいと強く思った。

今回の植松さんの話を聞いて、夢をあきらめないことの大切さがあらためてよくわかった。この話を聞き、ぼくは、自分の「オリンピックに出たい」という夢に少し、自信がついた。

講演のあとは、ロケット作りだ。説明書を読みながらがんばって作った。しかし、ぼくは一人ではできないところがあった。となりの人に手伝ってもらった。とてもうれしかった。だから、ぼくもちょっと隣の人を手伝った。その後も隣の人が困っていたが、自分はできていたのに声をかけて手伝うことができなかった。もっと積極的に声をかければよかったと思った。新しい友達を作るチャンスであったのに、と後で思った。

## ふるさと夢プロジェクト

八重東小学校 宮庄 遥

ふるさと夢プロジェクトでは、植松さんのお話を聞いたり、ロケットを作ったりしました。私は、この夢プロジェクトに参加してとてもよかったなと思いました。

学校紹介が終わり、いよいよ、植松さんの講演が始まりました。私はどんな話なのか、わくわくしながら待っていました。まずは、ロケットの開発についてのお話でした。自分たちがどんな思いでロケットを飛ばしたのかについて、お話されました。

私が、植松さんのお話で、いちばん心に残ったことは、「どうせ無理」をなくして、「夢をあきらめない」ことが大切だということです。

この言葉で、人間の可能性が奪われてしまうということです。私たちは、せっかく、あきらめ方を知らないで生まれてきたのに、夢を目指していても、誰かに「どうせ無理」といわれたりすることで、夢をあきらめてしまうということです。

「どうせ無理」がなくなれば自分を責めなくなったり、いじめなどもなくなったりするのではないかとも言われました。

また、植松さんが話された中で、もう一つ心に残っていることがあります。それは、「やったことのない人に聞いてもだめ。やったことがある人に聞く。」という言葉です。確かにやったことのない人に聞いても、「それは無理だろ。」

と、無理やだめだろうという言葉が返ってくると思います。どうしたらいいかと悩んだときは、やったことがある人に聞くことが大切なのだと思います。

他にも、我慢をあまりしないことも夢につながるといわれていました。この話を聞きながら、私は、ついつい、

「私にはできない。」

「どうせ無理」

とマイナスなイメージで物事を考えたりすることがあると思いました。そういう時は、今回の植松さんのお話を思い出して生活していこうと思いました。

また、「ゆっくりでもいいから夢をしっかり持つ。」

ということも言うておられました。

私は、将来、人の役に立つ仕事につきたいと思っています。しかし、まだ具体的にこんな仕事がしたいということがはっきりしていません。これから、どんな仕事があるかを調べていきたいと思っています。「総合的な学習の時間」に、「12歳の夢さがし」というテーマで学習をしているので、少しずつ自分の夢を、具体的なものにしていきたいと思っています。



そして自分の夢を持ちそれに向けて、進んでいきたいと思いました。

次は、ロケット作りです。班の人全員が初めて出会った人でした。だから、何も話せませんでした。そこは少し心残りです。私は、日ごろからあまり自分から人に話しかけることができいていません。だから、今回のこの夢プロジェクトで新しい友達ができたらいいなと思っていました。自分からはなかなか話をするにはできませんでしたが、ロケットを上手に作ることはできました。

ロケットは午後から打ち上げをしました。

みんなのロケットは、勢いよく飛んで行き、空でパラシュートを広げて降りてきました。初めて打ち上げを見たときは、どんなふうに飛んでいくのかと、とてもドキドキしました。ロケットは、私が思っていたよりはるかに高く打ちあがり、大きな音を出し勢いよく上がっていききました。

私の番がだんだんと近づいてきます。前の人一人減って行くたびに、ドキドキが大きくなりました。いよいよ私の番になりました。発射ボタンを勢いよく押すと、私のロケットは、勢いよく空高く飛んでいきました。心の中で、「やったー。」と、叫びました。とてもうれしくなりました。パラシュートが開くのを見届けて、落ちてきているところまで猛ダッシュをしました。他のグループのロケットもたくさん飛んでいましたが、私は、自分のロケットを見事キャッチすることができました。このこともとてもうれしかったです。ロケットの打ち上げが成功したのでよかったです。

今回の「ふるさと夢プロジェクト」は、参加してよかったと思える会でした。

植松さんのお話は、これから、自分の夢さがしをしていく上で、希望の持てるお話でした。これからもこのお話を思い出しながら生活して行こうと思いました。

ロケット飛ばしも楽しかったので、学校でも飛ばせたらいいなと思いました。

## ふるさと夢プロジェクト

八重東小学校 喜多下 晴海

北広島町内の小学6年生が集まって行われた、「ふるさと夢プロジェクト」。ロケットを飛ばすと聞いていましたが、どんなロケットなのだろう、どのくらい飛ぶのだろうかとても楽しみにしていました。講演会もあると聞いていたので、どんなお話を聞けるのかわくわくしていました。

私は、この夢プロジェクトで夢をあきらめないことの大切さや「どうせ無理」をなくさなければいけないということを学びました。

最初は学校紹介でした。どこの学校も工夫された発表でした。私たちは、終わりから2番目なのでうまくできるかなと、ドキドキしながら順番を待ちました。いよいよ私たちの番です。八重東小学校は、いま学校生活でがんばっていることや、総合的な学習の時間に取り組んでいることを中心に発表をしました。練習のときのように大きな声で、私たちの学校の魅力が伝わる発表ができたと思います。

次に、北海道から来られた、植松電気の植松さんによる講演会が始まりました。植松さんは、自分の小さいころのお話や夢を持ち続けたことについて、分かりやすく話してくださいました。

私はこのお話で、「夢をあきらめないこと」「どうせ無理をなくすこと」「我慢をしないこと」の大切さを学びました。

「夢をあきらめないこと」は、自分の意志を貫いて夢をかなえることにつながるということが分かりました。植松さんは、そうした思いを持ち続けることでロケットを飛ばすことがで

きたのだそうです。そのことを聞いて、夢はあきらめないで、持ち続けることが大切なのだと思います。

「どうせ無理をなくすこと」は、自分の可能性を広げることにつながるということが分かりました。どうせ無理と言ってしまうとそこで終わってしまいます。だったら次はこうしようと、あきらめず広げていくことがなにかにつながるはずだと思います。

「我慢をしないこと」は、そうすることで、自分の夢をかなえることができるからです。植松さんは、我慢をあまりせずロケットを作ることができたので、すばらしいと思いました。

他にも、植松さんが話された中で、心に残っていることがあります。それは、「人は、やったことのないことにしか出会わない。だから人は必ず失敗をする。失敗したらどうすればよいかを考えることが大切である。」という言葉です。

それを聞いて私は、確かにそうだと思います。私は、失敗したらどうしようと思って、いつも失敗を恐れてなかなか新しいことに挑戦しようとはしていませんでした。失敗してしまったら、「もういやだ」「どうせ無理」とあきらめていました。でも、今回の話を聞いて、「そうか。やったことがないのだから、失敗をして当たり前だ。」と思えました。

これからは、失敗した後、どうすればよかったのかを考えていきたいと思いました。

また、「やったことのない人に聞いてもだめ。やったことがある人に聞く。」という言葉も心に残りました。確かにやったことのない人に聞いても、無理やだめだろうという言葉が返ってくると思います。悩んだときは、やったことがある人に聞こうと思いました。

講演の後は、いよいよロケット作りです。説明書を読みながら、班の人と協力したり、自分で考えたりしながら、自分のロケットを完成させることができました。色を塗ったり絵を描いたりするのも楽しかったです。

午後から、みんなが待ちに待ったロケット飛ばしの時間がやってきました。最初、植松さんが作られたロケットを飛ばされました。すごい勢いで、空高く飛んでいくロケットを見て、すごく遠くまで飛ぶんだと思いました。飛んでいく様子を見ると、早く自分のロケットを飛ばしたいと思いました。みんなのロケットは、次から次へと、空高く飛んでいきました。私のロケットも、あんなに遠くまで飛ぶのかなと少し不安にもなりました。

そして、いよいよ、私の番です。「パラシュートがきちんと聞くかな。」「空高くちゃんと飛ぶかな。」「どうなるのかな？」と心の中は不安とドキドキでいっぱいでした。

「5, 4, 3, 2, 1」

と秒読みをした後、思い切り発射ボタンをおしました。

「やったー。」

空高くあがっていくロケットを見てとてもうれしくなりました。パラシュートが開くと、私は思い切り自分のロケットに向かって走りだしました。

見事にキャッチできたときは、とてもうれしくなりました。

私はこの日、たくさんのお話を学ぶことができました。どうせ無理だと思ったことはこれまでたくさんありました。しかし、お話を聞き、早くからあきらめるのはやめようと勇気もらうことができました。今日のお話をこれからの学校生活に生かしていきたいと思いました。

## 植松先生のお話から考えたこと

本地小学校 桐原 風花

私は、10月23日に「ふるさと夢プロジェクト」に参加しました。ロケット作りや作ったロケットを飛ばしたことで、学校紹介・・・そのどれもが心に残り、楽しかったのですが、その中で特に印象に残ったのは植松先生のお話です。

先生のお話はとても面白く、私も何回も笑ってしまいました。ですが、その中にこれから生きていく上での大切なことが含まれていました。例えば、次のようなことです。

- ・嫌いなことや嫌なことときちんと向き合うこと。
- ・全ての人間にとって「自信」というものがとても大切だということ。
- ・夢があれば、それが自分の支えになり、結果としてその夢がかなうということ。

今、私は自分の将来について時折考えることがあります。ですから先生の言葉がすごく心に響きました。「6年生」という一つに節目に大切なことを学べて、本当によかった。心からそう思っています。

それで、私はその日家に帰って、もう一度「私にとっての『夢』とは何だろう。」と考えてみました。私にとっての『夢』とは、「人生に目印」のようなものなのだと考えました。もし人生に目印がなければ、人はみんな迷ってしまうと思います。毎日毎日、適当に生きていくようになります。そして年をとってから、「ああすればよかった。」「こうすればよかった。」と後悔してしまうのです。しかし、人生の目印があれば、それを目指しての日々の努力があり、そこからたくさんの道、つまり可能性が広がっていくと思います。一人ひとりが人生の目印としての目的地を目指し取り組み、一人ひとりが納得のできる人生を歩んでいくことができるのです。だから、人生の目印はとても大切なものです。

ところで、私には夢があります。その夢とは、テレビ番組の裏側で働くことです。その中で、私はAD(=アシスタント・ディレクター)になりたいと思っています。私が思うようになったきっかけは、6年生の社会見学で訪問したテレビ局です。テレビの生番組も見て、番組を作っていく裏方の方々の働く様子も見学しました。その時に、私は番組の構成を取り仕切るADのすばらしさを知りました。番組自体を作りあげていくリーダーシップの働きはとても大事です。私は現場の人のお話を聞きながら、そのことを理解しました。そして、その仕事にあこがれました。こういう体験は初めてで、強く心に残っています。その結果、「絶対にADになる!!」と決意したのです。だから、今その土台になる勉強をがんばっています。とにかく、これからの学校生活全てにおいて、私にとっての大きな夢に向かってがんばっていかうと考えているのです。

私は、植松先生のお話を聞きながら、私の夢の実現について真剣に考えていました。その中で、「夢」の意味と共にその夢をかなえるために必要不可欠なものがあることに気づきました。植松先生は、みんなを笑わせながらもお話の中でちゃんとそのこともメッセージされていました。それは「自信」です。自信のない人は、自分のプライドを保つために、あるいは他の人より上に立つために、「君は無理だよ。」とか「あきらめた方がいいよ。」とか、心ない言葉で他人の自信まで奪っていつてしています。私自身何回かそういったことを体験してきました。そういう言葉にふれたならば、元気がなくなります。「どーせ無理」と思ってしまいます。その結果どうなるのでしょうか。当然自分の夢に自信のない人が増え、投げやりになった人は他人を傷つけます。そして争い。そういった状況は、つまり一人ひとりの可能性を奪っていつているのだと思います。実際そういう現実は少なくないです。でも真実は、違うことに気づきました。他人の心ない言葉で、もし「自分には無理だ。」とってしまったとしても、その夢につながっている道は無数にあるのです。自信を持っ

て取り組みば、きっとどんな夢も叶うと思います。今私は先生のお話を聞いて、そのように思いました。

私は、もし今回の「ふるさと夢プロジェクト」がなかったとしたら、もし植松先生のお話がなかったとしたら、私の中での夢はあやふやなままだったと思います。そして、いろいろな状況の中で自信をなくして、夢をあきらめていたかもしれません。

今日のプロジェクトに参加できて、大切なことを学べて本当によかったです。そして、このプロジェクトを企画してくださった人達全員に、植松先生に改めて感謝します。

## 植松さんのこと、一生忘れません

本地小学校 藤岡 琉心

いよいよ楽しみにしていた「ふるさと夢プロジェクト」の日です。先生から、その日「自分で作ったロケットを飛ばす。」と聞いていたので、(でっかいのかな?)とっていました。

でも、講演会で植松先生は「小さいのを作る。」とおっしゃっていました。その時、(小さいロケットでは、ちょっとしか飛ばんでしょう。)としました。

実際にロケットを作る時に、目にしたのはちょっと複雑な説明書。(自分にできるのかな。)と思いました。同じ班の人は知らない人達ばかりでした。それでとても緊張して、話をすることはほとんどできませんでした。自問自答しながら説明書を頼りに何とかロケットを作りあげることができました。がんばって何とか形にすることはできました。でも不安。多分パラシュートは開かないだろうな。そうあきらめかけていました。そんなことをチラッと思いながらロケットを作りました。

その内に、だんだんとお腹がすいてきました。時計を見てみると、何といつの間にかすでに40分も経っていました。その時に思ったのです。ロケット作りには、けっこう没頭してきたのだなあ。知らない人達には相談はできなかったけれども、説明書を頼りにロケット作りに没頭できた40分間でした。

そしてお昼。お弁当がめっちゃ美味そうに思えます。実際、ご飯は新米、フルーツはプルプル。美味かったです。そして、おかずは「母の味」というやつですかね、とても美味しくいただきました。中でも一番は、「スパゲッティ」です。お母さんはフォークを準備してくれていました。やっぱりフォークで食べるのが一番おいしいですね。でも、そんな事を考えていた時に、植松さん達は、わざわざロケットを一つひとつ点検してくださっていました。本当に飛ぶのかどうかの確認だな。2階席から弁当を食べながら見ていて、そう思いました。

昼食時間も惜しんで点検してくださっているんだな。

そういうことをしてくださる植松先生達を、ぼくはますます尊敬しました。

さて、お弁当の時間も食べ終わり、いよいよロケット飛ばしの時間です。運動公園で実際に飛ばします。体育館から移動を始めます。自分の作ったロケットが本当に飛ぶのだろうか。そういった緊張感が体を走ります。フーッと一息。覚悟を決めて一步一步運動公園まで歩いて行きました。でも不安でした。この時も自分のロケットが本当に飛ぶとは信用していませんでした。

運動公園に着きました。ロケット作りの作業班毎に集合しました。まず手本として植松さんのロケットを飛ばしました。やはりきれいに飛びました。

ちょっとしか飛ばんでしょう。

そう思っていたのは間違いでした。かなり高い所まで飛んでいったのに感動しました。

しかも超高速で！でも、ぼくのは大丈夫だろうか……。不安でした。

さて、いよいよそれに続いてぼく達6年生の番です。植松さん達が点検してくださったおかげでしょうか、みんなきれいに飛んでいきます。どんどん進んでいってぼくの出番は、後2番目になりました。ぼくのはだめかもしれない。ドキドキしてきました……。ついにぼくの番がきました。

安全確認、よし！

そういう声が響きわたりました。ぼくは、スイッチを押しました。絶対に飛んでくれ。そう願って3秒くらい押し続けました。シューッ！！その音と共にすごくぼくのロケットが空高く飛びました。すごく飛んだ！もううれしくてたまりませんでした。よくやった！すごいぞ！！よし、早く降りてこい。ぼくはロケットの降りてきそうな場へ一目散に走って行きました。降りてきたロケットをキャッチできました。そしてキャッチして思ったのです。

よくやった、ぼくのロケット。無傷でいてくれて、ありがとう！

植松さんのお話も面白くてすばらしかったけれども、不安でたまらなかったロケット飛ばし、これが成功したのです。感動と感謝でいっぱいになりました。だから、閉会式で八重東小学校の人が感謝の気持ちを述べていましたが、ぼくも全く同じ気持ちでした。

植松さん、ありがとうございました！！

ぼくは、多分植松さんのことを一生忘れないと思います。

## たくさんの感動がありました

本地小学校 岩崎 千乃

10月23日に総合体育館で「ふるさと夢プロジェクト」がありました。

先生からプロジェクトの内容は聞いていました。自分のロケットを作る。これにはびっくりしました。本当に自分で作れるの？どんなロケット？本当に打ち上げができるの？期待と不安でいっぱいでも期待の方が大きくて。こんな気持ちを持ちながらバスに乗り込みました。到着してみると、まだ他の学校の人達は、あまり着ていませんでした。さっそく八重東小学校の人達と体育館2階の場所取りをしました。

それからけっこう時間が経って1階のフロアへ下りました。そして自分のイスに座りました。いよいよ開会式です。開会式では学校紹介があります。各学校の紹介が始まりました。他の学校は、6年生全員で発表していました。私の小学校は、友達の新谷さんが一人で発表します。本地小学校の番になった時に、新谷さんが一人で「ハイ」と応えました。その時に、他の学校人が「一人で発表するんだ……。」「とつぶやいていました。こんな大きな舞台上、一人で発表する。その人はそのことにビックリしていたのでしょうか。私も他の学校の人達がみんな発表する様子を見ながら、(本地小学校は新谷さん一人だ。一人でだいじょうぶかな。)と思いました。でも、新谷さんは、堂々と立派に発表していました。初めは発表が成功するか不安だったけれども、新谷さんは落ち着いていました。ホッとしました。新谷さんの発表は、とてもすごかった！それに発表が終わってからの拍手もすごかったです。私の右側におられた大人の人も、「すごいな。」と言っておられました。それほどすごかったのです。発表は、大成功でした。私は、一人で、しかも大きな舞台上で発表できる新谷さんは、本当にすごい！改めてそう思いました。私もいつか新谷さんみたいになりたいです。

○次に、植松先生のお話をお聞きしました。先生のお話はとても面白くて、笑いにもオチがあり、でも大切なことがいっぱいあって、話が終わるまで一生懸命聞けました。先生の

お話を聞いて一番心に残ったのは、「どーせ無理」の言葉です。私は、（自分なんてできない。）と思ったことは何回もあります。他の人から「お前にはできんだろう。」と言われたこともあります。でも！・・・先生の話をお話している内に、「自分なんてできない。」という気持ちや他の人の「お前にはできない。」という言葉の乗りこえたら、きっといいことがあるんだ、と思いました。先生のお話で分かったのですが、私に対して「だめだろう。」という人は、実際に自分で自分の目標に向かってチャレンジしたことのない人だったのです。そういう人が、私に向かって「だめ。」だと言うのです。だから、私は自分が決めたことはあきらめずに前を向いてやっつけていこうと思いました。

次は、いよいよロケット作りです。私は11番の班でした。その班で知っている人は、2人いました。でも緊張してしゃべれませんでした。ロケットの色付けは、水玉にしました。色は、赤・青・黄・むらさき・緑です。私の大好きな歌手の「嵐」のメンバーの色にしました。ところで、ロケットを作っている途中に、となりの男子が、「ここはどうするんですか。」と聞いてきたので、「ここはこうするんよ。」と言いました。「ありがとうございます。」と言われたので、「どういたしまして。」と応えました。その時、私はとても緊張しました。何しろ全く知らない人だったので緊張しました。でもそういった形で知らない人と交流できたのは、うれしかったです。

最後は実際にロケットを飛ばします。私は、同じ学校の後さんと同じ列でした。一緒に取り組めるので安心しました。いよいよ私の出番。カウントダウンが始まりました。赤いボタンを押しました。すると、勢いよく私のロケットは飛んで行きました。成功しました。あんな小さなロケットでも飛ばせるんだ。その時に初めて分かりました。落ちてきたロケットは少しいたんでいました。それで、友達と一緒にそれぞれロケットを直しました。ずっと記念にして大事にしたい、そう思いながら。

その後、いったん学校に帰り一斉下校しました。私は調べてみたいことがありました。だから、友達と別れてから走って家に帰りました。さっそくパソコンで植松先生のことを調べてみました。私が調べてみたかったのは、植松先生のことです。先生は私にがんばる勇気をくれた人です。お話を聞いて、とても元気になりました。感謝です。そして先生のことを、先生の考えをもっと知りたくなったのです。調べてみると、先生が書かれた本が紹介してありました。

やっぱり先生は偉い人なんだ。

私は、これから先生の書かれた本を読んでみようと思っています。

## 人のことを考えて行動すること

豊平小学校 山本 悠太

「これから開会式を始めます。」

このあいさつで、北広島ふるさと夢プロジェクトが始まりました。夢と希望を乗せて空高く打ち上げるため、本物のロケット作りのスタートです。

6年生の夢プロジェクトは、植松電機の植松先生の講演を聞き、ロケットの製作・打ち上げを行うというものでした。しかも、そこで初めて会う同じ北広島町内の6年生とグループになり、協力してロケットを作ります。だから、ぼくはいろんな人と仲良くなるため、「がんばって話すぞ。」と思い、わくわくしていました。全然落ち着かず、開会式の前からとなりに座っていた別の学校の人に話しかけ、さっそく友達を作っていました。

開会式が終わると、植松努先生の講演でした。初めに自己紹介をしてくださり、本題に入りました。まず、先生は、自分の好きなものをたくさん話されました。先生はどんな人



か、どんな特ちょうがあるか知ることができ、とても面白くて優しい人なんだなと思いました。講演で印象に残っていることは、三つあります。

まず一つ目は、「思いは招く」ということです。「病は気から」と同じようにずっと思っていると、いつかその通りになるということ。だから、いつもやればできると思えばいいんだなあと思いました。

二つ目は、人はだれでも失敗するということです。「人生は一度しかない。一度しかないので失敗する。」という言葉が心に残りました。なぜかという、ぼくはたくさん失敗をしてきました。所属しているソフトボールチームの試合でエラーをしたり、打てなかったりすることがあり、怒られたことがあります。その時は、泣くほどくやしく、打てないのだからやめたいと強く思いました。また、算数の学習で失敗したこともあります。習ったことを理解していたつもりだったけど、それは分かっていたつもりになっていただけで、テストが返されると全然できていませんでした。テストが返ってくると、ひどい点数で落ち込みました。今でもしっかり理解せずにいたことを後かいています。しかし、植松先生は、「大丈夫。では、どうしてそうなったか考えてごらん。」と言われました。ふりかえると、エラーしたのは練習をあまりしていなかった、打てなかったのは素振りをあまりしていなかった、算数の学習も練習問題をあまりしていなかったなど、原因ははっきりしていました。だから、「失敗をしても大丈夫。どうしてか考える。できるようになることをあきらめない。」ということをお忘れしないようにしたいです。

三つ目は、人と接するときどうすればいいかです。そのキーワードは、「安心・自信・自由」です。安心では、人の言われていやなことを言わず、安心できる関係を築くことが大切と話されました。例えば、乱暴な言い方や人がきらいなことを言い方、失敗をばかにするような言い方をすれば、友達を傷つけます。友達の人生に関わる自信を失わせるわけなので、絶対にいけません。人のことを思い、人の気持ちを考えて話せば、安心して話すことができると思います。自信では、人の大切な夢ややる気をうばわないことが大切と話されました。人ががんばっていることをばかにしたり、けなしたりすれば、本気でがんばる気持ちが無くなってしまいます。そして、安心して自分がしたことができなくなってしまいます。これも人の気持ちを考えて話したり行動したりすれば人の自信をうばうことはなくなると思います。自由では、人をがっかりさせて学校に行かせない、人に指図して自由をうばうようなことをしないことが大切と話されました。したくないことをさせたり、好きなことをばかにされてがっかりしたりするのはだれでもいやです。だから、自分がやられたらどんな気持ちになるか考えて行動することが必要だと思います。この三つのことは、相手のことを考えればすぐにできることです。友達と仲良くするためにぼくも気をつけていこうと思いました。

講演会も終わり、ついにロケット作りです。初めは、みんなもくもくとロケット作っていました。パラシュートの結び方が分からないところがあった時、となりの人の作り方をしてみると、やり方が分かり、これがチームのいいところだと思いました。そして、色ぬりのところでは話がはずみました。好きな本の話やロケットの色のデザインの話などが色々な話をして面白かったです。みんなそれぞれ好きな色・デザインのロケットにしています。

そして、いよいよロケットの打ち上げをしました。初めてロケットの打ち上げを見て、すごく速いなあと思いました。順番を待っている間は、ロケットがちゃんと飛ぶか、パラシュートがちゃんと開くか心配でした。そして、ついにぼくの番。一番きんちょうした瞬間です。

「3， 2， 1， 発射！」

「シューーーー！！パッ。」

打ち上げは成功です。ロケットはとても高く上がりました。無事パラシュートも開きました。

「やった！」

思わず声が出て、ぼくはガッツポーズをしました。となりを見ると、同じ班の子も空を見上げていました。すぐにロケットを追いかけました。すごくきんちょうしたけど、自分のロケットを飛ばすことができ、感動しました。同じ班の友達も打ち上げを成功し、班で協力して成功できた達成感を感じました。

この北広島ふるさと夢プロジェクトでは、植松先生の講演からたくさんの大切なことが学べました。また、なかなかできない貴重な体験をすることができました。さらに、全然知らなかった人とも友達になることができました。この経験を忘れず、中学校に行ってもこのようにいろいろな人と友達になり、どんどん交流していきたいと思います。

## ロケットを飛ばす！

豊平小学校 大田 菜月

十月二十三日、北広島町内の小学六年生が集まってロケット作りに挑戦しました。午前中は、植松先生による講演会やロケット作りがありました。午後からはロケットの打ち上げです。

夢プロジェクトの前日、担任の先生から、

「ロケット作りは、三十組に分かれて行きます。一人ずつ分かれてグループに入るの、自分のグループに豊平小学校の児童は自分だけです。」

と言われて、びっくりしました。私は、「知らない子と友達になれるかな、どうやって話しかけようかな。」と不安でした。

二十三日、いよいよ講演会が始まりました。講演会の題は、「夢があれば何でもできる」でした。講師は、北海道出身の植松努さんという方でした。小さいころから片目が見えにくく、小学生のころは体育の授業が苦手だったそうです。私が気になったのでは、植松先生の夢です。小学生から高校生までずっと将来の夢は宇宙飛行士だったそうです。でも、小学校のころの先生から

「あなたは無理。」

と言われて、心が傷つき、くやしかったそうです。でも、本を読んで勉強し、宇宙飛行士になれるように努力したそうです。私は、そのことから自分の夢をあきらめてはいけない、夢に向かって勉強すれば、必ず夢はかなうことを知って、これから夢に向かってがんばるという気持ちになりました。また、人を傷つける言葉を使うことはいけないということに改めて感じました。人がいやがることを言ってしまうと、その人は、「私は、この夢は向いていない。」と悲しい気持ちになるからです。私は、人の将来のことについて、悪口やいやな気持ちになるようなことを言わないようにします。

続いて、モデルロケット作りです。ロケット作りはグループの人たちと協力して作りました。私は他の小学校の子と話ができるか不安でいっぱいでした。私の班は女子が三人でした。他の小学校の女の子は、二人とも知り合いだった様子で、たくさんしゃべっていました。私は話しかけようとしたけど、その中に入れず、ロケット作りの時は、やっと一言話せただけでした。作り方で分からなかったことはなりにいた子に聞きながら作りました。初め、返事の仕方がすごくこわいと感じました。相手もきんちょうしていたのだと思いました。あまり話すことなく、でも、友達の作り方を見ながらロケット作りが進みまし

た。あまり話さないけれど、きんちょうは無くなってきていて、なんとなく班のまとまりが出てきたように感じました。無事、ロケットが完成し、みんなで記念さつえいをしました。完成したうれしさと達成感で気持ちはうきうきしていました。ロケット作りではあまり話せなかったけど、グループで一緒にできたと思いました。せっかくだから、もっと自分から輪に入っていけばよかったと思いました。でも、少し話せた大朝小学校の子や新庄小学校の人たちと仲良くなれてうれしかったです。

午後からはロケットの打ち上げでした。打ち上げる時、「ちゃんと上に飛ぶかな。ちゃんと手元に帰ってくるかな。」と心配になってきました。他の人のロケットを打ち上げてみて、思わず、

「わあー。」

と言ってしまいました。ロケットは、時速200キロで空に飛んでいきます。飛んだあとは、パラシュートが開きゆっくりと落ちてきました。自分の打ち上げは、ドキドキしました。ボタンを押すと、私が作ったロケットがすごい勢いで飛んで行きました。自分の打ち上げが終わって、人の打ち上げを観ていたら、みんなのロケットも空高く飛んで行きました。最初から最後まで自分で作り、打ち上げることができたので、達成感を感じました。今日だけでなく、これからも自分で何かをやりとげ、達成感を味わいたいです。

今日の夢プロジェクトのねらいは、講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ぶこと。ロケットを打ち上げる体験を通して、科学への興味関心を高めること。町内の児童が協力してロケットを作り、児童間の親ぶくを図ることでしたが、そのねらいは、達成できたと思います。また、講演から学んだ「自信・自由・安心」をうばってはいけないことや自分で「もう無理。」と思っはいけないことなど、自分でも考えてみたいと思います。私も自信を持って色々な事に挑戦し、友達をいやな気持ちにさせないようにしたいです。だから、自分がされていやなことは、人にはしないということを日ごろから気を付けていきたいです。また、他の小学校との交流があった時は、もっと自分から話しかけ、たくさん友達を作りたいと思います。

## 植松先生の講演会から学んだこと

豊平小学校 若狭 那月

私は、北広島町ふるさと夢プロジェクトで植松先生の講演を聞き、ロケット作り・打ち上げを行いました。

初めに、講演会を聞いて、たくさんを知ることができました。講師の植松先生は、「どうせ無理。」などのマイナス思考なことは言わず、「できる。できる。」と言えは思いは実現すると話されました。私は、すぐにあきらめず、何かに挑戦すればできることもあるから、何事にも挑戦していきたいと思いました。

その他にも、夢をたくさん持っていればどれか一つが無理になっても、他の夢を追い続けていけばいいという話を聞きました。私は、たくさん好きなことを持っていれば、将来の夢につなげることができるから、好きなことをどんどん見つけたいと思いました。また、人と接するときは、失敗をせめては、失敗をこわがるようになり、新しいことにチャレンジすることをやめてしまうようになると聞いて、自分の失敗や人の失敗があってもせめず、どうしたらよいか解決策を考えていこうと思いました。また、自分の好きな趣味を続けていけば、いつか趣味と同じ仕事ができるかもしれないということを聞いて、自分の好きな趣味の一つでも持っておけば、将来、自分の夢がない人でも、趣味が将来に役立つことが分かりました。今、私は、趣味がないので一つでも自分の趣味を見つけていきたいなと思

いました。

さらに、安心・自信・自由をうばってはいけないことを知りました。安心をうばうと、不安でずっと生活しなければなりません。自信をうばうと、失敗をおそれてしまい、自分の意見や考えが言えなくなります。そして、やる気もなくなってしまいます。自由をうばうと、自分のやりたいことができなくなり、イライラすると思います。どんなときも相手と接するときは、安心・自信・自由をうばってはいけないことがよく分かりました。私も気をつけていきたいと思います。また、暴力は、弱い人へと向かっていくという話も聞きました。自分よりか弱い人や小さな人に暴力をふるうといじめにつながるし、その暴力を受けた人には、とても悲しい、こわいなどの思いをさせてしまうので、暴力・いじめは絶対にあってはいけません。豊平小学校でも暴力・いじめを許さないことをみんなで守っていきたいと思います。先生のお話で、自分のこれからや将来の生き方について考えることができました。

ロケットを初めて飛ばした時の様子の動画や、成功したロケット打ち上げの動画など、たくさん分かりやすく教えてもらいました。植松先生も、ロケットを初めて飛ばした時は、爆発だらけだったけど、ロケットの打ち上げが成功した時は、ロケット打ち上げに関わった人たちみんなで、とても喜んでいました。そんな友達を私も見つけたいと思いました。

ロケット作りでは、他の学校の人たちと協力して作り、初めて会う友達とたくさん関わることができました。他の学校の人でも知っている友達もいたけど、知らない人がとても多かったです。でも、知らない人に自分から声をかけると、話がはずみました。作り方で、分からないところがあっても、班のみんなで助け合うことができました。話すことは、少しきんちょうしたけど、友達と協力してロケットを作ることができたので、楽しかったです。私たちが作ったロケットを飛ばす時、「ちゃんと飛んでいくかな。パラシュート開くかな。」と不安もありました。ロケットは無事、飛んでパラシュートが開いたときはとてもうれしかったです。

ふるさと夢プロジェクトのロケット作りでは、将来の夢のことや自分の生き方について考えることができ、北広島町内の小学生との交流が深めることができました。

## 北広島ふるさと夢プロジェクト事業の取組を振り返って

### 【プロジェクト全体に関わって】

- 北広島町の「人・もの・こと」や自分の将来などキャリア教育につながる幅広い活動が学年に応じて工夫されており、児童が興味関心を持って取り組むことができた。これらの活動を通して、地域への愛着を深めたり自分自身について考えたりする良い機会とできた。
- それぞれの学年で多様な体験活動が行えたことは良かった。ふるさとをもっと知るという意味において、身近なものでありながら意外と知っていないことも多く、北広島町ならではの自然、文化・芸能、産業等を学ぶことができてよかった。
- 町全体規模での事業とすることで多額の予算がつき、単独校や各ブロックでは体験できない感動のある貴重な体験をすることができてよかった。（ロケット打ち上げやカープ選手との交流など）
- 各学年の実態に応じて、町内の同学年の児童が一堂に会する場を持つことにより、同じ町内で学ぶ同学年の仲間の連帯感が生まれた。来年度以降も継続的な取組とすることで、より交流が深まっていくと考える。
- 少人数の学校では、北広島町にはたくさんの同級生がいるという実感を持つことができ、他校の同級生と話をするなど横のつながりができた。

#### 【来年度の実施に向けて(反省・改善点)】

- 実施時期・内容、運営組織・分担などについて、事前にしっかりと計画を練って事業を実施すること、時数のカウント等を含め細かい打ち合わせを年度当初にしておく必要がある。
- 各事業において、児童の交流時間が十分に持つことが難しい状況があった。北広島町内の児童の人間関係を築く活動の時間や内容を工夫する必要がある。
- 安全対策について、事前に十分に検討・対応、指導をしておく必要がある。
- 児童が主体的に事業に関われる工夫をさらにしていく。

### 【3年の「北広島 お宝発見・体験ツアー」について】

- 「ふるさとのお宝」を見つけようという“めあて”のもと、普段単独の学校では、見学・体験できない場所に行き、多様な学習ができたことがよかった。
- 聞いたことはあるが、実物を見る(感じる)ことができ、それが印象に残った児童が多かった。校区外の北広島町内にある物作りの会社や文化財などを見学できたことを、3年生の社会科の学習等に生かすことができた。
- 自分達の住む町を1校だけでは実施できにくい規模でめぐることができ、社会科や道徳の時間などの内容に関連する学習ができてよかった。
- 児童が地域をめぐることに対して、強い興味・関心を持って意欲的に取り組み、自分達の住む町により親しみを持つことができた。より一層北広島町の良さ(宝)を体感することで、町教育委員会、地域の施設・事業所等の全面的な協力を感謝をしている。
- 交流会において学校紹介の機会もあり、大勢の前で発表する自信につながった。町内の他の学校の取組や様子・同級生の存在を知ることができた。全体の交流会での学校紹介やゲーム、バス内での交流を通して、友だちができたことと喜ぶ児童もいた。

#### 【反省・改善点】

- 移動時間が長かったり見学する場所が多かったりしたので、十分に体験・学習する時間を確保することが難しい状況があった。
- 児童の交流を深めるために、全学校が一堂に会しての全体交流会の持ち方・内容について工夫する必要がある。
- 夏季休業中に実施したために参加できない児童がいた。実施時期・内容、重複する職員を担当、見学地についての調整などを、年度当初にしっかりと協議しておく必要がある。
- 見学・体験学習において、安全に実施できるように事前に詳細の対策・緊急対応などについて細かく確認をしておく必要がある。

## 【4年の「若鯉（カーブ）を応援して、真っ赤に燃えよう」について】

- プロ野球選手が活躍するところを身近で見られたことは貴重な体験であり、子どもたちのあこがれや夢につなげることができた。プロの技を直接見る機会となり、スポーツにも目標を持って取り組もうとする意欲を持つことができた。
- プロの動きや技術を目の当たりにでき、夢や憧れを持たせることにつながった。迫力やスピード感など、テレビ観戦とはまったく違っていることが、数メートルしか離れていないところで見られることは、とても貴重な体験であった。
- スポーツが好きな児童や、野球が好きな児童は非常に喜んだ。野球にあまり興味がない児童や野球観戦をしたことのない児童にとっても、プロスポーツ選手の迫力に触れ、新たなスポーツと出会う良い機会となった。どんぐりクラブ屋台村の配慮・協力等に感謝したい。
- 他校の児童と声を合わせて応援することにより、一体感を持つことができていた。4年生全員で一つになって応援するとともに、応援の途中には、隣の席に座っている児童同士で、体調を崩していないか声を掛け合ったり、誘い合ってトイレに行ったり、自分の持参したうちわで友達を扇いであげたりする場面も見られ、交流が深まっていく様子を見ることができた。

### 【反省・改善点】

- 開催日が長期休業中の日曜日であった。試合開催日が決まっているので仕方がないが、他の行事等のために参加できない児童が少なからずいた。せっかくの機会なのに残念であった。
- 他の観客・スケジュール・天候のことがあり、予定していた学校紹介、応援の合同練習・カーブ選手との交流会ができなかった。余裕のある日程・内容を計画していく必要がある。
- 熱中症対策など、児童の健康・安全について、細心の注意・対策をしていく必要がある。

## 【6年の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

- 植松氏の「思いは招く」の講演は、児童にとってインパクトのある話だった。夢を持って生きること、あきらめずに努力することの大切さについて、楽しく分かりやすく話をさせて児童に大好評であった。その後の生活や学習に生きる内容であり、来年度の6年生にも聞かせたい講演であった。
- このプロジェクト、特に植松氏の講演内容に感銘を受けた児童が多くて、自分の将来に対する意欲や生き方による影響を与えることができた。夢を持つことの大切さや人としての優しさがいかに大切であるかを学ぶことができた。
- 自分で作ったロケットが、ものすごい勢いで青い空に向かって発射されていった感動、北広島町内の同級生と同じ体験をしたということが、強く心に残る活動となった。
- ロケットを作って飛ばすという活動内容が、普段の生活ではなかなかできない刺激的なものであった。他校の児童とも交流しやすい場の設定・活動であった。
- 他の学校の友達と一緒に一つのものを作り上げ、ロケットを飛ばすことを通して、協力することの大切さや喜びを感じることができていた。
- 夢を持つことの大切さや人としての優しさがいかに大切であるかを学ぶことができた講演・体験活動であった。後日、各学校で6年生がロケットを再び打ち上げることができた。6年生に再び夢を、1～5年生にはあこがれを抱かせることができた。

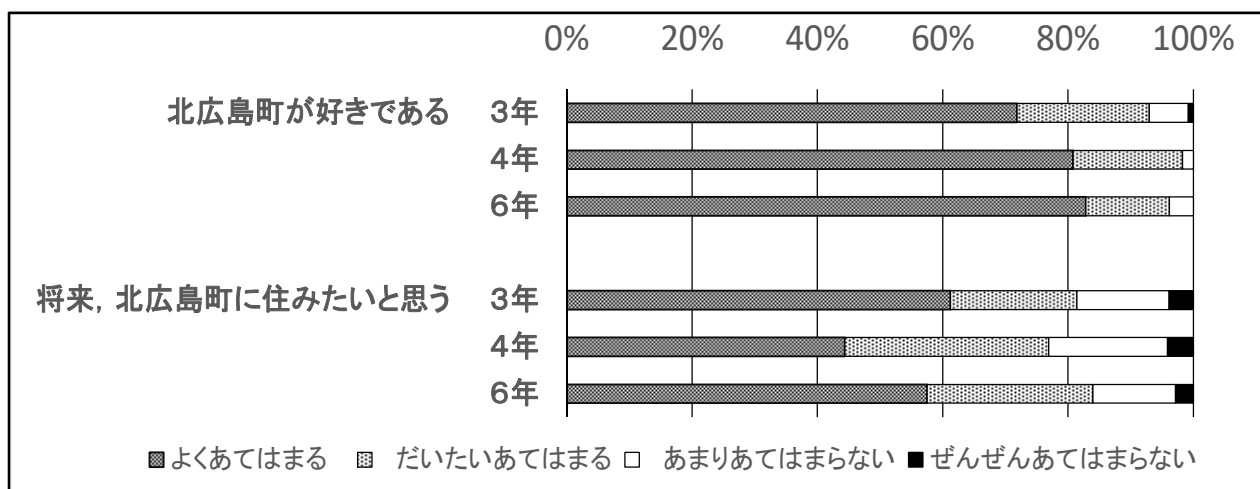
### 【反省・改善点】

- 児童が作ったロケットの発射前の最終点検に時間を要した。引率職員が、事前に点検の仕方等を理解し、計画的に点検をすることができれば、時間短縮と発射時のパラシュート落下を成功させる確率をより高めることができた。
- 他校の児童とつながりや「ふるさと北広島」へのつながりを深めるための活動内容（学校間交流・ロケット作りのグループ作業など）の工夫が必要である。
- 開催期日・詳細の実施計画（運営・安全など）等の事前協議を充実させる。



## 【ふるさと(北広島町)への愛着心等に係る「アンケート結果」について】

各学年で実施した「夢・感動体験事業」を実施した際に、体験活動についての振り返りアンケートとともに、「北広島町が好きである」「将来、北広島町に住みたい」という項目についてのアンケートも実施している。その結果は、次の通りである。



学年によりバラつきはあるが、9割以上の児童が「北広島町が好きである」と回答し、約8割の児童が、「将来、北広島町に住みたい」と回答している。

《6年生の回答より(多数の順)》

### 【「北広島町が好き」の主な理由】

- 自然(山・川・森・動植物)が豊かで住みやすいから。
- 北広島町の人がとても優しく親切だから。
- すばらしい伝統・文化・芸能(神楽・田楽等)があるから。
- 仲の良い友達がたくさんいるし、地域・他の学校の人と交流することが多いから。
- 自分が生まれ育った「ふるさと」だから。
- いろいろな行事・祭りがあり楽しいところだから。
- 事件や犯罪が少ない安全な町だから。

### 【「将来、北広島町に住みたい」の主な理由】

- 自然が豊かで心優しい人が住んでいて住みやすいから。
- 自分が生まれ育った古里だから(心が落ち着く所)。
- 自慢できる文化や伝統などがたくさんあるから。
- 仲のよい友達もたくさんできたし、いろいろな楽しい思い出があるから。
- 安全で安心できる町だから。

将来、北広島町に住みたい理由として、「自分が育ったこの町やお世話になった人達に感謝の気持ちを込めて恩返しをしたいから(6人)」「地元に残って神楽等の伝統芸能・文化を守りたいから(3人)」と回答をしている児童もいた。

「将来、北広島町に住まない」と回答している児童の大半は、「北広島町に住んでいたら将来の夢・仕事の実現できない」であった。続いて、「もっと便利(交通・施設など)に生活できる町に住んでみたい」「他の県や 都会での生活も経験してみたい」であった。

また、「以前は北広島町をはなれて、仕事をしたいと思っていたけど、今は少しだけ北広島町で仕事をしたくなってきた」「将来の夢を北広島町でかなえることができるなら、北広島町に住みたいです」と回答している児童もいた。このプロジェクト事業の取組や各学校の取組が、着実に児童の郷土愛を育み将来の北広島町を担う人材育成になっていることの表れと言える。

北広島町の若者定住施策と連動した「北広島ふるさと夢プロジェクト」、各学校における「ふるさと・キャリア教育」の来年度以降の充実が、更に望まれる。

## あ と が き

昨年は北広島町が誕生して10年経過した節目の年でした。教育委員会では合併してしばらくの間、学校統合や新校舎等の整備など教育環境の充実に取組んでまいりました。この間、住民の教育に対する願いとして、「大人になっても北広島に残る子供たちを育ててほしい」という声が多く聞こえてくるようになりました。

北広島町も全国に先駆ける形で少子化の波の中におり、町では若者定住に向けた施策展開が大きな柱となっています。若者定住施策をソフト面からサポートするのは教育の出番と考えています。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」と銘打って、今年度は小学校を中心としたプログラムを実施しました。9校ある小学校から同学年の児童が全員集まり、年数回の体験活動を通じた交流を行う中で、若者定住にむけた意識の醸成を図る取組を始めております。小学校3年生は「町内見学」、4年生は「若鯉応援ツアー」、6年生は「ロケット開発に携り、夢を実現した方の講演会」などを行いました。どの事業も同学年が集うことにより、普段の友人関係が拡大し、新鮮なものになりました。中学校も試行的に2校が事業を始めており、芸北中「茅プロジェクト」、豊平中「蕎麦打ちクラブ」など地域特性を活かした事業を展開しています。

来年度は、今年度の事業を検証し発展させながら継続します。中学校では本格実施を行うこととしています。また、各小学校区では新たなプログラムの立ち上げも計画されています。事業全体が大きく発展し、北広島町にいる1,500名弱の児童生徒がふるさとに夢を持つことのできるプロジェクトになるよう工夫を重ねていきます。

今後、地域と学校と行政が一体となったプログラムを展開していきますので、「北広島ふるさと夢プロジェクト」に対しご理解いただき、ご協力をお願いします。

平成28年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊  
副隊長 池田 庄 策  
(北広島町教育委員会教育長)